

令和4年度

研究紀要

第55号

研究主題

よりよい未来の創り手を育てる

新たな特別活動の展開（コロナ禍での実践）

東京都中学校特別活動研究会

研究紀要目次

研究紀要第55号に寄せて	1
会長 品川区立鈴ヶ森中学校 校長 滝沢 二三雄	
令和4年度の研究について	2
事務局長 葛飾区立小松中学校 副校長 瀬戸 完一	
研修会の報告	3
(1) 第1回研修会 令和4年8月1日(月) 江戸川区立松江第五中学校	
実践発表	
発表者 江戸川区立南葛西中学校 三枝 剛 主幹教諭	
葛飾区立常盤中学校 大橋 えり 主任教諭	
講義・協議	
講師 東村山市立東村山第五中学校 吉川 滋之 指導教諭	
(2) 第2回研修会 令和4年12月26日(月) 狛江市立狛江第一中学校	
生徒会長サミット・生徒会担当教員研修会	
講師 元全日本中学校特別活動研究会会長 佐々木 辰彦 加々美 肇	
第50回 全日本中学校特別活動研究会 東京大会 報告	15
第21回 東京都中学校生徒会長サミット 報告	25
会則	32
令和4年度 事務局員 名簿	34
創立60周年特集	
あいさつ 会長 滝沢 二三雄	37
祝辞	38
東京都中学校特別活動研究会『60年の研究の歩み』	45
東京都中学校特別活動研究会 歴代会長・事務局長	67
全日本中学校特別活動研究大会の歩み	68
創立60周年に寄せて(事務局員)	70

研究紀要第55号に寄せて



東京都中学校特別活動研究会
会長 滝沢 二三雄
(品川区立鈴ヶ森中学校)

研究紀要第55号の発行に当たり、本研究会を代表してご挨拶させていただきます。今年度、今研究会は、研究主題を「よりよい未来の創り手を育てる新たな特別活動の展開(コロナ禍での実践)」として研究と実践を重ねてきました。また、本年度は、本研究会が発足して60年の記念すべき年となりました。関係の皆様には、本研究会へのご理解とご支援を長年に渡りいただきましたことに感謝を申し上げます。

さらに、今年度開催いたしました第50回全日本中学校特別活動研究会・東京大会は2年ぶりに対面で実施することができました。開催にあたり、多大なご支援を賜り心から感謝申し上げます。

本年度は「新型コロナウイルス」感染拡大の防止対策により、教育活動が制限されて約3年が経ちましたが、徐々に規制も緩和され本来の教育活動に近い形で実践が行われました。学級活動、生徒会活動、学校行事にマスクをつけながらではありますが、一生懸命に対面で取り組む子供たちの生き生きとした姿が戻ってきました。また、保護者の皆さまにも子供たちの活動の様子をご覧いただけるようになりました。

そして今年度本研究会は、2回の研修会と第50回全日本中学校特別活動研究会・東京大会、第21回生徒会長サミットを開催し、多くの生徒や教員に参加していただくことができました。どの活動も対面での実施ということもあり充実した活動ができました。これらの活動の内容や成果につきましては、この研究紀要にまとめてございますのでご覧いただけると幸いです。

時代を担う子供たちに、自分に自信をもたせ、将来への夢や希望の実現に向けて、生きる力の育成を図ることができるよう、活動の充実や指導力の向上に向けて、本研究会としても今後も充実した情報発信ができるよう、努めてまいりたいと存じます。

今後とも本研究会の活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和4年度の研究について

研究主題

よりよい未来の創り手を育てる新たな特別活動の展開（コロナ禍での実践）

- 1 定期総会 令和4年5月28日（土） 江戸川区立松江第五中学校
オンラインとのハイブリッドで実施
- 2 研修会
（1）第1回研修会 令和4年8月1日（月） 江戸川区立松江第五中学校
実践発表
テーマ「自己実現のために必要な資質・能力を高める学級活動の工夫」
～自他の良さを認め合う話し合い活動を通して～
発表者江戸川区立南葛西中学校 三枝 剛 主幹教諭
葛飾区立常盤中学校 大橋 えり 主任教諭
講義・協議
「学級活動を基盤とした学級経営について」
「コロナ禍における特別活動の指導の工夫」
講 師 東村山市立東村山第五中学校 吉川 滋之 指導教諭
（2）第2回研修会 令和4年12月26日（月） 狛江市立狛江第一中学校
生徒会長サミット・生徒会担当教員研修会
講 師 元全日本中学校特別活動研究会会長 佐々木辰彦 加々美 肇
（3）宿泊研修会（中止）
- 3 第50回 全日本中学校特別活動研究会・東京大会
令和4年11月5日（土） 江戸川区立松江第五中学校
- 4 生徒会長サミット 令和4年12月26日（月） 狛江市立狛江第一中学校
- 5 事務局会 年間10回実施（江戸川区立松江第五中学校、品川区立鈴ヶ森中学校、
狛江市立狛江第一中学校）
- 6 会報発行 第101号、102号の発行
- 7 研究紀要発行 第55号の発行
- 8 東京都中学校特別活動研究会のホームページの運営

第1回研修会の報告

- | | | |
|---|-----|--------------------------|
| 1 | 日 時 | 令和4年8月1日（月） |
| 2 | 場 所 | 江戸川区立松江第五中学校 視聴覚室 |
| 3 | 内 容 | 平成30年度東京都教育研究員（特別活動）の報告 |
| 4 | 講 師 | 東村山市立東村山第五中学校 吉川 滋之 指導教諭 |

2年ぶりの夏季研修会を開催することができました。当日は滝沢会長からも、「やっとこの夏季研修会を開催することができました。コロナがまた流行してしまっていて、7月に入ってまた猛威を奮っています。しかし、なんとか今回開催できました。2年間開催できなかった分、今日はぜひ研鑽を積んでいただき、自校に持ち帰って、実践に活かしていただきたいと思います。」と挨拶がありました。



実践発表として、平成30年度の東京都教育研究員の研究内容の報告がありました。予定では令和3年度の夏季研修会で報告をしてもらおう予定でしたが、コロナ禍のため研修会が中止となり、今年度に延期する形となりました。報告は研究員であった江戸川区立南葛西中学校の三枝剛主幹教諭と葛飾区立常盤中学校の大橋えり主任教諭が行ってくださいました。詳細については東京都教育研究員のHPに報告書が記載されていますので、そちらも併せてご覧ください。

<https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/09seika/reports/files/kenkyuin/chu/toku/h30chu-toku.pdf>

平成30年度の東京都教育研究員の研究内容

研究主題は「自己実現のための必要な資質・能力を高める学級活動の工夫～自他のよさを認め合う話し合い活動を通して～」でした。今回の発表では、①研究主題設定の理由②研究方法③検証授業④成果の検証⑤研究の成果と課題の流れで説明されました。



研究主題設定の理由については、まずは教師の見取り、生徒へのアンケート調査を基に検討を進め、特別活動の3つの視点のうち、「自己実現」に着目することで「自信をもち、何事にも挑戦できる生徒を育てることができる」と考えたそうです。さらに、教師に対して行ったアンケート調査からは、「特別活動の意義が伝えられていない」「話し合い活動を主体的に行うための工夫が不十分」「学級活動を計画的に実施できていない」「振り返りなどの評価を効果的に行っていない」という実態があったそうです。特に、「行事を除く普段の学校生活での学級活動」について、その傾向が顕著であったそうです。そこで研究主題を「自己実現のための必要な資質・能力を高

める学級活動の工夫～自他のよさを認め合う話し合い活動を通して～」と設定したと説明されました。

そして、研究の視点として、

- (1) ねらいや意義の示し方の工夫
- (2) 話し合い活動を充実させるための工夫
- (3) 評価や振り返りを積み重ねることの工夫

の3点について学習過程を計画し、指導していくと設定し、授業内容は学級目標を題材として、「学級活動(2) ア自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」を主題とした研究を進めたと説明されました。

次に研究方法です。次の3つの実践を進めて研究を深めていきました。

- (1) 学級の目標達成のため、学級に関するアンケートを実施する
- (2) 自分のよさを生かした個人目標を立てる
- (3) 個人目標をもとに実践した活動を振り返り、相互評価を実施する

また、教材開発も進め、①司会原稿②短冊③掲示物④自己評価ワークシート⑤相互評価ワークシート⑥振り返りワークシート⑦ポートフォリオの7つについて効果のある教材を開発していました。

検証授業については、3回の内容が報告されました。検証授業①では、テーマを「学級目標の実現のために」、ねらいを「自他のよさを生かした学級生活を築こうとする態度を育てる」「自主的によりよい学級生活を築こうとする態度を育てる」として授業を行いました。教材開発した「司会原稿」「短冊」「ポートフォリオ」が活用されていました。授業後の生徒の感想からは「自分たちのクラスについて、真剣に考えることができた」「班員の意見に対し自分の意見をしっかり言えた」とあったそうです。

続いて検証授業②では、テーマを「学級目標の実現、中間の振り返りをしよう」、ねらいを「自己実現を図ろうとする態度を育てる」として授業を行いました。教材開発した「振り返りワークシート」や「自己評価ワークシート」、「相互評価ワークシート」を活用し、実践してきたことを振り返って互いのよさを認め合う活動を行っていました。生徒の感想からは、「自分のよさに改めて気付くことができた」「自分のよさをこれからの活動に生かしていきたい」とあったそうです。

最後の検証授業③では、テーマを「学級目標の実現 今までの活動を確認し、さらなる向上を目指そう」、ねらいを「個人目標を実現できるよう実践力の育成」として授業を行いました。教材開発した「掲示物」を活用し、話し合いの動機付けを強化して学級活動が進んでいました。生徒の感想からは、「学級目標達成メーターを作成し、視覚的に分かりやすくしたことにより、達成しようとする意識向上につながった」「互いのよさを伝え合うことを意識的に活動に取り入れることにより、自分自身に自信をもつことができ、また、相手のよいところに意識が向きやすくなり、コミュニケーション能力の向上が見られた。」とあったそうです。

次に成果の検証です。「人間関係形成の意識の変化」については、互いに認め合う関係を築くことが出来たそうです。生徒の様子から、「意見や考えの違いを肯定的に認められるようになった。」「自信を

もって自分のよさを集団の中で生かすことができた。」とありました。また、「社会参画への意識の変化」については、学級の課題に意識を向けるようになったそうです。生徒の様子から、「学級のよさや友達のよさを見付けることができた。」「話し合い活動を通して主体的に解決しようとする態度が身に付いてきた。」とありました。次に、「自己実現への意識の変化」については、互いに認め合う関係が作られ、主体的に解決を図ろうとする意識が向上したそうです。生徒の様子から、「自覚が高まってきている。」「生徒の主体的な活動が促進された。」とありました。

アンケートの分析からも、「私は自分のよさを学級活動で生かしている」は13ポイント上昇し、「私は学級活動を通して自分の成長を感じる」は6ポイント上昇、「友達のよさを認めて行動している」は7ポイント上昇したとありました。生徒の自由意見からも、「全員が意見を出して、その意見を尊重して話し合いが進められてよかった」「皆のおかげで自分のよさが分かり、新たな発見があった」「自分のよさを生かして積極的に人と関わりたい」とあったそうです。

最後に、研究の成果と課題です。成果は①自己実現に必要な資質・能力について②ねらいや意義のしめ仕方の工夫について③話し合い活動を充実させるための工夫について④評価や振り返りを積み重ねることの工夫について、の4点が説明されました。

課題は①「自己実現」「人間関係形成」「社会参画」の視点を踏まえた実践の継続②身に付けさせた力・目指す生徒像に基づく長期的な実践③各教科等における話し合い活動の充実④リーダーを育てつつ、日常生活の中でできる取組を考えた実践⑤「自分のよさ」を生かした活動の充実、の5点が説明されました。

全体を通して、「学級目標」に年間を通して着目し、自己実現のための資質・能力を高める学級活動を進めており、当時の研究授業では「学級目標達成メーター」を有効に活用した学級委員の説明で一気に教室の雰囲気が明るくなったことを思い出します。ありがとうございました。

報告後、さらに研究を掘り下げて、「研究が終わってからも実践が続けられていること」「生徒が輝いている場面が多くあること」など、特別活動のよさについても語っていただきました。質疑応答では、「学校現場で特別活動をどのようにして広めていますか」「学校になかなか来られない生徒に対する学級活動としてのアプローチは何かありますか」という質問がありました。前者の質問には、「勤務校の雰囲気がよくて、その後新たに研究員になった職員がいる。また、校内研究としても3年に一度領域を扱うのでそのこともあるのか、取り組みやすいと感じる。」「興味をもっている先生はいると思うので、そういう方には伝えやすい。また、学年主任の先生が良いなと思うと学年全体で取り組みやすい。一方で、興味をもってもらえない方もいるので、そういう方を巻き込むのは難しい。そのため、面白そうにやっていくことが大切で、興味をもってもらえるように進めていく。」という回答がありました。後者の質問には、「宿泊行事のような楽しみのある活動だと参加しようかなという意識が出てくる。そういうときに巻き込んでいく活動を増やす。」「不登校の理由が個々ばらばらであるので対

応は難しい。でも、教科の授業が苦手でもまずは学活から入ってみようと呼びかけて、登校のきっかけをつくっている。」と回答がありました。その他には、「どの程度まで生徒に任せたらいいのか」という質問もありました。これについては、「事前に学級委員としっかり確認し、助言も行うが、学活の時間が始まってしまえば生徒に任せていく。」「最初は司会原稿など作成してあげたが、回数をこなすうちに生徒が育ってくる」という回答がありました。

「学級活動を基盤とした学級経営について」「コロナ禍における特別活動の指導の工夫」

続いて、特別活動の指導教諭である東村山市立東村山第五中学校の吉川滋之先生から講義がありました。特別活動の中でも特に「学級活動」を中心に、実践を交えて解説していただきました。最後はグループワークを行い、各グループの発表に対して助言をいただきました。



(1) 学級活動 話し合い活動 「はなしあい」は「し」を書かない。「し」抜きでやる！

- ・ ルールの確立 → 誰も責めない、意見をよく聞く、アイデア大歓迎、お互いを尊重する、決めたことには協力して取り組む
- ・ 少人数グループでの意見交換 → 安心して話し合い活動ができる環境づくり、取組への真剣さや相手への温かさへも育ませたい
- ・ 賛成の意見が多い方が当然いい → やりたいものが多く選べる
- ・ 反対するのは簡単 → ～は難しいよね ～すると危険だから
- ・ マイナスなものは削り、残ったもので多数決 → 原則NG。本当にやりたいものがあるのに、意見や考えが選ばれなくなってしまう。また、考えの足跡が見えなくなってしまう
- ・ 国立教育政策研究所の動画（小学校特別活動映像資料）の紹介
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku/sho_tokkatsueizo/
→ 生徒にこういった動画を見せるのも有効な手段

(2) 議題について

- ・ 決定する議題 → （例）学級レク、どっちがドッジボールと鬼ごっこのどっちがよいか
- ・ 積み上げる議題 → （例）合唱コンを盛り上げるためにはどんな工夫があるのか、よいよい学級にするためにはどんな工夫があるのか
- ・ 「積み上げる議題」 → 話し合い活動を積み上げていくことによって、学級内で生徒それぞれの意見が生かされていき、学級のよさや考え方、合意形成や意思決定のための力をより高めていくことにつながる → そのための教師の事前の準備は必要不可欠である
- ・ 台本の提案 → 指導案の生徒版のようなもの。流れを把握する

(3) 基本的には多数決がないのが学級活動の世界

- ・「合意形成」 → みんなが納得、みんながちょっと我慢、みんながちょっとずついいという気持ちを育むことが学級活動での大きなねらい。少数意見が切り捨てられないようにするために話し合いをしているんだよということも指導上おさえておきたいところ。
- ・だから、そのための「話し合い活動」「学級活動」 → 多数決をしない決め方、折り合いをつける、譲り合う精神 → 異なる意見も尊重できて、みんなが納得解ができるように話し合い活動をする場が「学級会」である。

(4) 生徒への評価 思いやりの言動が光る生徒への賞賛、意見が変容した生徒への評価

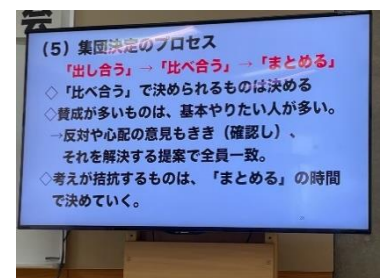
- ・〇〇さんの発言のおかげで少数意見の子もすごく楽しく行事に取り組んでいたよ
- ・ふてくされて自分の意見を変えた子も活動後にぜひ褒めていきたい → これらの積み重ねのよさが学級活動のよさでもある
- ・合意形成のための基本的な方法を教師も一緒に学んでいく → じゃあ、どうやったら少数意見の人も大丈夫ということになるかを皆で考えていく、相手に対する思いやりがあるかどうかも重要
- ・学級内の人間関係形成の合意形成 → 生徒たちが人と関わり合い、自分たちで楽しい学級活動にする

(5) 「議題」と「提案理由」が何より大事

- ・議題の集め方 → 議題箱（見える化がのぞましい）、議題の木（付箋で貼るなど）、学級アンケートの自由記述の整理など → 学期はじめなど、みんなで出すなど工夫する
- ・提案理由 何のために取り組ませるのかを意識させる → 生徒の思いに教師の願いをつなげる。そして具体化していく（難しい作業ではある）

(6) 集団決定のプロセス 「出し合う」「比べ合う」「まとめる」

- ・「比べ合う」で決められるものは決める
- ・考えが拮抗するものは「まとめる」の時間で決めていく
- ・教師がどれだけ指導に入るのか
- ・教師の入る場所 → 話し合いが停滞したとき。提案理由に沿った話し合い活動に方向付ける
- ・話し合い活動 → 生徒が「人と関わり合うことが楽しい」と思える活動をめざしていく。その喜びを体験させていくのが学級活動、学級経営の大きな目標の1つになる

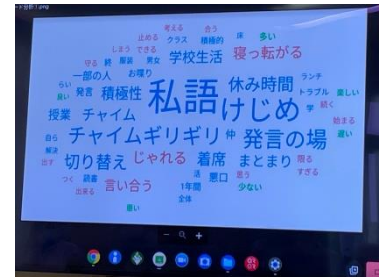


(7) 学級活動におけるICT機器の活動

- ・お互いの考えを瞬時に全員に伝えられる
- ・振り返り（相互評価）では、ぜひ個人名を書き入れる → 光っていた人の活動を具体的に賞賛
- ・情報量が膨大になるため、振り返りの焦点化が難しいこともある → 教師の視点で褒めた

かったことをいくつかに絞って講評するなど、工夫が必要である

- ・ほめるための手立て → 教師がつくる → 提案理由に相手を思いやる視点がはいっているか (例) 苦手な子も得意な子も一緒に楽しみたいから、普段話せない人とも仲良くできる人とも関わられるようにしたいから
- ・一人一人に居場所がある学級を目指して → 一番弱い立場にある人が大切にされる学級づくり
- ・活用できるアプリ → Forms、Mentimeter、AI テキストマイニング



(9) 特別活動の目指すもの

- ・「生きる力」 → これからの社会がどんなに変化し、予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれが思い描く幸せを実現してほしい

(10) 特別活動の育てたい資質・能力

- ・人間関係形成 → 人と仲良くできる力
- ・社会参画 → 学級や学校、家庭や地域社会のために協力・貢献することができる力、そのことに喜びを感じる力
- ・自己実現 → よりよい人間関係や社会とのつながりの中で自分をより成長させる、自分自身の幸せをより追求することができる力

☆特別活動 すべての教育活動の要としての役割
☆「なすことによって学ぶ」

＜グループワーク＞

5～6人組のグループを作り、自校の特別活動の実践や自校の特別活動の課題を付箋に書きながら話し合いました。

【実践】

- ・学級目標の研究
- ・行事等の作戦会議
- ・学級の反省をプロモーションビデオに撮って共有する
- ・いじめをなくす取組
- ・行事に前後に反省活動をしている
- ・生徒会でクリーン運動

【課題】

- ・職員が同じレベルで出来るのか



- ・話し合い活動は年間何回できるのか
- ・特別活動がない
- ・研修が特別活動以外の内容が多く、深まっていない
- ・コロナ禍の特別活動の実践が難しい

以上で夏季研修会は終了となりました。教育研究員の報告、吉川指導教諭の講義、共に大変多くの情報量で、会場にいた全員にとって学びのある講義でした。ご参会の皆様、ありがとうございました。

第2回研修会の報告

- | | | |
|---|-----|------------------------------------|
| 1 | 日 時 | 令和4年12月26日（月） |
| 2 | 場 所 | 狛江市立狛江第一中学校 視聴覚室 |
| 3 | 内 容 | 生徒会担当者の役割 |
| 4 | 講 師 | 元全日本中学校特別活動研究会会長 佐々木 辰彦 加々美 肇 |

令和4年度第21回生徒会長サミットにおいて、生徒引率の生徒会担当教師を対象に講師の先生から、特別活動における生徒会活動の目標や内容、生徒会担当者の役割等、生徒会活動を活性化するためのヒントになる指導をしていただきました。また、生徒会活動が学校運営上においても重要な役割を担っていることについての説明がありました。

後半は約70名の生徒会担当者が小グループに分かれ、各学校の生徒会活動の取組や指導上の課題等について、情報交換、意見交換を行いました。その後生徒会長サミットの分科会に自分の学校の生徒の活躍の様子を参観するためにそれぞれ分かれてきました。



令和4年12月26日

東京都中学校特別活動研究会

第21回 生徒会長サミット 《配布資料》

元全日本中学校特別活動研究会 会長

佐々木 辰彦

1 はじめに 特別活動とは

各活動と学校行事

各活動…「学級活動」と「(児童会)・生徒会活動」(クラブ活動)

学校行事…儀式的行事 文化的行事 健康安全・体育的行事

遠足・旅行・集団宿泊的行事 勤労生産・奉仕的行事

みなさま
とご一
緒に学
びましょ
う。

2 学習指導要領第5章 第2の〔生徒会活動〕の「目標」

異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

【ということは、】生徒会活動の基本的な学習過程を示したものです。

学校全体の生活をよりよくするために、集団生活や人間関係などの諸問題から課題を見だし、生徒会活動の様々な場面で話し合って計画を立て役割を分担し、その解決に向けて自分の役割や責任を果たすなど自発的、自治的に取り組むことを示しています。

次のような資質・能力を育成することが考えられます。

- 生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解するとともに、その活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けるようにします。
- 生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりすることができるようにします。
- 自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活をよりよくしようとする態度を養います。

⇒基本的には、特別活動の目標を踏まえて生徒会活動で育成される資質・能力は「問題の発見・確認、議題の設定」、「解決に向けての話し合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」といった実践も含めた全体の学習過程の中で育まれます。

具体的には、例えば生徒総会において、生徒会として協力して取り組むべきことを合意形成して実践し、その成果等を踏まえて次の取組につなげたり、各種の委員会で取り組むことを決め、実践し、振り返って次の課題に向かったりするという活動が考えられます。

3 学習指導要領第5章 第2の〔生徒会活動〕の2「内容」

- (1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
- (2) 学校行事への協力
- (3) ボランティア活動などの社会参画

☆生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営

☆学校行事への協力

☆ボランティア活動などの社会参画

※生徒会活動である以上、地域・社会の課題の解決には自分たちで主体的に実践できるものとするよう、適切に指導することが大切です。例えば、地域や社会に対して**要望や意見を一方的に主張することではなく、地域や社会の形成者としての自分たちに何ができるか**ということを話し合い実践できるようにすることが望まれます。

その際、他の中学校の生徒会や、異年齢の幼児児童生徒と協力して計画や運営に取り組むことも考えられます。また、活動を振り返るに当たって、自分たちの実践が課題解決等に役に立ったという実感がもてるよう、活動で関わった地域住民の声を上げるなどの工夫も望まれます。

他の中学校の取組みが分かる活動 柏江市立中学校 生徒会新聞(たより)

4 生徒会活動の指導計画

- (1) 計画を作成する際の考え方
- (2) 内容相互の関連を図る

【学級活動との関連】

学級活動で、生徒は生活上の諸問題について積極的に話し合ったり、学級内の役割分担の経験を積んだり、生活を改善したりします。この過程において、自発的、自治的な活動を助長するための指導を適切に行うことで生徒会活動も活発になり、学級や学校の生活をより一層充実したものにしていくのです。

日頃からの学級経営が大切です！

5 生徒会活動の内容の取扱い

(1) 生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにします

①集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動を充実する

②自分たちできまりをつくって守る活動を充実する

③人間関係を形成する力を養う活動を充実する

(2) 内容相互の関連を図るようにします

(3) 異年齢集団による交流

(4) 学級や学校の文化を創造する特別活動

「文化」という言葉は、生活様式・習慣や伝統・芸術など、使用する立場によって多様に使われますが、一般的には「豊かな人間性を涵養し、創造力と感性を育む等、共に生きる社会の基盤を形成するもの」と理解されています。

特別活動の取組に照らすなら、特別活動の全ての活動は、学級・学校文化の創造に直接関わる活動と言えるのです。

毎年度、同じ活動が繰り返されることへの懸念

⇒学級・学校文化の創造とそれらの継承に寄与しているのです。

根拠：中学校学習指導要領解説 特別活動編

「2 特別活動の教育活動全体における意義」

【学級や学校の文化を創造する特別活動】

学級・学校文化を自発的、自治的に創造することを通して、協働的な実践的活動を充実させることが極めて重要です。

例えば、長い伝統を有する学校において受け継がれている伝統や校風は教育上の財産と言えるものですが、それらを**継承すること自体が目的ではなく、それを通して生徒にどのような資質・能力を育みたいのか**という本質を大事にし、生徒が発展的に新しいものを生み出していくことができるようにすることが大切です。

これらの活動は、生徒会活動の目標に照らすと、私たちの計画的・組織的な指導が大切であると言えます。そのためには、学級担任及び学年・学校の教員すべてが目標を同じにして研究を推進していくことが大事です。

「心を育てる特別の教科道徳」と「なすことによって学ぶ特別活動」が私たちが期待する生徒像を構築しているのです。

日本の将来を築いていく子どもたち
地域の皆さまとともに歩む学校
学級・学校文化の創造と発展
本校が目標とする生徒像
生徒会活動 学校行事
学級活動 道徳科
学級・学年経営

まとめ：私の思いと想い

教育活動は

①適切な対応の早さ（速さ）が勝負

②学級が子どもたちの心の居場所となるように

⇒教室環境整備、次に特別の教科道徳で心を強くさせ、特別活動で実践できる
態度を育てましょう。

ありがとうございました。

第50回全日本中学校特別活動研究会東京大会 報告

1 大会主題

「学校教育を柱として支える特別活動の創造」

～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～

2 期日 令和4年11月5日（土）

3 主催 全日本中学校特別活動研究会
東京都中学校特別活動研究会



4 後援 文部科学省、東京都教育委員会、
江戸川区教育委員会、江戸川区立中学校教育研究会、全日本中学校長会、
東京都中学校長会、日本特別活動学会

5 会場 江戸川区立松江第五中学校

6 日程

9:00	受付
9:30	開会行事
10:15	基調提案
10:30	授業公開
12:30	分科会受付
13:00	記念講演
14:15	分科会（研究発表、研究協議、指導助言）
16:30	閉会



開会行事	1 開会のことば
	2 大会実行委員長あいさつ
	3 大会会長あいさつ
	4 来賓祝辞（東京都教職員研修センター 研修部専門教育向上課長 江戸川区教育委員会教育長）
	5 次期全日本中学校特別活動研究会埼玉大会会長あいさつ
	6 閉式のことば

7 基調提案 「学校教育を柱として支える特別活動の創造」
～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～
東村山市立東村山第五中学校 吉川 滋之 指導教諭

8 講演 講師 前日本特別活動学会会長、茂来学園御日向中学校長 長沼 豊 先生
演題 「自己肯定感を高める特別活動の役割」

9 分科会の内容

分科会・担当県	発表者	主 題	司 会 者	指導助言者
第1分科会 学級活動	東京都 令和3年度東京都教育研究員 小平市立上水中学校 主任教諭 山浦龍太郎 江戸川区立南葛西中学校 教諭 五十嵐 拓	「個々の意見を生かす取組により、 目標達成に向けた自発的な行動を 生み出す学級活動の工夫」 ～1人1台の学習者用端末を活用 した話し合い活動を通して～	武蔵村山市立第四中学校 主任教諭 栗原 美絵	東京女子体育大学・ 同短期大学教授 青木 由美子
第2分科会 生徒会活動	東京都 杉並区立泉南中学校 教諭 向井 一真	「持続可能な継続性のある生徒会 活動の運営」	葛飾区立常磐中学校 主任教諭 大橋 えり	文教大学教授 米津 光治
第3分科会 学校行事	東京都 江戸川区立松江第五中学校 主任教諭 澤 祐介	「学級の振り返り活動を通して学 級・学年・学校への所属感、連帯感 につなげる学校行事」 ～1人1台の学習者用端末を活用した振り返り動画づくりを通して～	江東区立深川第一中学校 主幹教諭 大塚 隆弘	元全日本中学校特別 活動研究会会長 佐々木 辰彦

第1分科会 学級活動

「個々の意見を生かす取組により、
目標達成に向けた自発的な行動を生み出す学級活動の工夫」
～1人1人の学習者用端末を活用した話し合い活動を通して～

小平市立上水中学校 山浦 龍太郎 主任教諭
江戸川区立南葛西中学校 五十嵐 拓 教諭

1 研究のねらい

学級活動において、全員の考えや実践を1人1台の学習者用端末の活用によって共有し、誰もが話し合い活動に関わることで、自己有用感や目標達成への意欲が向上し、個々の社会参画意識を高めること。

2 研究の方法

- (1) 実態の把握をする
- (2) 文献資料による研究
- (3) 事前計画を含めた学級計画の工夫を行う



(4) 1人1台の学習者用端末の活用の工夫を行う

(5) 効果検証を行う

3 研究のまとめ

事前学習や検証授業を経て、生徒がより良い学級のために学級のよいところに気付くことができる生徒が増えたことが分かり、主体的に話し合い活動に参加し、解決しようとすることに抵抗を感じている生徒が減り、学級目標の達成や学級の課題解決に向かう行動につながるということが分かった。1人1台の学習者用端末を用いた話し合い活動を行うことで、生徒全員が学級の目標や課題に対する意見を出しやすくなることができたとともに、個々の意見の共有が容易になったことで自発的に行動することができる生徒が増えたことにつながった。そのためには、少数意見について取り上げるなど、意図的に着目させる指導の工夫や、生徒の情報モラルを高める教育も同時に進めていくことが大切である。

○質疑応答など

- ・話し合い活動の手引きについて、また学習者用端末で、どのようなアプリケーションをしようしたか。
→Teams、パワーポイント（共同編集）、Forms、Jamboard
- ・ハイブリッド型で実施した研究員の苦勞と工夫はあったか。
→苦勞したことは、互いの顔を画面上でしか知らず、やりとりの難しさを感じた。しかし、それぞれの学校内でやりとりができることで時間的な制約が減った。メール等でのやりとりのおかげで、話し合った内容等を思い返すことが容易であった。
- ・対面で取り組んでいた時との違いを感じたことはあるか。
→学習者用端末で行うと効率的であり、発言をすることが苦手な生徒にとっては発言しやすくなった。また、「いいね」などの一言が簡単に伝えられるようになった。しかし、対面で活動を行う方が、人の温かみを感じることができた。
- ・班長や学級委員への指導を、どのように行っていたか。
→みんなが考えている間に、意見を集約する方法を検討させた。「どのような状況になると話し合い活動が行き詰まると思うか。」について、様々なパターンを互いで考えさせた。
- ・研究員終了後の実践例について
→次の課題は、クラスのみではなく、学年での取り組みの方法の提案。学年主任として、学級担任へのマネジメント的な役割になっていた。



学校教育を柱として支える特別活動の創造
～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～

○指導・助言

教育研究には流れが重要であり、『①事前活動を行う。②方法を工夫する。③積み重ねる。』この3つの要素が重要である。事前活動については、リーダーだけでなく、全員が理解し、取り組むことが大切である。ICTの活用については、文部科学省のHPにも掲載されているように、折り合いをつけるための工夫の1つとして有効活用させて



いく。また、指導者が『合意形成と意思決定』の違いをしっかりと理解して取り組ませることも重要である。班長や学級委員等のリーダーだけでなく、学級全体で合意形成をさせたい。

○講演

- ・学級活動で育成される力とその指導方法について ～「特別活動」の課題と期待される役割～

特別活動には、教科書がなく、時間割にも記載がない。どこの学校でも実践されているにも関わらず、ねらいや内容が不十分である場合が多い。また、小学校で育成した話し合い活動の技術等を中学校や高等学校で生かしきれていない現状もある。しかし、人格形成に欠かせない領域であり、学習指導要領にはキャリア教育の要という記載もある。特別活動の教育的意義を理解し、育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）を、特別活動のすべての指導で意識して関連付けていく。

- ・学級活動の目標と内容

特別活動の目標そのものは、小学校と大きく異ならないが、中学校の特別活動の中の学級活動は11項目あり、小学校よりも項目数が多い。生徒を主体的に活動させたいことや、小学校の特別活動を理解して引き継ぎ、その経験を積み重ねることが大切である。中学校の特別活動における学習過程を確認して、(1)では合意形成、(2)(3)では意思決定が必要であり、各項目の違いをきちんと理解するようにしたい。

- ・話し合い活動の工夫

ジグソー法やウェビングマップ、KJ法などがある。

司会者	栗原 美絵(武蔵村山市立大南学園第四中学校)
記録者	鶴岡 友樹(足立区立加賀中学校)

第2分科会 生徒会活動

「持続可能な継続性のある生徒会活動の運営」

杉並区立泉南中学校 向井 真一 教諭

1 研究のねらい

泉南中学校独自の活動である「泉南しぐさ」を原点に、生徒会活動本来の活動の意義や、目的などを浸透させていくこと。

2 「泉南しぐさ」とは

生活の中で自分の行動を見つめなおし、互いが気持ちよく過ごすために必要な心の在り方をまとめたもの

＜全生徒に知ってもらうための方法＞

- ①ポスター掲示
- ②泉南しぐさのしおり
- ③泉南しぐさのカルタ
- ④生徒会による動画撮影
- ⑤新入生歓迎会で泉南しぐさを紹介
- ⑥日めくりカレンダー
- ⑦道徳地区公開講座
- ⑧泉南しぐさクイズ
- ⑨小中連携発表



3 研究のまとめ

これらの活動を通して、生徒会役員の気持ちも大きく変わり、生徒自身も泉南中生の「自身」と「誇り」を持ち、大きく成長したと考える。

泉南しぐさは近隣の小学校や東京都内の中学校にも伝えることができ、知名度を上げることができた。また、これから中学校に進学してくる小学生にも思いを伝えることができた。そのような機会を今後も設け、区内だけではなく、多方面に広めていくことも視野に入れて取り組んでいきたい。

○他の学校の実践例や質疑応答など

・「泉南しぐさ」は、子どもたちにとって誇りになると思う。専門委員会の後、中央委員会を行っているか？他の委員会とのつながりコラボ企画するとさらに泉南しぐさが広まっていくのではないかな。

例）放送委員と校歌のコラボ、生活委員と挨拶運動、環境委員とプール清掃など

・活動時間をどのように確保しているか。
→部活をやりながら放課後に活動している。

・生徒会は何名か

→5名

・地域の保護者には「泉南しぐさ」について広まっているのか。

→挨拶ができていると感謝されるもののなかなか浸透されていない。

・生徒会役員に男女の枠はあるのか。

→男女の枠はない。

・他の先生方に理解を得るのが難しい。やりたいことが通らないことが多い。

→3年後にはこうしたいとビジョンをおろし職員内部で時間をかけて進めていく必要がある。また、全体を巻き込むスローガンなどを掲げるのはどうか。

指導・助言と講演

文教大学教授 米津 光治 先生

特別活動と生徒会活動



特別活動とは

ひと昔前は、子どもたちのエネルギーを違う方向に向けていくのが課題であった。そこで大切だったことは特別活動であった。教科書がないからこそ、活動し考え行動していかなければならない。生徒が何をしようとするのか、何をするのが大切でこれが原点である。こらからの課題としては、今何を目指し、どういう子どもに育てたいのか、学校教育だけでは、将来生きていけないのではないかな。新しい問題にぶつかった時にどう乗り越えていけばいいのかを教えていかなければならない。

生徒会活動について

生徒会活動は、全校の生徒が参加するため、活動の形態は多様であり、生徒の学びや体験も様々ですが、生徒会活動で育成される資質・能力は、「問題の発見・確認」→「解決に向けた話し合い」→「合意形成による解決方法の決定」→「決めたことの実践」→「振り返り」→「次の課題解決」という一連の学習過程ではぐくまれることが基本となる。目標を達成させるためには、活動のための場や機会を計画的に確保するなど、学校の一貫した指導体制、全教職員の共通理解と協力が必要である。年間指導計画の作成においては、生徒自ら活動計画を立案し、目的に応じて役割を分担し、協力して集団活動が展開されるよう配慮しなければならない。

今後は、地域社会の中でも笑顔で挨拶をすることや、社会参画が少ない中学生は特別活動を通して様々な体験をしていく必要がある。子ども自身が変わるもののきっかけを作ることを頑張って取り組んでいく必要がある。

司会者	大橋 えり（葛飾区立常盤中学校）
記録者	根本 千郷（葛飾区立小松中学校）

第3分科会 学校行事

「学級の振り返り活動を通して学級・学年・学校への所属感、連帯感につなげる学校行事」

～1人1台の学習者用端末を活用した振り返り動画作りを通して～

江戸川区立松江第五中学校 澤 祐介 主任教諭

1 研究のねらい

- (1) 学級目標に対する振り返り活動を通して目標達成への主体的な行動につなげる。
- (2) 1人1台の学習者用端末を活用した集団活動、課題解決のための話し合い活動、合意的形成、意思決定、発表までの流れに主体的に取り組み、自己の向上への意欲につなげる。
- (3) 学級への所属感、連帯感を深めるとともに学年・学校として次の成長につなげる。
- (4) 自校の様々な学級文化（目標と取組）に触れ、そのよさに気づき、認め合ったり、新たな課題を見出したりすることで学校のよりよい文化づくりにつなげる。



2 研究方法

- (1) 実態を把握し、計画を作成する。方向性や取組について周知する。（教員・生徒）
- (2) 取組への意識調査を行い、変容を確認（随時）
- (3) 各学級活動を通して、学級・学年・学校への所属感や連帯感につなげる指導方法の工夫を行う。
- (4) 各学級で年間を通しての学級活動での取組を発表する。（検証授業・実践発表会）
- (5) 効果検証を行う。

3 研究のまとめ

新型コロナウイルス感染症対策として教育活動の制限、同時に GIGA スクール構想の開始という中で現学習指導要領が全面実施となった。今回の改訂では「よりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育成する」という方向性が示され、新しい教育観や指導方法への転換が急務となった。組織全体でどう対応していくかが大きな課題であったが、学校だけではなく、生徒や保護者、そして地域全体が学校教育を柱として支える各活動や学校行事の重要性を再確認し、「よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動」の具現化に多大な協力をいただき、成果を残すことができた。今後も特別活動の専属的な実践を通して、さらに特色ある活動へと深化させ、一人一人の自己実現につなげていく。

4 研究を通して

松江五中はコロナ渦で行事、話し合い活動や交流活動が制限される中で、その中でもできることを探し、大作戦シリーズというテーマを掲げ、生徒の取組でできる機会を確保してきた。生徒だけに限らず、ホームページを利用し、保護者や地域にも発信に、学校・家庭・地域が一体となって取組んでいる。大作戦シリーズは校歌の歌詞作り、松五体操作りなど様々なものがあり、自分たちで新しくアイデアを生み出すことで生徒の学級・学校への所属感、連帯感につながる活動となっている。

今回はGIGA スクール構想の開始にともない、学習者用タブレットを使って特別活動を行う取組を行った。毎年決める学級目標に焦点を当て、ただ掲示されているだけのものとしてではなく、学級全体が自分たちの学級目標を周知し、その目標を達成するためにどう行動すべきか考え、振り返るという活動を行った。学習者用端末を使うことで、生徒自ら動画編集をして、視覚的に振り返り、情報共有できたことで、より深く考えるきっかけになった。

特別活動に対して多くの生徒は前向きに取り組んでいる様子が見られる。しかし一方で自己肯定感、自己有用感が低い生徒もいる。教師ではなく生徒が主体となり問題解決をすることのできる力を身につけさせていきたい。生徒が新しいことを生み出す力を出すには、色々な経験をさせてあげることが大切である。そして教える側の気持ちのゆとりを持つことが生徒に与える影響が大きいと感じた。

5 研究発表に対するよかった点・質疑応答

よい点	・コロナ渦で制限がある中で諦めずに何ができるか考え、行動している。 ・「大作戦」というネーミングが分かりやすくよい。 ・職員での研修や共通理解をしているところがよい。 ・学校と地域が上手くつながっている。 ・ICT の活用がされている。 ・学級目標を作るだけではなく、年間を通して意識させるのがよい。
質疑応答	・タブレットを使用する上でのルールは？ →授業以外での使用を徹底している。 ・たちばなマインドとは？活用方法は？ →松江五中独自の取組。自分たちが校内、校外で頑張ったことを報告する。進路のときはこの取組のおかげで生徒の自信につながった。 ・行事にプラスして特別活動での新しい取組をするのは大変ではないか？ →どの行事も生徒にとって大切だと考えるため、今のところ削ることはできていないので、負担はある。今後は上手く時間を確保できるように工夫していく。 ・指導案が全学年全クラス共通というのは難しいか？ →基本的な柱は同じにするが、学年や学級の状況を見て、工夫して行っている。 ・ホームページはどのような効果があるか？ →地域、保護者にも生徒の頑張りが伝わる。地域・保護者にも参加を呼びかけている。 ・動画編集は教員が教えているのか？ →生徒が自分たちで行う。動画を使い、視覚的に成長が見ることができると、自己肯定感につながる。

生徒の心の居場所となる学級



特別活動とは

学級活動、生徒会活動、学校行事がすべて特別活動である。学校生活において、特別活動は生徒の成長や考えに大きく影響する。学校は様々なバックグラウンドをもつ生徒が共に過ごし生活を送る中で、お互いのよさや可能性を発揮しながらよりよい人間関係を形成する場である。教師が全てを与えるのではなく、生徒が様々な経験を通して、生徒が自ら問題解決する力、自己実現を図ろうとする態度を養うことができるように、特別活動の時間を通して、指導していくことが大切である。

学校行事が生徒に与える影響 ～「巣立ちのことば」に表現される内面化～

卒業式の答辞を見てみると、その言葉の中には多くの学校行事での出来事や感じた気持ちが書かれている。中学校で生活での思い出が貴重な経験となって、内面化されている。学校行事を通して、生徒が学ぶことは多い。経験という形だけではなく、気持ちの面で大きく成長する場でもある。学校行事では普段見られない生徒の姿を目にすることがある。その一面を見つけてあげることは生徒の自己肯定感にもつながる。またみんなで結果に関わらず、みんなで同じ目標に向かって、みんなで一つのことを成し遂げる機会というのは生徒の自己有用感も高めることができるいい機会である。

～大切にしたい視点～

- (1) 生徒主体の活動へ
- (2) 学級が成長する機会として一人ひとりが学級の一員を意識するとき
- (3) お互いの良さを認め合う機会
- (4) 活動の評価を次の意欲へつなげる

学級への連帯感・所属感

学級活動では話し合い活動をする機会が多くある。生徒たちが仲間と協力し、自ら責任をもち、考え、行動すべきことがたくさんある。自分の考えが友達に認められる、係活動での達成感を感じるなど、学校行事は学級を意識する大きな機会である。しかし行事だけに関わらず、日常行われる話し合い活動において

もささいな言葉が生徒たちの自己肯定感につながる
ことがある。

今回の発表は学級目標に焦点を当てての取組であった。
学級目標は年度当初に決定し、年間を通じて教室
に掲示されるものである。この目標を自分たちで掲
げ、目標を理解し、その目標に向かって何をすべきか
考え行動することで学級としての連帯感・所属感を感
じる大切な意味をもつ。



生徒の心の居場所となる学級

生徒が多くの時間を共にし、過ごす学級を生徒
の心の居場所をなるべく心がけることが大切で
ある。視覚的に分かりやすく掲示をしたり、他者の
意見を否定したりするのではなくきちんと耳を傾
けられる雰囲気をもみんなで作れるように教育環境
を整備することが必要である。どんな生徒でも一
緒に学ぶことができるように、学びのユニバーサ
ルデザイン（Universal Design for Learning
Guideline）の視点を忘れないようにする。

生徒とともに学び、ともに時間や思い出を共有し、ともに成長していける教師でありたい。

司会	大塚 隆弘（江東区深川第一中学校）
記録	入澤亜矢子（足立区立千寿青葉中学校）

第21回 東京都中学校生徒会長サミット 報告

- 1 開催日時 令和4年12月26日（月）13時～16時（受付開始 12時30分）
- 2 参加方法 （1）狛江市立狛江第一中学校にて対面
（2）島しょ地区については、Web 会議ツール Zoom を使用しオンラインで参加
- 3 ねらい 「認め合い 支え合い 高め合う 仲間づくり」をテーマとして、実践報告等に学び、各校の生徒会活動の充実を図る。
他校との情報交換などを通して広く交流の機会を持ち、リーダーとしての資質や態度を育てる。
- 4 対 象 東京都公立中学校の生徒会長または生徒会役員
- 5 時 程 （1）全体会（体育館） 13時～13時50分（50分）
＜全体司会：狛江市立狛江第一中学校生徒会＞
 - ① 開会の言葉 狛江市立狛江第一中学校生徒会
 - ② あいさつ 東京都中学校特別活動研究会会長 滝沢 二三雄
（品川区立鈴ヶ森中学校 校長）
 - ③ 実践発表
葛飾区立双葉中学校生徒会の取組
武蔵村山市立第四中学校生徒会の取組
 - ④ 諸連絡 武蔵村山市立第四中学校 主任教諭 栗原 美絵
（2）生徒分科会（5分科会） 14時～16時（120分）
 - ① 情報交換及び協議会
 - ② コーディネーターより
（3）生徒会担当者研修会（多目的室） 14時～15時（60分）
 - ① 講師の講話

生徒会長サミット全体会報告

今年度は東京都の島しょ地区2校を含む69校の中学校、計176名の生徒会役員が参加し開催された。全体会では、主催者を代表して東京都特別活動研究会の滝沢二三雄会長の挨拶に続き、代表校2校である葛飾区立双葉中学校と武蔵村山市立第四中学校の生徒会役員が自校の特色ある活動事例について発表した。その後、参加した生徒会役員が5分科会に分かれ、各校の活動の交流や課題の共有と改善策の協議等を行った。教員を志す大学生の参加もあり、全体会や分科会での生徒の様子を見学し、先生方の研修会に参加した。



実践発表① 葛飾区立双葉中学校

(1) 生活面

<ベストグリーディングコンテストの実施>

生活委員会とタイアップし、気持ちの良い挨拶ができているか、正しく制服が着用できているかを調査し、よくできていた人を表彰する。

(2) 学習面

<リーディングカップの開催>

長期休業の間、本をたくさん読もうという企画で、読んだページ数が最も多かった人を表彰する。

(3) 美化面

<クリーン作戦><落ち葉はきボランティア>

美化委員の声掛けのもと、全校の有志が集まった皆と学校の内外を掃除したり、落ち葉掃きをする。花の植え替えやプールの更衣室の掃除も行う。

(4) その他

<生徒会新聞 フレッシュ双葉>

生徒会の活動を知ってもらうための新聞。全校アンケートや季節・年間行事に合わせた記事、部活動紹介や雑学などを掲載する。人気記事ベスト3は「先生インタビュー」「生チョコの作り方」「卒業お祝い（先生方からのお祝いメッセージ）」である。

<タブレット策定委員会>

タブレットの使い方の改善点を委員会で見つけ、学年やクラスで検討する。問題点や効果的に使う方法、みんなが守れるルールについて話し合う。

タブレットルール3カ条 「先生の話は操作を止めて聞くべし!」「休み時間は決められたことにのみ使うべし!」「カメラアプリは時と場合を考えて使うべし!」



<ユニセフ募金>

募金前の事前学習として生徒会役員がプレゼンを行い、各学級でユニセフ視聴覚ライブラリーを使用して学習する。募金は朝昇降口に立って呼びかける。

<シトラスリボンプロジェクト>

愛媛県発祥のコロナ差別をなくそうというプロジェクト。たとえコロナに感染しても「ただいま」「おかえり」と迎えらる環境をつくる。具体的な活動内容は、「呼びかけるポスターの制作」「全校生徒へのシトラスリボンプロジェクトの説明」「全校生徒でシトラスリボンを作成」「作成したものを学校の色々な場所に掲示」である。

実践発表② 武蔵村山市立第四中学校

(1) 生徒会スローガン

一団和気 ～全校で創る和～

「全校で楽しいを創る」という意味や、四字熟語の「一団和気」のように和やかな雰囲気中学校生活を送るという意味が込められている。

(2) 従来の取組

<あいさつ運動>

小中一貫校の特色を生かして隣接する小学校の児童と共に実施している。各学校の正門で活動し、あいさつを行う際に、「笑顔になれる言葉を書いたボード」を持ってコロナ禍でも活発になるような取組を行った。

<桜の花プロジェクト>

卒業前に、1，2年生から3年生に向けて感謝を伝える伝統的な企画。今までお世話になった先輩方へ、1，2年生全員と先生方が桜の花びらにメッセージを書き、模造紙に貼って大きな桜の木の絵にする。生徒会が中心となり、各クラスから有志を募って作成する。

<ボール貸し出し>

貸し出しカードと生徒手帳を引き換えにボールを貸し出している。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、曜日ごとに貸し出す学年を分けて行っている。

(3) 従来の取組から改善する予定のもの

<生徒会アンケート>

学校生活を振り返り、課題を改善できるようにするために各委員会と連携して取り組んでいる。今まではアンケート用紙で行っていたが、Microsoft Forms を使って取り組もうと計画している。

(4) 新たに取り組むもの

<憩いの場>

コロナ禍でも学年を超えて考えや趣味を共有できる機会を設けるために始めた。紙にテーマに沿った内容を書きたい人が自由に書き、昇降口に張り出している模造紙に貼る。



生徒会長サミット分科会

各分科会では、「認め合い 支え合い 高め合う 仲間づくり」の生徒会長サミットの全体テーマをもとに協議を行い、各校で行われている生徒会活動の実践報告や他校との情報交換などを通して、交流の場を設け、今後の生徒会活動の充実のために役立てる機会とした。

「生徒会活動の運営に関して」

皆、忙しい中での活動。短時間で実行する工夫は？ 仕事の分担についてどうしているか？

生徒会立案の企画を通すためにはどのような工夫が必要なのか？

①計画性をもたせること ②目的は何か？をはっきりさせる ③すべて変えていく必要はない、徐々にマッチしていくように変化させる。

- ・仕事の優先順位を決める。 ・企画書や全校アンケートを活用
- ・タブレットの活用（共同編集やグループの作成などを行い、生徒会で調べた内容を情報共有しやすくする。話し合ったことをタブレットにまとめて、休んだ人も見られるようにしている。）

- ・役割分担を明確にする。ボードに誰が何をやってるかを書く。大きな仕事の柱は組織の発足時に決めてしまう。3年生と1年生でペアを組み、分担している。

- ・週に1回、この曜日と決めて生徒会活動を行っている。また、朝集まったりしている。

各委員会との連携の工夫は？

- ・取組報告や改善点を発表するだけになることが多いので、他の委員会への質疑応答を行う。

- ・月ごとの活動目標を決める。

- ・委員会同士が連携しやすいように、中央委員会のときに相談、呼びかけやお願いをして、全体の

活動にうつしている。委員会とのコラボ企画など、具体的な取組にする。

- ・お金のかかることは実施が難しい場合が多いため、道具を再利用するなど、できる限りお金の

からない活動を考えていきたい。

「意見箱の活用」について

意見箱の要望が少ない 意見箱を使用する意義 どのように活用していくべきか？

- ・Yes or No で答えられるようなもの ・興味をもってもらえるように二択アンケートなど
- ・回収の頻度を多くし細かく実施する。
- ・存在を知ってもらう。新聞やポスターなどで伝える
- ・職員室の前だけではなく、いろいろな場所に設置する。

- ・タブレット使用した意見箱を作成。いつでも意見を出してもらいやすくする。
- ・アンケート形式にし、全員に書く時間を設ける。
- ・アンケートをデジタル化する。→集計も早くできる。
- ・テーマを決めて行う→親しみをもってもらう　・一週間ごとにテーマを決めて回答
- ・意見箱を可愛くする。入れやすくする。・回答してほしい内容を明確にする。
- ・意見用紙のデザイン募集　・生徒会新聞に意見や回答を載せる。
- ・匿名化する。・昼の放送等で呼びかける。
- ・生徒が感じていることを気軽に出示してもらうため　・すごしやすい学校にするため
- ・学校づくりに協力してもらうため　・生徒主体の学校をめざすため
- ・生徒の視点からの意見を取り入れるため　・個人の悩みや意見を解決するため
- ・生徒会だけでは発見できない、学校を良くするための意見を集めるため
- ・意見箱の意見が出たら本部役員会で話し合う→中央委員会で話す→先生に相談

「生徒会新聞のアイデア」

- ・堅苦しいイメージをなくしたい。役員などの自己紹介。　・絵が得意な人を募る
- ・学校独自のマスコットキャラクターの作成と活用　・役員一人一人がコーナーを持ってみる。
- ・生徒会の内容だけでなく社会のことも話題にしてみる　・タブレット活用（新聞のデジタル版）
- ・テスト勉強系の話、勉強法をのせる。・クイズなど、親しみやすい内容
- ・先生へのアンケートなど

「あいさつ運動の活性化のために」

- ・短い時間でも参加　・音楽をかける　・委員と先生と協力　・少人数で挨拶(交代制)
- ・挨拶をたくさんした人を表彰　・生徒会新聞で呼びかけ　・仮入部期間に挨拶強化

「生徒会主催の特色ある活動　地域との連携・ボランティア活動」について

- ・ボランティアを募って一緒に挨拶運動
- ・エコキャップで作品づくり、展示　・ひまわりを福島に送り観光に活かす
- ・受験応援プロジェクト　・消毒ボトルデコレーション
- ・各クラスで一枚作り、つなげて一つの絵にする全校貼り絵というものを行っている。
- ・PTAと校内全体での謎解きゲーム　・3年生を送る会の運営、クイズ思い出など
- ・文化祭での盛り上げ　・クリーン活動（地域清掃や校内美化ボランティア）
- ・地域のお祭りボランティアの参加　・手紙配りやポスター掲示
- ・消防団と防災訓練、火の用心の活動　・川に生き物がすめるような環境づくり
- ・小学校を対象に中学校を紹介　・小学生と挨拶運動　・地域の小学生などを招いて部

活紹介

- ・地域の方と話し合い ・ビデオ会議をつないで、いじめ対策について意見交換
- ・認め合い→MVP 発表、朝礼で個性を認め合おうと呼びかけ。メッセージカードをはって悩みの相談など。ほめほめ week お互いの良いところを褒めあって、いじめが起きない雰囲気づくり。
- ・いじめ防止の取組（ホワイトリボン・ピンクシャツデー・五つ星・いじめ防止 book）
- ・学習時間を設ける（朝、放課後）

分科会コーディネーターの先生方より

◇生徒が他校の取組を知り、自校の取組に生かすことができる会であった。

◇疑問や提案を最初に発言し、「本校ではこのようなことを実施している」と発言できる生徒が多くみられた。その中で、各校持ち帰り新しい取組につながることであったのではないかと感じた。

◇やはり分科会は対面で行った方が、話し合いのテンポが良くなると感じた。昨年度オンライン開催で行われた分科会では、タイムラグがあったり音声聞き取りづらい部分があったりなど改善しなければならない点があった。しかし、オンラインだからこそのよさもあった。それは、島しょの学校や学校で多くの生徒会役員が参加することが出来るという点である。やはり対面とオンラインのハイブリッド型で行うのが理想的であると感じた。対面で参加している役員以外でも、分科会に参加をしたければオンラインで参加をすることが出来れば、もっと多くの生徒にとって意義のあるものとなると思う。

◇諸島の学校との感覚の違いに気づけた生徒たちがいること。特に顕著だったのが、他学年との交流である。他学年交流を意識しないで行うことができ、普段から学年の壁を超えて過ごしている島しょの生徒たちと「他学年と交流するぞ」と意識して過ごしている本土の生徒たちの差が知れたことは、生徒にとっても大きな財産になったのではないと感じる。次年度も継続して行うことで各校意見が活発になっていくと想像できる。

◇生徒会長サミットの時間だけでは、話し合いが足りないと感じてしまう意見も挙がっていた。今後、学校間同士でもオンラインで交流をする形を呼び掛けてみるのも良いのではないかなと思う。他の分科会に参加している学校の気になる取り組みをしている学校もあると思うので。

◇各校で活動時の悩みを共有し、解決策を考えることができる機会が作られていることにより、今後も生徒が主体的に生徒会を運営できるきっかけづくりになっていると期待している。

◇生徒同士が、服装や頭髪のルールなど、地域差があることを知れた点。もちろん地域・学校によって校則などが異なることは当たり前だが、生徒が自校の校則を考えるきっかけとなっただろうと考えている。

◇会を進行していくにあたり、どのような内容について深掘りしていくかを決めるのに時間が取られてしまったため、どの話題に対しても軽く終わってしまったような印象が残った。もう少し事前に話し合うテーマや内容を明確に決められたらより深く話し合い活動が出来たかもしれない。

◇どの学校も積極的に自校の情報を発信することができていた。また、初対面の人と意見を交換するということ自体が、今の時代を考えるととても貴重な経験になったことと思う。

◇慣れない状況の中、司会校の生徒が一生懸命に取りまとめを行っていた。その姿勢は他校の生徒にも大変刺激になったと思う。

◇メモの取り方一つをとっても、紙に記録を取る生徒、タブレットに記入する生徒、そのタブレットも各自治体で違うので、互いに参考になったと思う。あわせて、ICTの活用についても議論できたので、良い点、悪い点を含めて生徒自身にも良い刺激になったと思う。

東京都中学校特別活動研究会 会則

第1章 総 則

第1条 この会は東京都中学校特別活動研究会といい、会長校に事務局をおく。

第2条 この会は東京都における中学校の特別活動の振興を図ることを目的とする。

第3条 この会は前条の目的を達成するため次のことを行う。

1. 特別活動に関する研究調査
2. 特別活動に関する講演会、研究会等の開催
3. 各種機関・団体との連絡、提携に関すること
4. その他本会の目的を達成する事業

第4条 この会は東京都と特別区、市町村教育委員会を単位とする研究団体、学校等をもって構成する。

第2章 役 員

第5条 この会は次の役員をおく。

会長	1名	副会長	事務局各部長、副部長から若干名
事務局長	1名		
理事	(区市町村各1名)		
会計	2名	会計監査	2名

第6条 会長・副会長は理事会で選出する。理事は区市町村の推薦により会長がこれを委嘱する。

会計、会計監査は理事会で互選する。

事務局長は、会長が委嘱する。

第7条 会長はこの会を代表しその責任を負う。副校長は会長を補佐し、会長が事故あるときは代行する。

理事は理事会において重要事項を審議し議決する。

事務局長は、事務局を統括し、会務運営を担当する。

会計はこの会の会計事務つかさどる。

会計監査はこの会の会計を監査する。

第8条 役員の任期は1年とする。但し留任することができる。

第9条 この会は、会友、参与をおくことができる。

第3章 執行機関

第10条 本会の会務を遂行するために事務局をおく。事務局には、事務局長

のもとに、事務局次長 1 名のほか、事務局員をおく。

第 1 1 条 事務局には、研究部、編集部、広報部をおく。
各部には、部長、副部長、部員をおく。

第 1 2 条 各部の構成人員は、事務局員をもってこれに充て、会長が委嘱する。

第 3 章 会 議

第 1 3 条 この会の会議は次の通りとする。

1. 総会
2. 理事会

第 1 4 条 総会は会長が招集し毎年 1 回開催する。但し必要に応じて臨時に開くことができる。

第 1 5 条 総会の議決は出席者の多数による。

1. 予算の決議及び決算等の承認
2. 会則の変更
3. その他の重要事項

第 1 6 条 緊急やむえない事情により総会を開くことができない場合は、理事会の決議をもってこれをかえることができる。この場合は次の総会で承認を受けるものとする。

第 1 7 条 理事会は会長が召集し、会議の議長は会長があたる。なお、事務局長が参加するものとする。

第 4 章 会 計

第 1 8 条 この会の経費は会費及びその他の収入でこれをあたる。

第 1 9 条 この会の会費として年額下記の金額を負担する。

単位研究団体 1 校 1000 円の割
学校単位での入会した場合 1000 円とする。

第 2 0 条 この会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

附 則

この会則は、昭和 47 年 4 月 1 日より実施するものとする。
平成 2 4 年 5 月 1 2 日 一部改正する。

令和４年度 東京都中学校特別活動研究会組織（令和５年３月１日現在）

役 職	氏 名	勤 務 校	電 話	F A X	職 名
会 長	滝沢 二三雄	品川区立鈴ヶ森中学校	03-3765-2849	03-3765-2751	校 長
副会長	荒巻 淳	江戸川区立松江第五中学校	03-3652-7946	03-5662-2969	校 長
副会長	荒木 忍	東村山市立東村山第二中学校	042-391-9112	042-397-5416	校 長
副会長(顧問)	上岡 祥邦	足立区立第十二中学校	03-3605-2734	03-3605-2881	校 長
事務局長	瀬戸 完一	葛飾区立小松中学校	03-3653-1436	03-5607-0781	副校長
事務局次長	植木 俊孝	小金井市立南中学校	042-383-1105	042-382-0405	主任教諭
会計部長	藤本 謙一郎	練馬区立大泉学園中学校	03-3925-4492	03-5387-2294	副校長
副部長	岩崎 航太	小平市立小平第二中学校	042-341-0244	042-341-1962	主任教諭
研究部長	吉川 滋之	東村山市立東村山第五中学校	042-391-9115	042-397-5419	指導教諭
副部長	大塚 隆弘	江東区立深川第一中学校	03-3631-3241	03-3631-3803	主幹教諭
	安藤 大	江戸川区立瑞江中学校	03-3651-2210	03-3651-0680	教 諭
	吉田 義和	練馬区立開進第三中学校	03-3993-4265	03-5984-3036	主幹教諭
	五十嵐 拓	江戸川区立南葛西中学校	03-3675-0317	03-3675-0607	教 諭
	井上 稚恵	杉並区立井荻中学校	03-3399-0035	03-3399-0854	教 諭
	田村 秀紀	渋谷区立渋谷本町学園中学校	03-3373-3201	03-3373-3215	教 諭
	根本 千郷	葛飾区立小松中学校	03-3653-1436	03-5607-0781	教 諭
編集部長	藤本 謙一郎	練馬区立大泉学園中学校	03-3925-4492	03-5387-2294	副校長
副部長	乗原 美絵	武蔵村山市立第四中学校	042-564-4341	042-563-9149	主任教諭
	西本 静	江戸川区立松江第六中学校	03-3656-6711	03-3656-6774	教 諭
	三枝 剛	江戸川区立南葛西中学校	03-3675-0317	03-3675-0607	主幹教諭
	小野 貴史	足立区立第四中学校（夜間学級）	03-3887-1466	03-3887-6066	教 諭
	向井 一真	杉並区立泉南中学校	03-3313-2361	03-3313-8914	主任教諭
	原 奈都子	江戸川区立小松川第二中学校	03-3685-4900	03-3685-4911	主任教諭
	大橋 えり	葛飾区立常盤中学校	03-3607-1122	03-5699-1513	主任教諭
	真辺 草平	足立区立入谷南中学校	03-3897-9919	03-3897-9927	教 諭
	高木 真実	足立区立第四中学校（夜間学級）	03-3887-1466	03-3887-6066	教 諭
広報部長	谷口 典夫	狛江市立狛江第一中学校	03-3480-0121	03-5497-7361	教 諭
副部長	上岡 祥邦	足立区立第十二中学校	03-3605-2734	03-3605-2881	校 長
	鶴岡 友樹	足立区立加賀中学校	03-3857-1121	03-3857-1122	主任教諭
	酒井 寛子	板橋区立志村第四中学校	03-3966-9426	03-3966-9426	教 諭
	横山 清貴	江戸川区立篠崎中学校	03-3679-3001	03-3679-3216	教 諭
	田中 識啓	江戸川区立小岩第三中学校	03-3657-1958	03-3657-1967	主幹教諭
	入澤 亜矢子	足立区立千寿青葉中学校	03-3888-7456	03-3888-7872	教諭
会計監査	大熊 恵子	練馬区立田柄中学校	03-3990-4403	03-3577-7999	主幹教諭
会計監査	鈴木 啓之	江戸川区立松江第三中学校	03-3651-0043	03-3651-9350	副校長
顧 問	佐々木 辰彦	東村山市立東村山第三中学校	042-391-9113	042-397-5417	
顧 問	長谷川 晋也	墨田区適応指導教室ステップ学級(指導員)	03-5608-6919	03-5608-6919	
顧 問	松本 康夫	東村山市教育委員会社会教育課	042-393-5111	042-393-6846	

創立 60 周年記念特集

令和 4 年度

東京都中学校特別活動研究会

60周年に寄せて



第二十六第会長 滝沢 二三雄
(品川区立鈴ヶ森中学校長)

東京都中学校特別活動研究会発足60周年おめでとうございます。60周年の節目の年に会長を務めさせていただき、大変光栄に存じます。今日まで多くの諸先輩方が築き上げてきた本研究会をより発展させていく責任を感じております。そんな中、本年度は第50回全日本中学校特別活動研究会・東京大会を江戸川区で開催できました。新型コロナ感染拡大防止の観点から2年ぶりの対面での開催となり、大変充実した大会になりました。これも諸先輩方のお陰と感謝しております。

私自身も今年で60歳になり都中特活と同じ時に生まれ、60周年の記念の年に会長を務めさせていただいたことにも大変縁を感じております。微力ではありますが、本研究会を益々発展させていくために、精一杯努力していきたいと思っております。

祝辞

創立 60 周年、おめでとうございます

日本特別活動学会
会長
安井 一郎



このたび、東京都中学校特別活動研究会が創立 60 周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。日本特別活動学会を代表して、心よりお祝いを申し上げます。

貴研究会は、1962（昭和 37）年に設立され、2022（令和 4）年度で創立 60 年を迎えられました。人間で言えば、還暦です。還暦とは、十干十二支が一巡してもとの暦に還ることに由来していますが、現在では、60 年の歩みを振り返り、「感謝の気持ちを贈る節目の日」という意味で使われています。貴研究会が 60 年かけて積み上げてこられた特別活動の研究と実践の成果を振り返り、その長きに渡る歩みに敬意を表すとともに、特別活動の充実と発展に尽くしてこられた会員諸氏のご尽力に感謝の念を捧げたいと思います。特別活動は、多様な生活背景をもつ子どもたちが集う今日の学校生活において欠くことのできない教育内容となっています。また、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という言葉に表されているように人間形成の核となっています。特に、子どもから大人へと成長していく過程で様々な課題に直面する中学生にとって、特別活動の存在が大きな支えになっていることを貴研究会は、生徒会長サミットをはじめとする諸活動を通して明らかにしてこられました。その意義は今後ますます重要になってくることと思います。

現在、特別活動は、コロナ禍の 3 年間を経て、オンラインによる学びという新たな扉を開きました。これからの特別活動が、その扉の向こうにどのような学びの世界を築くことができるのか、日本特別活動学会も貴研究会とともにこの問題に取り組んで参りたいと考えております。貴研究会のますますの発展を祈念して、お祝いの言葉といたします。

還暦からのあらたなスタート

日本特別活動学会
副会長
文教大学教授
米津 光治



東京都中学校特別活動研究会が創立 60 年を迎えられましたことを会員の皆様とともにお祝いしたいと思います。

特別活動は、1958（昭和 33）年に教育課程に位置付けられて以来、「集団活動」「自治的な活動」であることを特質として、そのあゆみが続けてまいりました。その間、時代の変化や時宜の教育課題等に応じながら、今日まで「なすことによって学ぶ」という特別活動の意義を大切にするとともに、学校生活を基盤に据えた子どもたちの自主的・実践的な活動を支援し、その役割を果たしてきました。教科書のないこの特別活動を充実・発展させてきたのは、まさに貴研究会の歴代の会長、副会長や各委員長ら役員のご尽力と、会員の皆様方の学校現場における様々な創意工夫による実践の賜物であると考えます。

60 年目を迎えたということは、人間であれば「還暦」に当たります。古来より 60 歳は生まれ年と同じ干支に帰る事から「還暦」と呼ばれ、人生の円熟期を過ぎて、あらたな第 2 の人生の始まりを意味します。昨今、子どもたちの人間関係の希薄さから生じる問題等から、特別活動に対する期待や関心がこれまで以上に高まっていると受け止めています。

今後も、貴研究会があらたな課題に取り組まれながら、「古希」「傘寿」「卒寿」のように年齢の節目を重ねられて、一層の成果を上げられますよう祈念申し上げます。

社会の変動や変化に対応しての 特別活動の充実と発展を期して

第八代会長 原口 盛次



東京都中学校特別活動研究会が、創立以来60周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。またこの間、研究会の充実や発展のためにご尽力してこられた役員諸氏や会員の皆様に衷心より敬意を表します。

今日、創立当初とは異なり、科学技術の進歩やコロナ禍など、社会環境や生活環境には変化が見られており、特別活動の在り方にもこれらの状況を踏まえた対応が求められているものと思います。

このような状況の中で中学校特別活動に関する研究活動を推進しておられる東京都中学校特別活動研究会の役員の皆様や会員諸氏に重ねて敬意を表します。

創立60周年という記念すべき節目に当たり特別活動の重要性を改めて考えてみますと、集団活動を通して、特に民主主義社会の推進者としての人道主義に基づいた活動の充実とその質的な向上を図ることが大切ではないかと考えられます。また、変化する社会へのより良い適応や主体的な社会生活改善への意欲をもち、自己実現を図っていく能力の育成とともに、集団活動における多様な人間活動を通して、情緒豊かな人間性が培われることが大切ではないかと考えられます。

これからの社会における変動や変化に対応しての東京都中学校特別活動研究会の役員の皆様や会員諸氏のご活躍とご健勝、並びに研究会の更なる充実と発展をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

創立60周年おめでとうございます。

第十代会長 鶴巻 武



創設から現在まで会の発展にかかわったすべての皆様に心から敬意を表し、その一員に加えていただいたことに心から感謝しています。

56年も昔になりました。東武東上線ときわ台駅で下車して上板一中の月例研究会に北多摩のはずれから息せき切って参加したのを思い出します。みなさんの熱のこもった研究協議、新入りを包み込む懇親の温かさのおかげで私も特活のお仲間に入れていただきました。それ以来多くを学びたくさんの知己を得ました。

今年90歳になりました。令和の日本型教育と言われる学校の現状にはすっかり疎くなり往時の記憶もだいぶ薄れてきました。

今は、特別活動で学んだものを高齢者の健康寿命延伸に生かしています。地域で「通いの場」を主宰し老年学・老年医学の上に集団づくりの理論、支援技術、ホスピタリティの精神等々で「いつまでも動ける体」「認知症のない頭」「ハリのある心」を目指しています。楽しさを基盤に社会参加・交流、活動の深化に伴って自己効力感の改善に結びつくのは老いも若きも変わりません。

教師と生徒の心を元気にする都中特活研究会のますますの発展を心から期待しています。

都中特活 創立 60 周年を迎えて

第十五代会長 保積 芳美



創立以来、研究熱心な多くの諸先生方のご尽力により都中特活が 60 周年を迎えられましたことは大変喜ばしく心からお祝い申し上げます。

私と本会との出会いは 1978 年 5 月の研究会でした。以後、本会の研究会で拙い実践発表を幾度かさせていただき、その都度、鶴巻武先生や山田忠行先生など多くの経験豊かな先生方から有為な指導・助言をいただくうちに、特別活動が学校教育の中で生徒一人ひとりの人間形成に最も大切な教育活動であり、学校経営の中心に据えるべきものであるという認識を諸先生方と共有するようになりました。

爾來、本研究会を通して、特別活動の教育的な意義や価値を多くの先生方とともに、特別活動の理念を活かして、生徒一人ひとりが、良さを認めあい、活かしあい、共に学び高めあう学校生活を送ることができるようにしたいという思いから、本研究会では、学級活動・生徒会活動・学校行事等に関する多様な研究企画を提案し、熱心な先生方と共に研究実践してきたことが懐かしく思い出されます。中でも加々美会長の下で始めた全都的な生徒会サミット（2002 年 5 月初実施、後に生徒会長サミットと改称）の実施は、今日まで脈々と継承されてきており大変嬉しく思っております。

終わりに、長びく新型コロナ禍にあっても、本研究会が創意工夫して特別活動の実践・研究をされてきていることに心から感謝申し上げます。今後も益々若い先生方を育てご発展されますように祈念しております。

思いを込めて

第十六代会長 加々美 肇



東京都中学校特別活動研究会が創立 60 周年を迎えました。これまで本研究会の運営・研究に尽力された先人・諸先輩の志に思いを深くします。また、私と同じ時代に在職し互いの実践活動を通して研究を進めた仲間に、心からの同志的連帯感を込めて感謝申し上げます。

私の手元に山田忠行先生（第 11 代会長）が丁寧に記録された「都中特活の歩み」の一部が在ります。本研究会の誕生が次のように記述されています。

《東京都中学校特別教育活動研究会結成総会》昭和 37 年 12 月 8 日（土）台東区立上野中学校の図書室で開催され、即日『東京都中学校特別教育活動研究会』の正式な発足をみるに至った。参会者 60 名。この後に、総会次第・役員等が続きます。短い文章ですが、「即日」や「正式な」の表現に並々ならぬ思いが込められていると感じます。

ここから始まった 60 年後が今です。特別活動の展開を阻むかのようなコロナ禍。「為すことによって学ぶ」という特別活動の基盤である集団活動が殆どない学校生活です。集団活動を体験する機会を生徒は失い、教師は指導する機会を失いました。指導方法が分からない教師がいます。だからこそ、それ故に本研究会は様々な実践例（失敗例を含めて）を提供しましょう。並々ならぬ思いを込めて研究会の存在意義を示しましょう。

実践的な研究活動の益々の充実を！

第十八代会長 美谷島 正義



本研究会が創立60周年を迎えるにあたり、会員の皆様とともに心から喜びたいと存じます。教職の関係に従事し、私自身45年以上が経ちます。昨今の現状を鑑みると、世界的な大きな変化の中で改めて「今後の教育の在り方」について見つめなくてはならないと感じています。

その中で、改めて、特別活動が生徒に与えるものは、何かについて再考してみました。結果、集団活動を通して、「自ら考え行動する、自主的実践的な態度を獲得させること」であると強く実感しました。もちろん目標にも、この精神は入っています。この態度を身に付けた生徒は、これからの生活でそれぞれの自己の目標に向かって生き生きと自己を活かすことが出来るとものと確信します。岡山大学におられた木原先生が、特別活動におけるこの指導のアプローチとして、「自発的、自治的活動によるもの」と「ガイダンス的な活動によるもの」の2つを提唱しました。特別活動の内容から考えれば、主に前者が学級活動(1)や生徒会活動であり、後者が学級活動(2)、(3)や学校行事の指導であると考えます。

本研究会では、これまで、この両面にかかる実践的な研究活動を進めていた記憶があります。そして、この成果は、生徒への効果的な指導の在り方ばかりではなく、教師としての人間的な成長にも大きく影響してきました。今後も会員への情報発信も含め本研究会の研究活動に期待しています。

新たな世界を創る特別活動

第十九代会長 佐々木 辰彦



東京都中学校特別活動研究会発足60周年を迎えお慶び申し上げます。歴代の会長のみな様そして第20代以降の会長のみな様のお力によって、東京都中学校の「特別活動」は、指導方法の創意工夫を重ね、その重要性を周知させながら指導内容の充実を図り続けることができました。それはひとえに特別活動研究会の皆さまのお力以外には考えられません。

特別活動を愛してやまない会員の皆さまお一人お一人の熱意と会員相互の信頼感がこれまでもこれからも東京都中学校特別活動研究会を発展させていくことでしょう。私も微力になりましたが、お手伝いできれば幸いです。

「コロナ禍」にあって、対面することが困難であった数年間、顔と顔を突き合わせ意見を言い合う話し合い活動ができなくなりました。そこで、それに代わる手段としてICTの活用が進みました。ほぼ時期を同じくして文部科学省のGIGAスクール構想を受け、東京都が1人1台の学習者用端末を整備したことでその活用が飛躍的に伸びました。直接参加が難しい遠方や参加者の事情などを考慮した会合形式は、特別活動が強調している「なすことによって学ぶ」の新たな一つの指導方法として今後も活用すべきです。

コロナ禍前は、私も多くの小・中学校で特別活動、道徳、人権尊重教育等の研修会に助言をする機会があり、直接生徒の活動を見守ってくださる先生方の課題に答えてきたつもりです。今後は、研修会のスタイルが多様であっても先生方の今日明日の困惑について、直接お会いし、目を見て語り合い共に学び合う機会ができるようになることを期待している昨今です。変わっていく新たな時代を創るために力を合わせて向き合っていきましょう。

創立 60 周年 おめでとうございます

第二十代会長 勝亦 章行



東京都中学校特別活動研究会創立 60 周年
誠におめでとうございます。

平成 24 年度一年間ではありますが、会長を務めさせていただきました。平成 24 年度は、東京都中学校特別活動研究会創立 50 周年の記念すべき年でした。本研究会が全国大会の実行委員会として、第 41 回全日本中学校特別活動研究会・東京大会を開催し、その際に、第 11 回中学校生徒会長サミットを実施し、「いじめ」を取り上げ、大変熱心な議論がありました。創立 50 周年記念祝賀会を、盛会のもと行われたことを覚えています。

2019 年から、世界規模で新型コロナウイルス感染拡大により、特別活動の特質である集団活動が十分できなかったことは、大変残念なことでした。しかし、特別活動を見直すよい機会となり、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間では、会得できない特別活動の必要性、教育的価値が、確認されたと思います。やはり、特別活動が果たす役割は大きく、生徒の自主的、実践的な活動の中で、体得できる教育活動は、生徒の学習生活に潤いを与え、自己を生かす能力を培う教育的意義があることは、明らかなです。

本研究会は、日々の実践と研究活動を合い言葉に、諸先輩方が、その時代の課題・要請に果敢に挑戦し、実践と研究を推進し、中学校特別活動の中心的研究会として、活動をしてきました。今後の東京都中学校特別活動研究会の益々の発展を祈念します。

都中特活の強みを生かして

第二十一代会長 松本 康夫



東京都中学校特別活動研究会の創立 60 周年
をお祝い申し上げます。

私と貴会との出会いは平成 3 年に教育研究員（「特別活動」）となったことがきっかけでした。研究員の仲間に「都中特活」で活躍されている方がいたことから自然に参加することができました。事務局会や宿泊研修で繰り広げられる先輩方の議論の内容を十分に理解することはできませんでしたが、特別活動に対する熱い思いと、人間的な魅力に引き込まれました。そして、特別活動は集団を対象としているが、一人一人と向き合い、一人一人を結びつける活動を通して集団の成長と個人の成長をとともに図ることを目指していることを学びました。さらに都中特活の仲間が、生徒一人一人を大切にするという、当たり前のことを、当たり前のこととして特別活動の実践に取り組む姿はその後の教員人生の指針となりました。研究と実践が一体となっていることが都中特活の強みです。

今、学校はコロナ禍後の教育活動、多様性や子供の権利を尊重することを踏まえた教育活動等の推進が問われていますが、これまで都中特活が培ってきた生徒一人一人を大切にす集団活動の研究と実践の中に、その答えがあると思います。今後も貴会の強みを生かして、新しい時代を生き抜く子供たちの資質・能力の育成の原動力となられることを期待いたします。

創立 60 周年を祝して

第二十三代会長 上岡 祥邦



東京都中学校特別活動研究会が発足して 60 年を迎えましたこと、おめでとうございます。これもひとえに、歴代会長先生はじめ会員の皆様の特別活動に対する強い思いと熱心な研鑽の賜と深く感謝申し上げます。

平成 29 年に現行学習指導要領が告示され、特別活動の重要性が強く謳われるようになりました。特に、小中高で統一された「キャリア教育」の推進や「キャリアパスポート」の導入等、一見すると現場に衝撃を与える内容が示されています。しかし、落ち着いて学習指導要領解説「特別活動編」を読んでみてください。そこには、何も新しい取り組みをしなければならないとは書いていません。これまでの教育活動を「キャリア」の視点で見直し、学級活動を要として全教育活動で意図的にキャリア形成を図って欲しいということです。「キャリアパスポート」についても同様です。これまで、どの学校においても学期の終わりや長期休業前、行事の前後に計画をつくらせたり振り返りをさせていたはずですが、ただ大切なことは、それらの計画や振り返りで用いたワークシートが、きちんと生徒達の手元に残っているか、ということです。すなわち、ポートフォリオです。多くの区市で「キャリアパスポート」について統一様式を定めたことと思いますが、統一様式がなかったとしても、それらをきちんと保管させ、生徒がいつでも見返せるようにしておくことが求められているのです。小学校や高等学校との連携も同様です。中学校として小学校ではどのような学びを積み重ねてきているのか、その学びの上に立って中学校としての学習をどのように展開するのか、また、校長学校での学びにどうつなげていくのか、学習指導要領の改訂は、これらのことを改めて見返すきっかけでしかないのです。

東京都中学校特別活動研究会が、研究や実践を発信していくことで、特別活動に対する正しい理解が深まることを期待します。

祝辞

第二十四代会長 青木 由美子



東京都中学校特別活動研究会創立 60 周年、誠におめでとうございます。

私は、平成 9 年度の東京都教育研究員特別活動部会をきっかけとして特別活動の研究に携わることとなり、平成 10 年度東京都教員研究生、平成 13 年度東京都開発委員「東京の教育 21」において特別活動の研究をしてまいりました。その後、本研究会での活動に関わることとなり、昨年度に退職するまでの 20 年余りの間、諸先輩方にご指導を賜りながら、多くの皆様と一緒に特別活動の研究に携わることができ、充実した教員生活を送ることができたと大変感謝しております。

近年では、本委員会や特別活動研究員の人材確保が年々難しくなっていく中で、本委員会と東京都教育研究員の連携を図り、研究員の夏季合宿や研究発表会に本委員会メンバーが参加するなどしてきたことは、本委員会の研究の充実や人材確保につながったのではないかと自負するところです。さらに、平成 29 年に告示された学習指導要領では、「特別活動はキャリア教育の要」とされ、その役割が大きく示されたことは、大変有意義なことであります。そのためもあってか、特別活動を研究の柱とする中学校も年々増加していると実感しております。

「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を視点として資質・能力を目指す特別活動は、子供たちの人間形成に大きな役割を担っています。今後も、子供たちのために、東京都中学校特別活動研究会の活動の充実と益々のご発展を心より祈念して祝辞といたします。

「60周年の節目を迎えて」

第二十五代会長 荒巻 淳



東京都特別活動研究会創立60年の年、私も今年で60歳、還暦を迎えることになりました。公私ともに大変嬉しいです。

長い歴史の中で多くの人々がこの日本で「貴重な学び」を経験し、時を経て再会をした時に思い出話に花を咲かせるのは、紛れもなく、仲間とのふれあいや諸活動を成し遂げて感動した思い出や失敗談、そして部活動の話題です。ゲームや、ケイタイ、SNSがまだ存在しない時代だったので自分たちでいつも楽しい遊びを考え、仲間と切磋琢磨しながら自然に人間関係を形成していったのだと思います。

様々な社会の変化とともに子どもの人間関係構築能力や社会性などが大きな課題となっている昨今、学校における特別活動は、極めて重要な役割を担っています。「なすことによって学ぶ」、その「特別活動」の不思議な力と出会ったことが、私が教職に就くきっかけになっていたことは否めません。教員なって取り組んだ様々な学級活動、生徒会活動、そして学校行事は、校長になってさらに深化しました。コロナ禍による活動制限にも負けず全教員と全校生徒を巻き込んで取り組んだ学級目標達成に向けた振り返り動画づくり「通称 LOOK BACK～次の成長につなげるために～」では、国のGIGAスクール構想の大きな波に乗っかり、まさに特活サーフィンになりました。

現行学習指導要領が全面実施となり3年が経ち、コロナ禍でますます重要性を増してきた「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という特別活動の三つの視点を踏まえ、生徒の発意・発想を重視し、啓発しながら、生徒の自尊感情や自己肯定感の育成に尽力してまいります。

「キャリア教育の要」としての特別活動

関本 恵一



東京都中学校特別活動研究会発足60周年おめでとうございます。

40周年のお祝のときは「奥が深く、やればやるほど楽しい特別活動」、50周年には「特別活動の役割を見直そう」とお祝いの言葉を述べさせていただきました。今回もお祝いを申し上げることができることをたいへん光栄に思います。

学習指導要領が変わるたびに、特別活動は大きく動いてきました。平成元年には学級会活動と学級指導の合体、部活動に参加することによってクラブ活動の履修に代える(部活代替)制度の導入、平成10年にはクラブ活動が廃止されました。一方では、総合的な学習の時間が教育課程に加わり、特別活動との区別があいまいになりました。

今回の改訂では、総則に「特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と記され、学級活動の内容が小中高と統一されました。その校種間の継続に大きな役割を果たす教材がキャリア・パスポートです。小学校と高等学校の間に立ち、小学校での成果を受け、生徒が学習や生活への意欲をより高め、将来の生き方を考え、それを高等学校に繋ぐ役目が中学校にはあります。

東京都中学校特別活動研究会には、新しい学習指導要領に示されたキャリア教育を牽引する役割を期待するとともに益々のご発展をお祈りします。

「創立 60 周年に寄せて」

西 敬司郎

東京都中学校特別活動研究会が創立 60 周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

近年の特別活動の動向は、決して順風満帆という訳ではありません。教員養成科目「特別活動の指導法」の縮小化や、2020 年 2 月 27 日に始まった新型コロナウイルス感染症対策による全国一斉の臨時休校など、「特別活動」にとっては大いなる逆風でした。しかし、「令和の日本型学校教育」の構築を目指す昨今では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の根幹をなす「特別活動」の実践が期待されています。

特別活動は、人間関係形成・社会参画・自己実現の 3 つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つという特徴があり、学校が社会の縮図であるという理解から、社会生活を送る上で重要な資質・能力を身につけることが期待されているからです。

長期にわたるコロナ禍は、「学校行事が減って残念」という声を生み、学校行事に対する重要性を再認識させる結果を生みました。今後は、今までの特活の復活ではなく、本会が実践してきた「生徒会長サミット」をてこに、「ポスト・コロナ時代の特別活動」の実践に期待を寄せています。

生徒がどういう思いを抱きどのような活動を展開したいのか、感染症対策の下ではどのような工夫が必要なのか、などについて、生徒とともに考え、活動を作り上げることが大切になることでしょう。学びの主体である生徒の思いを大切にすることで、特別活動で目指す資質・能力の育成を目指す上でも、教師と生徒間の信頼をより強いものにする上でも大きな意味を持つと思います。

本会では、ホームページの充実や、オンライン会議等、様々な進化を遂げていらっしゃいます。その素晴らしさに感動するとともに、今後のご発展にますます期待が膨らむばかりです。

東京都中学校特別活動研究会『60年の研究の歩み』 《昭和37(1962)年～令和4(2022)年》

I 都特活の発足の歩み ～準備会より総会に至るまでの経過～

(1) 設立までの経緯

須田重雄(第2代会長)が昭和36年4月 板橋区立志村第一中学校長として赴任した直後、都教委の某氏から、近々文部省教研集会が全国規模で実施されるので、都でも未だ結成されていない特別教育活動研究会を作って欲しいとの話があった。その翌年の昭和37年、今度は番町小学校長、高杉新作先生から須田重雄先生に、同趣旨のもとで「自分が小学校をやるから、君、中学校を引き受けてくれよ」と言われ、須田重雄先生は、当時教務主任であった菊地四郎先生(第3代会長)を伴って番町小学校まで組織づくりに出向いた。

《東京都特別教育活動研究会設立準備打合せ》昭和37年11月12日夕刻、高杉、須田、両先生を囲み、桜田、後藤、岩亀諸先生方数名が過去における諸種の事情と設立準備会開催のための具体的な方法についての意見の交換を行った。

《東京都特別教育活動研究会開設準備会》11月17日、麹町番町小学校図書室。小学校世話人の高杉新作先生他、各区世話人31名、中学校世話人の須田重雄先生他、各区世話人35名の参加者を一堂に会し、設立趣意を確認の上、規約草案を検討、討議の結果小学校と分離して会設立を進めることに決定。中学校側は小委員会を設けて、規約研究を重ね設立総会のために草案を作成することになった。

《会長内定》11月20日、会長に台東区立上野中学校長 幸田 勝先生内定。

《総会準備委員会》11月26日、板橋区立志村第一中学校に、準備委員として、須田、宗、岩亀、富永、後藤、高橋、本多、鮎ヶ瀬、小岩、石崎、丹野の諸先生が参集し、準備委員会は規約検討、修正を行い原案作成、大会当日の日程、準備について打ち合わせ、仕事の分担等、夜遅くまで討議を重ね、篠突く雨の中を帰宅される状態であった。

(2) 都特活の発足

《東京都中学校特別教育活動研究会結成総会》昭和37(1962)年12月8日(土) 台東区立上野中学校の図書室で開催され、即日『東京都中学校特別教育活動研究会』の正式な発足をみるに至った。参加者約60名

- 大会次第
1. 開会のことば 高橋四郎(品川・東海中)
 2. 発起人代表挨拶 幸田 勝(台東・上野中)
 3. 議長団選出 田戸 忍(葛飾・青戸中) 本多太郎(墨田・堅川中) 宗 鳳悦(墨田・向島一中)
 4. 議事 (1) 経過報告 須田重雄(板橋・志村一中) 祝辞 全特活会長柿沼良平(台東・忍岡中)
(2) 規約提案 岩亀幸三郎(練馬・上石神井中)
(3) 役員選出 指名委員長 桜田弥兵衛(品川・日野中)から候補者名発表
会長幸田 勝(台東・上野中) 副会長小滝四郎(新宿・西戸山中) 白沢平七郎(西多摩増戸中)
挨拶 新役員挨拶 幸田 勝 来賓祝辞 宇留田敬一指導主事
 5. 規約(一部修正加筆) 役員共に満場一致決定。(事務局 菊地四郎記)

II 『60年の研究の歩み』《昭和37(1962)年～令和4(2022)年》

【昭和37(1962)年度】 会長 幸田 勝(台東・上野中) 事務局長 須田重雄(板橋・志村第一中)

[東京都中学校特別教育活動研究会結成総会] 12月8日(土) 台東区立上野中学校図書館 即日正式に発足

【昭和38(1963)年度】 会長 幸田 勝(台東・上野中) 事務局長 須田重雄(板橋・志村第一中)

[第1回総会] 6月10日(月) 台東区立上野中学校図書館

[研究発表] 「学級活動の計画と指導―特に学級新聞の機能を積極的に生かして―」 6月21日(金) 江戸川区立小岩第三中学校

[自主的公開授業・研究会] 「当面する学級活動の諸問題」 11月29日(金) 板橋区立板橋第四中学校

[講師を囲む研究会] 2月28日(金) 台東区立上野中学校図書館 講師:飯田芳郎(文部省教科調査官)

[特活会報] 第1号(7月7日発行)

※ 東京都中学校特別教育活動研究会『会報』第1号を発行した

【昭和39(1964)年度】 会長 須田重雄(板橋・志村第一中) 事務局長 菊地四郎(板橋・志村第一中)

[第2回総会] 4月30日(木) 台東区立上野中学校図書館

[自主的研究会] 「特別教育活動の現状をめぐる問題点」 板橋区立志村第一中学校

発表者:東山直喜(文京・文林中) 小郷良一(板橋第四中) 講師:木川達爾(都教委指導部第四課主査)

「特別教育活動の年間指導計画」 2月16日(火) 江東区立第二亀戸中学校

[特活会報] 第2号(5月20日発行) 第3号(12月15日発行)

【昭和40(1965)年度】 会長 須田重雄(板橋・志村第一中) 事務局長 菊地四郎(板橋・志村第一中)

[研究会] 「特別教育活動研究の組織調査 校内の実態と指導計画化との関連」 11月30日(火) 目黒区立第二中学校

発表者:川名昭臣(文京・文林中)

「クラブ活動の校内の実態と指導計画化との関連」 発表者:三上 茂(渋谷・鉢山中) 2月8日(火)

[特活会報] 第4号(4月10日発行)

【昭和41(1966)年度】 会長 須田重雄(板橋・志村第一中) 事務局長 樋下田恒雄(世田谷・弦巻中)

[研究会] 「特別教育活動の評価」 10月28日(金) 目黒区立第二中学校

「学級活動とクラブ活動の関連」 2月2日(木) 保谷市立青嵐中学校

発表者:生田 清(目黒・第二中) 大迫静輝(大田・蒲田中) 会田吉之典(杉並・大宮中) 横尾武成(保谷・青嵐中)

講演「学級活動とクラブ活動の関連」講師:堀 久(文部省教科調査官) 高橋幸三郎(都教委指導主事) 時松茂親(都研指導主事)

【昭和42(1967)年度】 会長 須田重雄(上板橋第一中) 事務局長 田代 拳(板橋・志村第一中)

[定期総会] 6月30日(金) 板橋区立上板橋第一中学校

[研究協議会] 第1回「学校の教育活動の中での学級活動の位置づけと本質を確認し、活動の実態を再検討する」
発表者:古橋美代治(大田・安方中) 小暮和夫(東村山第三中) 10月17日(火) 小平市立小平第二中学校
講師:生田 清(目黒・第二中学校長)

第2回「学級活動と学級経営」 2月8日(木) 葛飾区立青戸中学校
「本校の特別活動の歩み」 発表者:松岡 昂(葛飾・青戸中) 講師:大石勝男(豊島教委指導主事)

[月例研究会] 第1回「学級活動における公費について」 9月23日(土)

発表者:大本邦嘉(台東・忍岡中) 長戸辰男(江東・第三砂町中) 青柳健一(大田・御園中)

第2回「クラブ活動における公費について」 10月25日(土)

第3回「学級活動の実態と問題点」 12月16日(土) 発表者:川口敏雄(板橋・志村第一中)

第4回「学級活動の実態と問題点」 1月27日(土)

発表者:川口敏雄(板橋・志村第一中) 安倍秀雄(新宿・西戸山第二中) 鶴巻 武(東大和・第一中)

第5回「教育課程改訂中間発表における特別活動の問題点」 発表者:大迫静輝(大田・蒲田中) 3月9日(土)

※ 昭和42年9月から「月例研究会」が発足した。月一回くらいは勤務時間以外に特活の研究に専念しようとの、岩亀幸三朗(練馬・開進第一中)研究部長の提唱による。

[研究紀要] 創刊号(昭和43年5月18日発行)

[特活会報]

※ 昭和42年度から「研究紀要」が発刊された。

※ 教育課程の改訂により「特別教育活動」は「特別活動」となった。

【昭和43(1968)年度】 会長 須田重雄(上板橋第一中) 事務局長 田代 拳(板橋・志村第一中)

[定期総会] 5月23日(木) 板橋区立上板橋第一中学校

講演「新教育課程の特別活動」講師:堀 久(文部省教科調査官)

[研究協議会] 第1回「生徒会活動を高めるために学年・学級の活動をどのように指導したらよいか」 10月24日(木)

問題提起:阿部忠志(東村山第四中) 講師:大石勝男(豊島教委指導主事) 東村山市立東村山第四中学校

第2回「学級活動の問題点と改訂の方向」 2月13日(木) 大田区立蒲田中学校

問題提起:古橋美代治(大田・安方中) 講師:前川清水(都研主査)

※ 研究協議会は、年1回を多摩地区で開催し、その地域の研究テーマを取り上げ援助しようとの、須田重雄(上板橋第一中学校長)会長の提唱で多摩地区での研究協議会が発足した。

[月例研究会] 第6回「学年当初における学級活動」 4月27日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

問題提起:伊藤明治(小平第二中) 草部 浩(中央・久松中) 講師:大石勝男(豊島教委指導主事)

第7回「役員中心になりがちな生徒会活動をどのように打開するか」

問題提起:川名昭臣(文京・文林中) 6月22日(土) 文京区立文林中学校 講師:西村光矩(都教委指導主事)

第8回「クラブ活動における教師の指導の範囲と限界について」 7月13日(土) 東京都教育会館

問題提起:小郷良一(板橋第三中) 講師:時松茂親(都研指導主事)

第9回「生徒のがわからみた生徒会」 9月28日(土) 新宿区立東戸山中学校

問題提起:佐野育男(新宿・戸塚第一中) 講師:金子 猛(新宿教委指導主事)

第10回「ひとりひとりを生かすクラブ活動のあり方」 11月9日(土) 練馬区立開進第一中学校

問題提起:田村 豊(練馬・開進第二中) 講師:岸本信男(練馬教委指導主事)

第11回「学級の雰囲気づくり」 12月14日(土) 東京都教育会館

問題提起:河内義明(世田谷・富士中) 戸上幸男(板橋・志村第一中) 講師:近藤政明(都教委指導主事)

第12回「短時間学級活動のくふう」 1月25日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

問題提起:稲村武治(墨田・両国中) 講師:石井善一(都教委指導主事)

第13回「学級活動の反省」 3月8日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

問題提起:鈴木さよ子(杉並・高南中) 講師:高橋幸三郎(都教委指導主事)

[研究紀要] 第二号

[特活会報]

【昭和44(1969)年度】 会長 須田重雄(上板橋第一中) 事務局長 田代 拳(板橋・志村第一中)

[定期総会] 5月22日(木) 板橋区立上板橋第一中学校 講師:磯貝 敬(都教委南多摩出張所)

講演「一人一人を育てる特別活動の指導—新教育課程の改訂と実施を前にした—」

[研究協議会] 第1回「学級活動をめぐる諸問題」 10月23日(木) 八王子市立第七中学校

発表者:小池国雄(八王子・第七中) 講師:磯貝 敬(都教委南多摩出張所指導主事)

第2回「移行措置をめぐって」分会ごとの発表 2月10日(火) 千代田区立九段中学校 講師:新藤(都研指導主事)

[月例研究会] 第14回「学級活動における活動計画立案指導をどのように進めたか」 4月26日(土) 上板橋第一中学校

問題提起:大迫静輝(新宿・西戸山中)

第15回「日記指導を通じて心の触れ合いをはかる学級活動」 6月21日(土) 渋谷区立鉢山中学校

問題提起:岡谷 誠(足立・第七中) 講師:新井三郎(渋谷教委指導主事)

第16回「生徒会活動への取り組み」 7月12日(土) 目白「うずら荘」

問題提起:小松博則(豊島・道和中) 講師:高橋幸三郎(都教委指導主事)

第17回「一人一人の個性を伸ばすクラブ活動」 9月13日(土) 中央区立久松中学校

問題提起:阿部忠志(東村山第四中) 鈴木さよ子(杉並・高南中) 講師:時松茂親(都研指導主事)

第18回「学級通信と学級経営」 11月22日(土) 中野区立第十中学校

- 問題提起:小暮和夫(東村山第三中) 講師:能村藤一(中野教委指導主事)
- 第19回「新指導要領 特別活動実施上に予想される問題点」 12月13日(土) 目白「うずら荘」
問題提起:関 正就(新宿・大久保中) 講師:大石勝男(都教委指導主事)
- 第20回「学級集団のモラルを高める学級活動」 1月24日(土) 台東区立忍岡中学校
問題提起:大島 真(台東・今戸中) 講師:渡辺福秋(台東教委指導主事)
- 第21回「学級経営の反省」 3月7日(土) 板橋区立上板橋第一中学校
問題提起:榎 常三(上板橋第一中) 講師:時松茂親(都研指導主事)

[都特活月報] NO.1 (10月17日発行)

[特活会報]

※ 都特活月報発行、その趣旨は組織・研究人口を拡げ、研究成果や研究計画を地域に浸透させることである。

【昭和45(1970)年度】 会長 須田重雄(上板橋第一中) 事務局長 大蔵平一郎(板橋・第三中)

[定期総会] 5月23日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

講演「学級指導と学級会活動の関連」講師:宇留田敬一(都教委中学校教育課長)

[研究協議会] 第1回「クラブ活動のあり方」 10月30日(金) 西多摩郡羽村中学校

講師:磯貝 敬(都教委南多摩出張所指導主事)

第2回「特別活動の指導計画作成上の問題点とその対策」 2月8日(月) 東京都立教育研究所

講師:前川清水(都研主査)

[月例研究会] 第22回「学級意識を高めるための学級会活動」 6月27日(土) 杉並区立高南中学校

問題提起:笠山喜隆(杉並・東田中) 講師:大石勝男(都教委指導主事)

第23回「週刊紙“学校ニュース”―新聞委員会も活動」 7月11日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

問題提起:折居郁子(品川・日野中) 講師:矢ヶ崎重夫(府中第七中学校長)

第24回「全員加入の授業クラブ活動をこう進めた」 9月19日(土) 北区立岩淵中学校

問題提起:森島正義(大田・石川台中) 講師:高橋幸三郎(都教委主査)

第25回「学級指導と学級会活動の関連について」 11月28日(土) 豊島区立道和中学校

問題提起:山田忠行(上板橋第一中) 講師:時松茂親(都研指導主事)

第26回「学校行事の指導一修学旅行を中心に」 12月19日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

問題提起:菅原一繁(台東・今戸中) 講師:室町公宏(三鷹・第三中学校長)

第27回「クラブ活動の指導計画作成上の諸問題とその対策」 1月23日(土) 港区立高松中学校

問題提起:大迫静輝(新宿・西戸山中) 講師:葛巻政男(新宿・西戸山第二中学校長)

第28回「学級指導における進路指導の年間計画及び指導展開上問題点」 3月13日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

問題提起:戸高 素(江戸川・上一色中) 講師:吉田 裕(都研指導主事)

[研究紀要] 第三号(昭和46年3月1日発行)

[特活会報] 第22～24号

【昭和46(1971)年度】 会長 須田重雄(上板橋第一中) 事務局長 大蔵平一郎(板橋・第三中)

[定期総会] 5月29日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

講演「新しい教育課程作成におけるこぼれ話」講師:堀 久(文部省教科調査官)

[研究協議会] 第1回「特別活動の授業時数と新しい学級指導の考え方」 10月21日(木) 青梅市立第一中学校

講師:磯貝 敬(都教委南多摩出張所指導主事)

第2回「年間指導計画及び個別の指導計画作成上の問題点とその対策」 2月7日(月) 東京都立教育研究所

講演「豊かな人間性に根ざした指導計画の作成を」講師:桑原知幸(都研主査)

[月例研究会] 第29回「学級会活動について」 4月24日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

講師:大島 真(大田教委指導主事)

第30回「全日本中学校特別活動研究大会結成大会に向けて一研究主題等」 6月19日(土) 新宿区立西戸山中学校

講師:時松茂親(都研指導主事)

第31回「学級指導実践上の課題」 7月3日(土) 葛飾区立亀有中学校

問題提起:小池国雄(八王子・第七中) 講師:能村藤一(都教委指導主事)

第32回「クラブ活動実践上の問題点」 9月25日(土) 渋谷区立松濤中学校

問題提起:庄司仁三(練馬・開進第一中) 松浦 講師:加藤雅信(浦和・大原中学校長)

第33回「全日本中学校特別活動研究大会結成大会に向けて」 11月27日(土) 新宿区立西戸山中学校

講師:時松茂親(都研指導主事)

第34回「学年委員会の運営について」 12月11日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

問題提起:石塚恒雄(北・岩淵中) 講師:相馬孝之(板橋第五小学校長)

第35回「全日本中学校特別活動研究大会結成大会に向けて一分科会主題等」 1月22日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

講師:時松茂親(都研指導主事)

第36回「遠足の効果をいっそう高めるために」 3月11日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

問題提起:山崎隆造(小金井・東中) 講師:時松茂親(都研指導主事)

[研究紀要] 第四号(昭和47年2月7日発行)

[特活会報] 第25～27号

【昭和47(1972)年度】 会長 須田重雄(上板橋第一中) 事務局長 大蔵平一郎(板橋・第三中)

[定期総会] 5月13日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

講演「クラブ活動をめぐる問題点」講師:高橋幸三郎(都教委多摩教育事務所指導課長)

[研究大会・] 第1回「望ましい人間形成をめざし、新しい特別活動の実践をどのようにすすめたらよいか」

研究協議会〕〔全日本中学校特別活動研究会結成大会〕6月8日(木)・9日(金) 板橋区立区民会館・上板橋第一中学校外5校
講師:堀 久(文部省教科調査官) 他

第2回「クラブ活動の組織・運営をめぐる諸問題」10月21日(土) 国分寺市立第一中学校
提案者:福永澄雄(国分寺第一中) 講師:高橋幸三郎(多摩教育事務所指導課長)

〔月例研究会〕第37回 4月22日(土) 板橋区立上板橋第一中学校 講師:古橋美代治(府中教委指導主事)

第38回「学級集団の研究」7月8日(土) 杉並区立済美研究所
提案者:横山忠太郎(杉並・井草中) 講師:西川 猛(杉並教委指導主事)

第39回「生徒会リーダーをどう育てるか」9月16日(土) 東村山市立東村山第三中学校
提案者:鈴木浩一(昭島・清泉中) 講師:大沢正治(小平教委指導主事)

第40回「学級指導実践上の問題点」11月25日(土) 大田区教育センター
提案者:白井三恵(大田・蓮沼中) 講師:大島 真(大田教委指導主事)

第41回「学級会活動実践上の問題点」12月16日(土) 台東区立竜泉中学校
提案者:正田清明(台東・竜泉中) 講師:金子 猛(台東教委指導主事)

第41回「学校行事の精選と生徒の参加」1月27日(土) 大田区教育センター
提案者:櫛田鉄雄(大田・志茂田中) 講師:中島 穰(新宿・西戸山中校長)

第43回「特別活動と個別指導について」2月24日(土) 板橋区立上板橋第一中学校
提案者:田村 豊(練馬・上石神井中) 高津 厳(国分寺・第三中) 講師:菊地四郎(国分寺・第一中校長)

〔研究紀要〕第五号

〔特活会報〕

【昭和48(1973)年度】 会長 須田重雄(上板橋第一中) 事務局長 大蔵平一郎(板橋・第三中)

〔定期総会〕5月19日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

〔研究協議会〕第1回「生徒指導を進める上での家庭とのつながり」提案者:蛭名公子(羽村第二中) 10月18日(木) 秋川市立福祉会館

第2回『シンポジウム』2月8日(金) 渋谷区教育センター
「現代の子どもをどうとらえるか〜都内中学校生徒実態をどのように理解し、指導を進めたらよいか。」

意見発表者:斉藤 実(新宿・大久保中) 三浦 猛(渋谷・原宿中) 北村源太郎(練馬・中村中)
永瀬純三(中野・第三中) 鶴巻 武(東久留米・西中) 講師:宇留田敬一(都教委中学校教育課長)

〔月例研究会〕第44回「学級指導における進路指導の実践」4月21日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

提案者:根本 強(文京・第一中) 講師:岩亀幸三郎(練馬・石神井東中校長)

第45回 セミナー①「集団活動と指導の問題」6月23日(土) 中野区立中央中学校 講師:時松茂親(都研指導主事)

第46回「クラブ活動とその問題点」提案者:森島正義(大田・石川台中) 7月7日(土) 板橋区立上板橋第一中学校

第47回 セミナー②「集団指導の形態と実践的課題」9月22日(土) 中野区立中央中学校 講師:井上裕吉(青梅・第一中)

第48回 セミナー③「集団指導の方法」12月8日(土) 中野区立中央中学校 講師:横山忠太郎(大田・大森第二中)

第49回 セミナー④「集団研究のまとめ」3月9日(土) 板橋区立上板橋第一中学校 講師:時松茂親(都研指導主事)

※ 特別活動研究実践の理論の裏付けを明確にし、特別活動の充実と深化を図るため「研究セミナー」を新設した。

〔研究紀要〕第六号(昭和49年3月25日発行)

〔特活会報〕

【昭和49(1974)年度】 会長 菊地四郎(中野・中央中) 事務局長 榎 常三(上板橋第一中)

〔定期総会〕5月11日(土) 中野区立中央中学校

〔研究協議会〕第1回「生徒の自発的活動を活発にするための学級会活動」10月15日(火) 都研三鷹分室

提案者:久我林三(小平第五中) 講師:緑川尚夫(都研指導主事)

第2回『シンポジウム』「活気ある学校生活を生徒に獲得させるにはどうしたらよいか」2月13日(木)

意見発表者:住谷俊明(保谷中) 青木薫(武蔵村山・第二中) 横尾武成(保谷・柳沢中) 中野文化センター
横山忠太郎(大田・大森第二中) 講師:原田 穰(新宿・西戸山中校長) 磯貝 敬(杉並・荻窪中学校長)

〔月例研究会〕第52回「特別活動と生活指導〜その実践上の関連」11月14日(木) 中野文化センター

提案者:榎 常三(上板橋第一中) 講師:尾崎 勝(都研指導主事)

第53回「学級指導の指導過程〜男女交際の指導」12月7日(土) 中野区立中央中学校

提案者:庄司仁三(練馬・開進第一中) 講師:時松茂親(都研指導主事)

第54回「特別活動と生活指導②」1月25日(土) 中野区立中央中学校

提案者:根本 強(文京・第一中) 講師:時松茂親(都研指導主事)

第55回「生徒の生活や成長の課題に即した学習指導の指導計画」3月8日(土) 中野区立中央中学校

提案者:阿部忠志(中野・中央中)

〔第3回全日本中学校特別活動研究会東京大会〕「これからの特別活動の充実をどのように進めるか」

6月6日(木)・7日(金) 中野区立公会堂・中野文化センター・中野区立中央中学校

〔研究紀要〕第七号(昭和50年3月25日発行)

〔特活会報〕

【昭和50(1975)年度】 会長 菊地四郎(中野・中央中) 事務局長 榎 常三(上板橋第一中)

〔定期総会〕5月24日(土) 中野区立中央中学校

- [研究協議会] 第1回「個性を生かす学級集団の指導」授業公開・提案:鈴木辰博(三鷹・第四中) 11月11日(火) 三鷹市立第四中学校
- 第2回『シンポジウム』「現場で行われてきた教育活動の実際について解明し、生徒の生きがいとエネルギーにこたえる特別活動を追究する」 2月 中野文化センター
意見発表者:横尾武成(保谷・柳沢中) 鈴木辰博(三鷹・第四中) 渡辺幸次(渋谷・外苑中)
米倉 忠(杉並・荻窪中) 助言講師:和田三郎(都教委指導主事)
- [月例研究会] 第56回「学校経営と特別活動」提案者:大島 真(新宿・淀橋第二中教頭)
- 第57回「ひとりひとりの生徒の問題や意見を反映し、明るい学校生活を築く生徒会活動の指導はどうあったらよいか」
提案者:鶴巻 武(東久留米・西中)
- 第58回「自発性を引き出す指導原理・教育相談の事例から学ぶ」講義・講師:緑川尚夫(都研教育相談部指導主事)
- 第59回「集団への適応をはかる特別活動のあり方」特別活動・現代化委員発表
- [合宿研修会] 7月5日(土)・6日(日) 奥多摩町国民宿舎「鳩の巣荘」講師:堀 久(文部省教科調査官)
※ 本年度から「合宿研修会」が行われるようになった。
- [第4回全日本中学校特別活動研究会東京大会] 「生きがいを育てる特別活動の指導をどのように進めるか」
6月20日(金)・21日(土) 東京都立教育研究所
- [研究紀要] 第八号(昭和51年3月25日発行)
- [特活会報] 第29～30号

- 【昭和51(1976)年度】 会長 岩亀幸三朗(練馬・豊玉第二中) 事務局長 槇 常三(上板橋第一中)
- [定期総会] 4月24日(土) 中野文化センター
講演「生きがいについて」講師:井沢 純(文部省教科調査官)
- [研究協議会] 第1回「保谷中における特別活動の現状と課題」授業公開提案:酒沢英男(保谷中) 9月13日(月) 保谷市立保谷中学校
講演「学校の創意を生かした生徒活動」講師:和田三郎(都教委指導主事)
- 第2回『シンポジウム』「教育課程本答申をめぐって」 1月20日(木) 東京都美術館講堂
意見発表者:黒木 昊(東大和・第一中) 戸高 素(武蔵野・第三中) 山田忠行(中野・中央中)
講師:大石勝男(都教委主任指導主事)
- [月例研究会] 第60回「教育課程の動向」 5月29(土) 練馬区立豊玉第二中学校
提案者:横山忠太郎(大田・大森第二中) 鶴巻 武(東久留米・西中)
- 第62回「修学旅行の行事の系統的指導」提案者:遠藤昭吾(田無第二中) 10月23(土) 田無市民会館
「生徒会活動の報告」提案者:長坂郁子(田無第二中) 講師:井上裕吉(八王子教委指導主事)
- 第63回「学級における話し合い活動」11月20(土) 大田区入新井出張所
提案者:関根和夫(大田・志茂田中) 講師:古橋美代治(都教委指導主事)
- 第64回「衝動的な行動が多く他人を受け入れられない生徒の指導―グループ相談を通して」12月11日(土) 中野文化センター
提案者:岩井 昭(中野・第七中) 講師:福代昭二(都教委指導主事)
- [合宿研修会] 第2回(月例研究会第61回) 7月3日(土)・4日(日) 奥多摩町 国民宿舎「鳩の巣荘」
「正しい勤労観を培うためにどのような活動を行うか」
提案者:山田忠行(中野・中央中) 米塚忠男(中央第四中) 岩亀幸三朗(練馬・豊玉第二中)
塚田重雄(小平第五中) 草部 浩(新宿・西戸山中) 青木 薫(武蔵村山・第三中)
「授業時数の削減に伴う余裕時間の活用をどのようににはかるか」
提案者:大迫静輝(田無教委指導主事) 横尾武成(保谷・柳沢中) 槇 常三(上板橋第一中)
山田忠行(中野・中央中) 森本秀夫(世田谷・桜丘中) 横山忠太郎(大田・大森第二中)
鶴巻 武(東久留米・西中) 講師:堀 久(文部省教科調査官) 和田三郎(都教委指導主事)
- [研究紀要] 第九号(昭和52年3月25日発行)
- [特活会報]

- 【昭和52(1977)年度】 会長 岩亀幸三朗(練馬・豊玉第二中) 事務局長横尾武成(保谷・柳沢中)
- [定期総会] 4月23日(土) 練馬区立豊玉第二中学校
講演「勤労体験学習について」講師:水戸谷貞夫(文部省教科調査官)
- [研究協議会] 第1回「学級の指導における個人ノートの活用」10月14日(金) 武蔵村山市立第三中学校
提案者:青木 薫(武蔵村山・第三中) 講師:福代昭二(都教委指導主事)
- 第2回「学級指導の新しい展開について―適応指導の実践―」 1月19日(木) 東京都美術館
提案者:保積芳美(大田・大森第十中)
「ひとりひとりの個性を生かし実践力を培う学校教育の研究」提案者:関口敏雄(足立・花畑中)
「学級指導の新しい展開について」提案者:小松博則(中野・第四中) 講師:宇留田敏一(東京女子体育大学教授)
- [月例研究会] 第65回「新教育課程と特別活動」5月28日(土) 練馬区立豊玉第二中学校 講師:時松茂親(都研指導主事)
- 第67回「特別活動の現状と問題点」11月19日(土) 新宿区立牛込中学校
提案者:中島文男(新宿・牛込第二中) 講師:青柳健一(渋谷教委指導主事)
- [合宿研修会] 第3回(月例研究会第66回) 9月3日(土)・4日(日) 飯能市「武蔵教育センター」
「道徳の実践力を養う」提案者:山田忠行(中野・中央中) 講師:堀 久(文部省教科調査官)
「特別活動の改訂その傾向と対策」提案者:横山忠太郎(大田・大森第二中) 講師:和田三郎(品川教委指導室長)

[研究紀要] 第十号 (昭和53年3月25日発行)
[特活会報]

【昭和53(1978)年度】 会長 田代 拳(中野・第六中) 事務局長 榎 常三(中野・中央中)

[定期総会] 4月22日(土) 練馬区立豊玉第二中学校

講演「生徒活動と新しい特別活動の展開」講師:飯田芳郎(武蔵野音楽大学教授・元文部省視学官)

[研究協議会] 第1回「林間学校」公開授業・実践発表:門馬三柱夫(小平・上水中) 10月19日(木) 小平市立上水中学校

講演「新教育課程における特別活動」講師:福代昭二(都教多摩教育事務所指導課長)

第2回『シンポジウム』「生徒指導をめぐる諸問題ー若い学級担任の視点からー」1月19日(金) 新宿区立教育センター

「“学級づくり”と“学級の生徒指導”について」提案者:佐々木辰彦(武蔵村山・第三中)

「体力づくりをとり入れた学級経営」提案者:斉藤 勇(新宿・西戸山中) 講師:深谷昌志(奈良教育大学教授)

[月例研究会] 第68回「勤労にかかわる体験学習」 5月22日(土) 中野区立第六中学校

提案者:正田清明(台東・竜泉中) 講師:井上裕吉(武蔵村山指導主事)

第69回「中・高の連携と指導における教師をめぐる問題」 9月14日(木) 中野区立第六中学校

講師:大石勝男(都立目黒高校長)

[宿泊研修会] 第4回 7月8日(土)・9日(日) 飯能市「武蔵野教育センター」

発表者:関根和夫(新宿・四谷第二中) 山田忠行(中野・中央中) 講師:岩亀幸三朗(練馬・豊玉第二中)

[研究紀要] 第11号 (昭和54年3月25日発行)

[特活会報]

【昭和54(1979)年度】 会長 田代 拳(中野・第六中) 事務局長 榎 常三(中野・中央中)

[定期総会] 6月8日(金) 中野区立第六中学校 講師:西沢節郎(中野教委指導室長)

[研究協議会] 第1回 公開授業 10月25日(木) 国分寺市立第一中学校

1年「ものを深く見つめ、考えることを習慣づけるには」提案者:前沢芳道(国分寺・第一中)

2年「進路指導」提案者:渡辺敏男(国分寺・第一中) 助言者:中村春雄・府川次男・宮本一史(国分寺教委指導主事)

講演「新教育課程と特別活動の役割」講師:井上裕吉(武蔵村山教委指導主事)

第2回「学級における性教育」提案者:山田幸穂(新宿・淀橋第二中) 1月24日(木) 新宿区立教育センター

「生活記録を生かした学級の指導」提案者:野澤昭典(中野・第九中)

講演「性に関する指導の推進体制と指導計画について」講師:田能村祐麒(新宿・西戸山中校長)

[月例研究会] 第70回「健全な生活態度の育成ー学級の指導を通してー」 12月8日(土) 中野区立第六中学校

提案者:文 哲彦(中野・第五中) 講師:大迫静輝(都研指導主事)

第71回「新教育課程をめぐる諸問題」講師:堀 久(文部省教科調査官) 2月23日(土) 東京都教育会館

[研究紀要] 第12号 (昭和55年3月25日発行)

[特活会報] 第35号

【昭和55(1980)年度】 会長 田代 拳(中野・第六中) 事務局長 榎 常三(中野・中央中)

[定期総会] 4月26日(土) 中野区立第六中学校 講師:中村金彦(東京家庭裁判所主任調査官)

[研究協議会] 第1回「班活動を通しての進路指導」提案者:斉藤 実(保谷・明保中) 11月7日(金) 保谷市立明保中学校

「話し合いでものごとを決める学級会活動のあり方」提案者:阿蘇明孝(保谷・明保中)

講演「これからの学校と特別活動の課題」講師:福代昭二(都教委多摩教育事務所指導課長)

第2回「小集団の指導と学級経営」提案者:蛭名公子(渋谷・広尾中) 1月29日(木) 中野区立中央中学校

「特別活動指導計画作成資料について」提案者:阿部忠志(中野・中央中)

講演「特別活動の全体計画及び学級経営について」講師:榊原一(目黒・東山小校長)

[月例研究会] 第72回 4月26日(土) 中野区立第六中学校

講演「調査官からみた生徒理解の諸問題」講師:中村金彦(東京家庭裁判所主任調査官)

[第9回全日本中学校特別活動研究会東京大会]「新教育課程の趣旨を生かす特別活動」 6月20日(金)・21日(土)

中野区立公会堂 東京都立教育研究所

[研究紀要] 第13号 (昭和56年3月25日発行)

[特活会報]

【昭和56(1981)年度】 会長 田代 拳(中野・第六中) 事務局長 榎 常三(中野・中央中)

[定期総会] 4月24日(金) 中野区立第六中学校 講演・講師:比留間一成(中野第五中校長)

[研究協議会] 第1回「自主性・創造性を育てるための学校行事(合唱コンクール)への取り組み」10月12日(月) 国分寺市立第五中学校

発表者:前多栄二(国分寺・第五中) 講師:福代昭二(都教委中学校教育課長)

第2回「班活動による修学旅行とその実践」 1月19日(土) 渋谷区教育センター

発表者:福田雅雄(保谷・ひばりが丘中) 講師:大迫静輝(都研指導主事)

「進路指導における到達目標設定への試案」発表者:三浦 猛(渋谷・原宿中)

[月例研究会] ①「これからの学校の充実と裁量時間の利用」 6月27日(土) 目白「うずら荘」

発表者:文 哲彦(中野・第五) 講師:堀 久(文部省教科調査官)

②「生徒一人ひとりの学校生活の充実をはかる学級指導」 12月3日(木) 中野区立第六中学校

発表者:宮川保之(田無第二中) 講師:杉田儀作(埼玉県道徳・特活研究室長)

[研究紀要] 第14号 (昭和57年3月25日発行)

【昭和57(1982)年度】 会長 神戸恭三郎(保谷・明保中) 事務局長 山田忠行(中野・中央中)

[定期総会] 4月26日(土) 中野区立第六中学校

講演「特別活動と学年・学級経営」講師:中村礼作(保谷市教育長)

[研究協議会] 第1回「学級経営と生徒指導」10月15日(金) 大田区教育センター

発表者:和田俊克(大田・南六郷中) 講師:荻野一郎(大田教委指導主事)

第2回「教育目標の具現化をめざす学年・学級経営」発表者:斉藤 実(保谷・明保中) 1月27日(木) 中野文化センター

「学級会活動の活性化をめざすための学級の実態調査」発表者:田辺盛幸(中野・第二中)

講演「学年・学級経営の諸問題」講師:井上裕吉(都教委多摩教育事務所指導主事)

[月例研究会] 「創意ある学年・学級経営の実践的研究」11月25日(火) 三鷹市立第五中学校

研究授業:渡辺 暁・落合伊佐男・乙黒義夫(三鷹・第五中)

講演「学年・学級経営における創意工夫の重要性」講師:原崎 茂(都教委多摩教育事務所指導課長)

[研究紀要] 第15号 [設立20周年記念総集編] (昭和57年7月20日発行)

[特活会報] 第37号

《東京都中学校特別活動研究会 創立20周年記祝賀会》7月20日(火) 東京都教育会館

【昭和58(1983)年度】 会長 両角敏彦(渋谷・代々木中) 事務局長 山田忠行(中野・中央中)

[定期総会] 4月23日(土) 中野区立第六中学校

講演「やる気ある生徒を育てる特別活動」講師:井上裕吉(都研指導主事)

[研究協議会] 第1回「特別活動と学年学級経営」11月29日(火) 保谷市立ひばりが丘中学校

発表者:福田雅雄・相原弘子(保谷・ひばりが丘中)

講演「学年・学級経営と特別活動」講師:井上裕吉(都研指導主事)

第2回「生徒の自主活動を妨げる諸要因と対策」1月31日(火) 新宿区立教育センター

発表者:保積芳美(中野・北中野中) 原奈都子(大田・南六郷中)

講演「これからの教育と特別活動の果たす役割」講師:高橋哲夫(文部省教科調査官)

[月例研究会] ①「生徒の問題を解決するための学級指導の在り方」6月21日(火) 代々木八幡区民館

講師:岩佐寿夫(心理技師)

②「特別活動の評価」12月1日(木) 渋谷区立代々木中学校

講演「教育評価の方法と特別活動におけるその活用」講師:梶田叡一(大阪大学助教授)

[宿泊研修会] 「学級指導における性教育のあり方」10月22日(土)・23日(日) 箱根湯本塔ノ沢「山の茶屋」

発表者:二瓶(新宿・西戸山中) 講師:田能村祐麒(元新宿・西戸山中校長)

[研究紀要] 第16号 (昭和59年3月25日発行)

[特活会報]

【昭和59(1984)年度】 会長 原口盛次(中野・第七中) 事務局長 山田忠行(中野・中央中)

[定期総会] 4月28日(土) 渋谷区立代々木中学校

講演「自己教育力を高める特別活動の役割」講師:井上裕吉(都研指導主事)

[研究協議会] 第1回「“勤労生産学習”にかかわる研究」発表者:藤沢章彦(府中第六中) 11月13日(火) 府中市立府中第六中学校

「学級園と一鉢運動」発表者:田中大八(府中第六中)

講演「期待される教師像を求めて―事例と体験を通して―」講師:田代 拳(前全日本中特活会長)

第2回「生き生きと自らの生活に取り組む生徒の育成」1月29日(火) 中野区勤労福祉会館

実践発表「生徒の活動の活性化をめざす学校行事」発表者:市川堅一郎(練馬・中村中)

「自らより良い生き方を求める生徒の育成」発表者:阿部忠志(中野・第九中)

講演「自らより良い生き方を求める生徒の育成をめざす特別活動」講師:古橋美代治(目黒・第五中校長)

[月例研究会] ① 講演「学習社会と生徒の指導」講師:福代昭二(文京女子短期大学部助教授) 6月19日(火) 中野区立中央中学校

② 講演「特別活動の今日的な課題」講師:高橋哲夫(文部省教科調査官) 10月16日(火) 中野区勤労福祉会館

[宿泊研修会] 「地域に根ざした教育(特別活動)の実践」9月8日(土)・9日(日) 青梅「おくたま路」

発表者:志村秀男(奥多摩・古里中教頭)

[研究紀要] 第17号 (昭和60年3月25日発行)

[特活会報] 第39号

【昭和60(1985)年度】 会長 原口盛次(中野・第七中) 事務局長 山田忠行(中野・第七中)

[定期総会] 4月27日(土) 中野区勤労福祉会館

講演「最近の中学生の問題と特別活動の指導上の課題」講師:尾木和英(都教委主任指導主事)

[研究協議会] 第1回「係活動を活発にさせるためには」10月18日(金) 国分寺市「本多公民館」

発表者:小山 勉・鈴木正美(八王子・加住中) 講師:海老沢孝夫(多摩教育事務所指導主事)

「生徒一人一人の自己実現を伸長させる学級指導」発表者:坂井 晃(東久留米・下里中)

第2回「私の学級経営をふりかえって」1月31日(金) 中野区勤労福祉会館

発表者:田辺智子(新宿・東戸山中) 講師:君塚 斉(都研主任指導主事)

「生徒会活動を活発にさせるためには」発表者:金子哲也(新宿・西戸山中)

[月例研究会] ①「生徒の話し合い活動を深めるための方法」6月18日(火) 中野区文化センター

発表者:佐々木辰彦(中野・第七中) 講師:井上裕吉(都研主任指導主事)
②「向上心を育成する学級経営」授業公開 10月30日(水) 中野区立第七中学校
発表者:佐々木辰彦・近藤幸司(中野・第七中) 講師:伴 三男(中野教委指導主事)
〔宿泊研修会〕講 演「特別活動に根ざした生活指導の実践」講師:松永安誠(東村山第三中学校)
9月 7日(土)・8日(日) 秩父市小鹿野町 本陣「寿旅館」
〔第14回全日本中学校特別活動研究会東京大会〕「生徒の自己教育力を生み出す」
8月7日(水)・8日(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター
〔研究紀要〕第18号(昭和61年3月25日発行)
〔特活会報〕第40号

【昭和61(1986)年度】 会長 原口盛次(中野・第七中) 事務局長 山田忠行(中野・第七中)
〔定期総会〕4月26日(土) 中野区立江古田図書館
講 演「生徒の学校生活を活性化する特別活動」講師:井上裕吉(都研主任指導主事)
〔研究協議会〕第1回「生徒を主人公にした学校行事」 10月31日(金) 国分寺市「本多公民館」
発表者:大西 斉(東久留米・西中) 講師:荻野一郎(都教委指導主事)
「思いやりの心を育てる指導の工夫」発表者:佐竹真知子(東久留米・南中)
「学級指導における学習意欲の育成」発表者:米津光治(江東・深川第八中)
第2回「生徒が主体的に参加する学校行事」 1月29日(木) 新宿区立教育センター
発表者:近藤幸司(中野・第七中) 講師:大島 真(新宿・戸山中校長)
「学級経営における教育相談」発表者:酒井民雄(中野・中野富士見中)
〔月例研究会〕①「心を支え合う学級づくり」 7月8日(火) 渋谷区立外苑中学校
発表者:蝦名公子(渋谷・外苑中教頭) 講師:関口純一(中野教委指導主事)
「生徒が主体的に取り組む修学旅行」発表者:斉藤 実(練馬・八坂中)
②「生徒の積極性と創造性を伸ばす学年集会の計画と実施」2月13日(金) 国分寺市「本多公民館」
発表者:富山哲也(武蔵村山・第三中) 講師:井上裕吉(都研主任指導主事)
「登校拒否傾向を持つ生徒の指導」発表者:井上淳一郎(八王子・加住中)
〔宿泊研修会〕9月 6日(土)・7日(日) 箱根湯本塔ノ沢「山の茶屋」
講 演「生徒の心を見つめ直す教育相談と特別活動」講師:両角敏彦(前都中特活・都教育相談会長)
〔研究紀要〕第19号(昭和62年4月25日発行) 〔特活会報〕

【昭和62(1987)年度】 会長 榎 常三(中野・第九中) 事務局長 山田忠行(中野・第七中)
〔定期総会〕4月25日(土) 中野文化センター
講 演「特別活動の改訂の方向について」講師:高橋哲夫(文部省教科調査官)
〔研究協議会〕第1回「一人一人を生かすクラスづくり」 10月13日(火) 国分寺市「本多公民館」
発表者:高見沢恵美子(東久留米・西中) 講師:戸高 素(前都中特活副会長)
「望ましい生徒会活動―生徒会交流会を通して」発表者:前田 浩(新宿・戸塚一中)
第2回《シンポジウム》「生徒の生き方の自覚を深める指導の在り方」 1月28日(木) 新宿区立教育センター
発表者:◇道德教育の立場から 瀧島純一(清瀬第二中) ◇新聞教育の立場から 佐々木哲(江戸川・春江中)
◇教育相談の立場から 藤原秀樹(世川谷・桜丘中) ◇性教育の立場から 金子哲也(新宿・西戸山中) 講師:原口盛次(全日中特活会長)
〔月例研究会〕①「生き方の自覚を深める進路指導」 7月 3日(金) 中野区立第九中学校
発表者:坂井 晃(東久留米・下里中) 講師:原口盛次(全日本中特活会長)
②「学校行事を効果的に進めるための指導計画の作成と実施の在り方の工夫」 2月16日(火) 中野文化センター
講師:高橋哲夫(文部省教科調査官)
〔宿泊研修会〕「特別活動の課題と研究推進の在り方」講師:丹羽尊照(前埼玉特活会長) 9月5日(土)・6日(日) 箱根強 羅静峰閣「照本」
〔研究紀要〕第20号(昭和63年3月25日発行)
〔特活会報〕第42号

【昭和63(1988)年度】 会長 榎 常三(中野・第九中) 事務局長 山田忠行(中野・第四中)
〔定期総会〕4月28日(土) 中野区立第九中学校
講 演「生徒の生き方の自覚を深める特別活動」講師:原口盛次(全日中特活会長)
〔研究協議会〕第1回「望ましい人間関係をつくる学級内小集団の考察」 10月13日(木) 国分寺市「本多公民館」
発表者:美谷島正義(北・堀船中) 講師:斉藤 実(杉並・大宮中校長)
「良い人間関係を育てる学年・学級経営の実践的研究」発表者:永見 章(稲城・第二中)
第2回「生きる力を育てる学級集団の構想」 1月26日(木) 新宿区立教育センター
発表者:相川良子(渋谷・笹塚中) 講師:井上裕吉(都研主任指導主事)
〔月例研究会〕①「生徒のリーダー意識とその役割」 6月16日(木) 渋谷区教育センター
発表者:大島克己(中野・第八中) 講師:横山忠太郎(大田・貝塚中校長)
②「望ましい人間関係を築くための自主的活動に関する指導内容と方法」 2月16日(木) 中野区勤労福祉会館
講師:原口盛次(全日中特活会長)
〔宿泊研修会〕「生徒の生きる力を与えるには」 9月3日(土)・4日(日) 箱根湯本「箱根パークス吉野」
発表者:佐々木 哲(江戸川・春江中)
「リーダー・フォロアーの機会をいかにつくるか」発表者:倉田信義(江東・深川第五中)

講演「校内研修と生徒活動の在り方」講師：横尾武成(前全日中特活会長)

〔研究紀要〕 第21号(平成元年3月25日発行)

〔特活会報〕 第43号

【平成元年(1989)年度】 会長 鶴巻 武(東久留米・下里中) 事務局長 山田忠行(中野・第四中)

〔定期総会〕 4月22日(土) 中野文化センター

講演「新学習指導要領特別活動移行措置の実践的課題」講師：高橋哲夫(文部省教科調査官)

〔研究協議会〕 第1回「生徒会活動の現状と活性化の試み」 10月12日(木) 国分寺市「本多公民館」

発表者：勝亦章行(板橋第四中) 講師：小暮和夫(調布・第三中学校)

「自主的・自治的集団づくりを目指しての学級リーダーの育成」発表者：中藤義之(東大和・第四中)

第2回「学級活動で目指す望ましい集団生活」 1月26日(金) 新宿区立教育センター

発表者：野口和歌子(荒川・道灌山中) 講師：前田明永(都教委指導主事)

「学年における委員会活動とその指導の在り方」発表者：和田 孝(日野・平山中)

〔月例研究会〕 ①「生きる力を取り戻したU君の指導」 6月15日(木) 新宿区立教育センター

発表者：菊池天子(東久留米・下里中) 講師：原口盛次(文教大学講師)

②「学級集団の中で個性を生かす指導」 11月16日(木) 大田区立御園中学校

研究授業・発表者：古郡清文(大田・御園中) 講師：谷川 洋(大田・御園中学校)

〔宿泊研修会〕「クラブ活動の今日的課題」 9月2日(土)・3日(日) 箱根湯本「天成園」

発表者：加々美肇(江東・第三砂町中) 文 哲彦(中野・第八中) 講師：横山忠太郎(大田・貝塚中学校)

《冬季宿泊研修会》「合唱コンクールを通しての指導」12月22日(金)・23日(土) 奥武蔵自然公園国民宿舎「入間グリーンロッジ」

発表者：福沢みゆき(新宿・東戸山中)

「学級の組織作り学級だよりを通して」発表者：田代雅規(世田谷・砧中)

研究協議「新学習指導要領実施にともなうこれからの特別活動の方向と指導の在り方」

※ この年から冬季宿泊研修会が始まる。特に若い先生方に参加を呼びかけ特別活動研究の拡大を図った。

〔研究紀要〕 第22号(平成2年3月25日発行)

〔特活会報〕

【平成2(1990)年度】 会長 鶴巻 武(東久留米・下里中) 事務局長 美谷島正義(東久留米・下里中)

〔定期総会〕 4月21日(土) 中野区立第九中学校

講演「学習指導要領特別活動の実践上の課題」講師：高橋哲夫(文教大学教授)

〔研究協議会〕 第1回「生徒会活動が活発になることを目指して」 10月12日(金) 国分寺市「本多公民館」

発表者：草部 浩(新宿・戸塚第一中) 講師：柴田秀夫(国分寺・第一中学校)

「自主的学年集団づくりを目指して」発表者：石澤輝安(福生第二中)

第2回「学級活動『あいさつを考えよう』」 1月24日(木) 新宿区立教育センター

発表者：長谷川晋也(江戸川・松江第三中) 講師：渡部邦雄(文部省教科調査官)

「学年だよりを利用した学年経営と家庭との連携」発表者：松木正宏(渋谷・外苑中)

〔月例研究会〕 ①「生きる力を育む委員会指導」 6月14日(木) 新宿区立教育センター

発表者：竿山公洋(練馬・三原台中) 講師：大竹章喜(前北・赤羽台中校長)

②「意欲的・自主的に取り組む生徒の育成」 11月8日(木) 渋谷区立上原中学校

発表者：蜂屋隆子(渋谷・上原中) 講師：宮林 徹(秋川・御堂中学校)

〔宿泊研修会〕「学級活動の実践的な課題」講師：榎 常三(全日中特活会長) 9月1日(土)・2日(日) 箱根湯本「天成園」

《冬季宿泊研修会》「生き方を育てる学級経営の実践」 12月8日(土)・9日(日) 奥武蔵自然公園国民宿舎「入間グリーンロッジ」

発表者：柴沼 篤(中野・第七中)

「望ましい小集団指導の在り方」発表者：美谷島正義(東久留米・下里中)

「学級活動についての基礎的な研究」発表者：坂井 晃(中野・第七中)

「生き方の指導」発表者：関本恵一(新宿・東戸山中)

〔研究紀要〕 第23号(平成3年3月25日発行)

〔特活会報〕

【平成3(1991)年度】 会長 鶴巻 武(東久留米・南中) 事務局長 美谷島正義(東久留米・下里中)

〔定期総会〕 4月27日(土) 中野区立第九中学校

講演「特別活動実践上の諸問題」講師：渡部邦雄(文部省教科調査官)

〔研究協議会〕 第1回「学級活動-何を準備したらよいか」 10月18日(金) 国分寺市「いずみホール」

発表者：佐々木辰彦(中野・第七中) 講師：山崎隆造(中野・第五中学校)

「特別活動における進路指導の実践」発表者：中藤義之(東大和・第三中)

第2回「学級活動に関する基礎的な研究-望ましい指導計画の在り方」1月23日(木) 新宿区立教育センター

発表者：美谷島正義(東久留米・下里中) 勝亦章行(板橋第四中) 坂井 晃(中野・第七中)

講師：高橋哲夫(文教大学教授)

〔月例研究会〕 ①「年間研究主題・研究のねらい・研究計画の立案」 5月29日(水) 東久留米市立南中学校

②「学級活動指導案のモデル及び学級活動の変遷」 6月21日(金) 中野区立第七中学校

発表者：美谷島正義(東久留米・下里中)

「学級活動指導案-班活動の充実をめぐる」発表者：佐々木辰彦(中野・第七中)

③「学級活動の目標内容について」 7月18日(木) 渋谷区立原宿中学校

④「学級活動の共通実践指導案について」 9月11日(水) 中野区立第七中学校

⑤「学級活動指導案-思いやりのある学級をめぐって」 11月15日(金) 東久留米市立南中学校
発表者:坂井 晃(中野・第七中)

[宿泊研修会]「学級活動の指導過程について」 8月31日(土)・9月1日(日) 箱根湯本「湯本ホテル」

発表者:美谷島正義(東久留米・下里中) 指導助言:青木薫(武蔵村山・第一中学校)

「学級活動の実践的な課題」発表者:佐々木辰彦(中野・第七中)

《冬季宿泊研修会》「学芸発表会への取り組み」 11月30日(土)・12月1日(日) 「銀杏荘」(文部省共済組合渋谷宿泊所)

発表者:奥田恭子(中野・第七中)

講演「これからの特別活動の課題」講師:榎 常三(前全日中特活会長)

[研究紀要] 第24号(平成4年3月31日発行)

[特活会報]

【平成4(1992)年度】 会長 山田忠行(中野・第九中) 事務局長 坂井 晃(中野・第七中)

[定期総会] 4月23日(木) 新宿区立教育センター

講演「学習指導要領特別活動実践上の諸問題」講師:渡部邦雄(文部省教科調査官)

[研究協議会] 第1回「生徒の生活基盤としての学級集団・組織づくり」 10月15日 国分寺市「いずみホール」

発表者:和田和男(武蔵村山・第三中) 講師:阿部志忠(日野・三沢中学校)

「学級活動の指導計画と指導過程について」発表者:坂井 晃(中野・第七中)

第2回「学級活動の実践的な研究-生徒の実態の即した指導の在り方を中心にして-」 1月28日(木)

提案者:美谷島正義(東久留米・下里中) 勝亦章行(板橋第四中) 坂井 晃(中野・第七中) 中野文化センター

講師:渡部邦雄(文部省教科調査官)

[月例研究会] ①「学級活動の実践的な研究」発表者:勝亦章行(板橋第四中) 5月25日(月) 中野区立第九中学校

②「学級活動の多様な指導展開について」発表者:美谷島正義(東久留米・下里中) 7月14日(火) 中野区立第九中学校

③「学級活動の評価をめぐって」発表者:坂井 晃(中野・第七中) 11月16日(月) 中野区立第九中学校

④「学級活動の指導の工夫」発表者:美谷島正義(東久留米・下里中) 1月7日(木) 中野区立第九中学校

⑤「学校行事の改善と工夫」(研究指定校発表会) 2月9日(火) 中野区立第九中学校

[宿泊研修会]「学級活動の指導の在り方について」 9月5日(土)・6日(日) 箱根宮の下「武蔵野観光旅館」

講演「特別活動の実践上の課題」講師:鶴巻 武(全日中特活会長 東久留米・南中学校)

《冬季宿泊研修会》「話し合い活動の実際」 11月28日(土)・29日(日) 御岳山「宝寿閣」

「話し合い活動の工夫」発表者:美谷島正義(東久留米・下里中)

「ディベートを用いた話し合い活動の実践」発表者:勝亦章行(板橋第四中)

「社会性を育む学級活動」発表者:中藤義之(東大和・第四中)

講演「これからの特別活動」講師:榎 常三(前全日中特活会長)

[研究紀要] 第25号 [創立30周年記念誌]

[特活会報]

《東京都特別活動研究会 創立30周年祝賀会》 1月28日(木) 「中野クラブ」

【平成5(1993)年度】 会長 山田忠行(中野・第九中) 事務局長 坂井 晃(中野・第七中)

[定期総会] 4月24日(土) 中野区立第九中学校

講演「特別活動の今日的課題」講師:渡部邦雄(文部省教科調査官)

[研究協議会] 第1回「生徒会活動を活性化する学級の活動」 10月19日(火) 国分寺市「いずみホール」

提案者:市野聖美(中野・第十中) 講師:横山忠太郎(大田・大森第三中学校)

「三年間を見通した進路指導-その実践と問題点-」提案者:富山哲也(立川・第五中)

第2回《シンポジウム》「一人一人の生きる力を育む特別活動の実践課題」1月27日(木)

提案者:◇学級活動-中藤義之(東大和・第四中) 中野区中央図書館セミナールーム

◇生徒会活動-勝亦章行(豊島・真和中)

◇学校行事-坂井 晃(中野・第七中) 講師:渡部邦雄(文部省教科調査官)

[月例研究会] ①「研究主題・内容・計画について」 4月17日(土) 中野区立第九中学校

②「研究構想の協議」 5月22日(土) 江東区立亀戸中学校

③「各内容の研究課題の討議」 6月19日(土) 豊島区立真和中学校

④「クラブ活動についての事例研究」 7月2日(金) 中野区立第九中学校

⑤「ディベート・高校進学の賛否」授業研究:井ノ口賀啓(渋谷・原宿中) 11月19日(金) 渋谷区立原宿中学校

⑥「研究紀要について」 1月7日(金) 中野区立第九中学校

[宿泊研修会]「特別活動の今日的な課題と研究活動の方向」 9月4日(土)・5日(日) 御岳山宿坊・民宿「登奈利荘」

提案者:坂井 晃(中野・第七中) 指導助言:鶴巻 武(前全日中特活会長) 青木 薫(都中特活副会長)

《冬季宿泊研修会》実践事例研究「特別活動の課題研究」 11月27日(土)・28日(日) 熱海温泉「岡本ホテル」

[研究紀要] 第26号(平成6年3月31日発行)

[特活会報]

【平成6(1994)年度】 会長 山田忠行(中野・第九中) 事務局長 坂井 晃(中野・第七中)

[定期総会] 4月23日(土) 中野区立第九中学校

講演「特別活動の実践的課題」講師:渡部邦雄(文部省教科調査官)

[研究協議会] 第1回「主体的な活動を促す、集団の指導と評価方法の工夫」10月14日(金) 国分寺市「いずみホール」

提案者:富永良吉(保谷・ひばり丘中) 講師:荻野一郎(港・赤坂中学校)

「学校生活への意欲を高める学年生徒活動の実践」提案者:相川宣仁(中野・第七中)

第2回「組織的な進路指導への取り組み」 1月26日(木) なかのZEROホール
提案者:岩永 章(葛飾・桜道中) 助言者:榎 常三(元全日中特活会長)
[月例研究会] ①「今年度の研究構想についての協議」 4月16日(土) 中野区立第九中学校
②「研究組織協議、実践事例研究」 5月24日(火) 台東区立今戸中学校
③「将来の生き方について」学級活動授業研究 6月24日(金) 中野区立第十中学校
授業者:米津光治(中野・第十中) 助言者:山本修次(都教委主任指導主事)
④「実践事例研究」 8月26日(金) 中野区立第九中学校
⑤「特別活動実践事例研究」 2月25日(土) 中野区立第九中学校
[宿泊研修会] 「学級活動の実践上の課題」 9月3日(土)・4日(日) 甲府市湯村温泉「富士屋ホテル」
「ディベートを取り入れた進路学習の実践」提案者:井ノ口賀啓(渋谷・原宿中)
助言者:山本修次(都教委主任指導主事)
[研究紀要] 第27号(平成7年3月31日発行)
[特活会報]

【平成7(1995)年度】 会長 小松博則(中野・第八中) 事務局長 坂井 晃(中野・第七中)
[定期総会] 4月21日(金) 中野区立第九中学校
講演「学校5日制と特別活動」 講師:渡部邦雄(文部省視学官)
[研究協議会] 第1回「自主的・実践的な態度を育てる生徒会活動の実践」 10月20日(金) 国分寺市「ひかりホール」
発表者:山田貞明(中野・北中野中) 指導助言講師:美谷島正義(保谷教委指導主事)
「個人選択コースを取り入れた修学旅行の実践」発表者:井上俊夫(府中第一中)
第2回「進路指導の課題と実践」 1月25日(木) 中野区立第九中学校
発表者:岩野 好(中野・第十一中) 講師:内野正雄(立川第四中)
「宿泊を伴う体験学習」発表者:荒川篤彦(江戸川・南葛西第二中)
[月例研究会] ①「実践事例研究1」 5月20日(土) 中野区立第九中学校
②「実践事例研究2」 7月14日(金) 中野区立第九中学校
③「実践事例研究3」 7月21日(金) 中野区立第九中学校
④「実践事例研究4」 9月22日(金) 中野区立第九中学校
⑤「実践事例研究5」 2月15日(木) 中野区立第九中学校
[宿泊研究会] 「ジェンダーフリーって何?」提案者:奥田恭子(杉並・宮前中) 9月2日(土)・3日(日)
「学級活動の指導計画と評価・改善」提案者:松本康夫(小金井・南中) 甲府市湯村温泉「常盤ホテル」
講師:鶴巻 武(元全日中特活会長)
[第24回全日本中学校特別活動研究会東京大会] 「たくましく生きる意欲を育てる特別活動」
8月7日(月)・8日(火) なかのZERO「西館」
[研究紀要] 第28号(平成7年3月31日発行)
[特活会報]

【平成8(1996)年度】 会長 平松 隆(田無第一中) 事務局長 坂井 晃(中野・第七中)
[定期総会] 4月20日(土) 中野区立第九中学校
講演「社会の変化に対応した特別活動」 講師:渡部邦雄(文部省主任視学官)
[研究協議会] 第1回「学年経営や学級経営におけるTTの在り方」11月14日(木) 国分寺市「ひかりプラザ」
発表者:井ノ口賀啓(渋谷・広尾中)
「学級担任と特別活動」発表者:佐々木辰彦(武蔵村山・第二中)
講演「小子化時代の学年・学級経営と学級活動」講師:山田忠行(前全日中特活会長)
第2回「これからの特別活動の在り方」 2月14日(金) なかのZERO「西館」
発表者:井ノ口賀啓(渋谷区・広尾中)
「学級活動の指導計画と指導の工夫」発表者:松本康夫(小金井・南中)
講演「総合的な学習の時間と特別活動」講師:高階玲治(国立教育研究所室長)
[月例研究会] ①「実践事例研究」 5月20日(月) 田無市立田無第一中学校
②「中野区生徒会意見交換会の参観と協議」講師:鶴巻 武(元全日中特活会長)
[宿泊研修会] 「実践発表と研究協議」 9月7日(土)・8日(日) 箱根湯元「ホテル仙景」
講演「小集団活動指導の実際」講師:山田忠行(前全日中特活会長)
[研究紀要] 第29号
[特活会報]

【平成9(1997)年度】 会長 佐藤真人(中野・第六中) 事務局長 坂井 晃(中野・第七中)
[定期総会] 4月19日(土) 中野区立第九中学校
講演「社会の変化に対応した特別活動の在り方」講師:渡部邦雄(文部省主任視学官)
[研究協議会] 第1回「班別活動で行う都内遠足」 11月25日(火) 国分寺市「ひかりプラザ」
発表者:並木祐一郎(武蔵村山・第一中) 講師:小松博則(前全日中特活会長)
「地域との連携を図ったボランティア活動」発表者:市野聖美(中野・第十中)
第2回「学級活動の実践—学校行事との関連を踏まえて—」 2月21日(土) なかのZERO「西館」
発表者:千坂浩司(立川・立川第二中) 講師:加々美 肇(江東・深川第二中教頭)
「生徒会役員交流会の実践」発表者:平井邦明(新宿・大久保中)
[月例研究会] ①「研究主題と研究内容の検討・実践事例研究」 5月17日(土) 中野区立第六中学校
②「全日中特活神奈川大会支援・実践事例研究」 7月1日(火) 中野区立第七中学校
③「全日中特活神奈川大会報告・実践事例研究」 10月16日(木)

- ④「調査研究の集計と分析・実践事例研究」 2月18日(水) 中野区立第七中学校
⑤「本年度の研究のまとめ」 3月7日(土) 中野区立第九中学校
[宿泊研修会] 「実践発表と研究協議」 講師:鶴巻 武(元全日中特活会長) 9月6日(土)・7日(日) 大月市真木温泉「美人の湯」
[研究紀要] 第30号(平成10年3月31日発行)
[特活会報]

【平成10(1998)年度】 会長 佐藤真人(中野・第六中) 事務局長 坂井 晃(中野・第七中)

- [定期総会] 4月18日(土) 中野区立第六中学校
講 演「たくましく生きる力を高める特別活動」 森嶋昭伸(文部省教科調査官)
[研究協議会] 第1回 実践発表 10月22日(木) 国分寺市「ひかりプラザ」
「生徒が自らつくり上げる運動会」発表者:清水國義(小平第三中)
「小規模校における縦割り活動」発表者:永井 充(新宿・西新宿中)
講 演「教育課程審議会の答申と新しい特別活動の在り方」講師:山田忠行(元全日中特活会長)
第2回 実践発表 2月15日(月) なかのZEROホール 講師:鶴巻 武(元全日中特活会長)
「議論が成立する生徒総会」発表者:宮城洋之(保谷・明保中)
「学校教育相談体制づくりの実践」発表者:合田淳郎(板橋・志村第五中)
[月例研究会] ①「今年度の研究計画」5月16日(土) 中野区立第六中学校
②「2年3組の通知表をつけよう」(授業研究)7月10日(金) 港区立高陵中学校
発表者:蜂屋隆子(港・高陵中)
③「特別活動の歩みとこれからの課題」9月17日(木) 中野区立第六中学校
講 師:鶴巻 武(元全日中特活会長)
④「ガイダンス機能を生かした特別活動の実践」10月16日(金) 中野区立第七中学校
発表者:坂井 晃(中野・第七中)
⑤「新教育課程での学級活動の改善のポイント」発表:都中特活研究部 12月1日(火) 中野区立第六中学校
⑥「総合的な学習の時間と特別活動」発表:都中特活研究部 2月2日(火) 中野区立第六中学校
⑦「本年度の研究のまとめと来年度の研究構想」発表:都中特活研究部 3月6日(土) 中野区立第九中学校
[宿泊研修会] 8月27日(木)・28日(金)の予定が台風4号の集中豪雨で宿泊研修会中止
[研究紀要] 第31号(平成11年3月31日発行)
[特活会報]

【平成11(1999)年度】 会長 保積芳美(田無第一中) 事務局長 松本康夫(杉並・荻窪中)

- [定期総会] 4月17日(土) 中野区立第十中学校
講 演「中学校特別活動改善の要点」講師:山田忠行(元全日本特活会長)
[研究協議会] 第1回「生徒の体験に基づく進路指導を目指して」11月12日(金) 国分寺市「ひかりプラザ」
発表者:高浜和行(板橋・赤塚第一中)
「豊かな心を育てるボランティア活動」発表者:玄應宗信(武蔵村山・第一中)
講 演「特別活動と総合的な学習の時間との関連」講師:山田忠行(元全日中特活会長)
第2回「生徒が作成した自作ビデオを利用した学級活動」1月27日(木) 江東区立第四砂町中学校
発表者:岡田方孝(江戸川・西葛西中)
講 演「生きる力を育む特別活動―自立と共生を目指して―」講師:鶴巻 武(東久留米学習適応教室長)
[月例研究会] ①「研究主題と研究内容の検討・実践事例研究」5月11日(火) 中野区立第十中学校
②「地域と共に生きる力を育てる“ふれあい学習”」6月8日(火) 中野区立第十中学校
発表者:三橋秋彦(墨田中)
講 演「家庭と地域による『共創』の時代」講師:鉤 治雄(創価大学教授・日本特活学会事務局長)
③「全日本中特活栃木大会報告・実践事例研究」9月30日(木) 中野区立第十中学校
講 話「特別活動と総合的な学習の時間」講師:美谷島正義(保谷教委指導主事)
④「学級活動―初めての学級担任と学級経営」公開授業 2月10日(木) 練馬区立光が丘第三中学校
発表者:木下理佐子(練馬・光が丘第三中)
講 演「『初めての学級担任と学級経営』に送るエール」講師:鶴巻 武(東久留米学習適応教室長)
⑤「本年度の研究のまとめ」3月16日(木) 中野区立第十中学校
[宿泊研修会] 8月20日(金)・21日(土) 栃木県湯西川温泉「本家萬久」
講 演「学校行事と総合的な学習の時間―両者の特性を生す―」講師:山田忠行(元全日中特活会長)
[研究紀要] 第32号(平成12年3月31日発行)
[特活会報]

【平成12(2000)年度】 会長 保積芳美(田無第一中) 事務局長 松本康夫(杉並・荻窪中)

- [定期総会] 4月15日(土) 中野区立第十中学校
講 演「望ましい人間関係を築くために―新しい学級活動の視点―」講師:常磐 隆(狛江市教委指導主事)
[研究協議会] 第1回「小学校の指導を生かした進路指導」11月10日(金) 国分寺市「ひかりプラザ」
発表者:六反園留美(調布中)
「体験を通して進める“心の教育”」青木由美子(練馬・三原台中) 講師:関本恵一(練馬・光が丘第三中校長)
第2回「望ましい人間関係をつくるための学級活動」公開授業 2月22日(木) 品川区立伊藤中学校
発表者:上田晃一(品川・伊藤中)
講 演「学級活動の課題と新たな視点」講師:長沼 豊(学習院大学助教授)
[月例研究会] ①「生徒活動を通しての地域との結びつき・ボランティア」6月8日(木) 中野区立北中野中学校

発表者:上路珠美(中野・北中野中) 講師:山田忠行(元全日中特活会長)

②「特別活動と総合的な学習の時間」講演:渡部邦雄(東京農業大学教授) 9月21日(木)中野区立第九中学校
[宿泊研修会]「学級活動の指導計画」9月2日(土)・3日(日) 箱根湯元塔ノ沢「ホテル紫雲荘」
[研究紀要] 第33号(平成13年3月31日発行)
[特活会報]

【平成13(2001)年度】 会長 保積芳美(田無第一中) 事務局長 市野聖美(中野・第五中)

[定期総会] 4月21日(土) 田無市立田無第一中学校

講演「これからの特別活動の在り方」講師:山田忠行(宝仙学園短期大学教授)

[研究協議会]

[月例研究会] ①「グループ・エンカウンター実技研修」講師:鹿嶋真弓(足立・蒲原中) 7月7日(土) 中野区第五中学校

[宿泊研修会]「特別活動の研究の方向を探る」9月1日(土)・2日(日) 箱根湯元「吉池旅館」

[第30回全日本中学校特別活動研究会東京大会]「21世紀を拓く特別活動」8月2日(木)・3日(金) なかのZERO西館

[研究紀要] 第34号

[特活会報] 第69号

【平成14(2002)年度】 会長 加々美 肇 事務局長 市野聖美

[定期総会] 5月13日(月) 中野区立第三中学校

[生徒会サミット] 7月25日(木) 中野区立第三中学校

実践発表:①第1分科会 「地域と連携した特色ある生徒会活動」 発表 中野区立北中野中学校

②第2分科会 「日常的な特色ある生徒会活動」 発表 八王子市立第二中学校

③第3分科会 「学校行事と関連した特色ある生徒会活動」 発表 江戸川区立西葛西中学校

[研究協議会] 11月21日(木) 国分寺第二中学校

発表1:「学級活動の実践」荒巻 淳(江東区・深川五中)

発表2:「学級担任と進める性教育」田中佑子(あきる野市・東中)

講師:後藤 彰(教育庁指導部指導主事)

[月例研究会] 第1回 6月15日(土) 中野区立第三中学校 「特別活動の評価とその活用」

発表者:松永 透(東大和市・五中)

講師:山田忠行(宝仙学園短期大学教授)

第2回 2月27日(木) 豊島区立池袋中学校

「人間としての生きる力に関する指導の充実を図る評価方法の工夫と改善」

発表者:宮城美香 教諭(豊島区・池袋中)

講師:保積芳美(中野区立第三中学校長)

[宿泊研修会] 9月7日(土)・8日(日)

[40周年記念祝賀会] 1月25日(土) 中野サンプラザ

講演「特別活動の今日の課題」

講師:渡部邦雄(東京農業大学教授)

[研究紀要] 第35号 [東京都特別活動研究会 創立40周年記念誌] (平成15年1月25日発行)

【平成15(2003)年度】 会長 加々美 肇 事務局長 西 敬司郎

[定期総会] 5月13日

講演「特別活動の基本を考える」

講師:有村久春(昭和女子大学助教授)

[研究協議会] 11月18日(火) 国分寺市立第二中学校

発表1:「生徒会交流会の実践とその方法」渡邊 修 校長(板橋区立西台中学校)

発表2:「さわやかコミュニティの実践とその方法」竹内良夫 校長・古川 浩 教諭(小平市立第三中学校)

講師:山田忠行(宝仙学園短期大学教授)

[生徒会長サミット] 12月6日(土) 中野区立第九中学校

1:全体会 実践発表① 府中市立府中第二中学校生徒会

実践発表② 北区立桜田中学校生徒会

講評:保積芳美(中野区立第三中学校長)

2:分科会 3分科会にて実施

【平成16(2004)年度】 会長 加々美 肇 事務局長 西 敬司郎

[定期総会] 5月17日(月) 中野区立第三中学校

講演「特別活動の基本を考える」講師:長沼 豊(学習院大学助教授)

[研究協議会] 第1回 8月26日(木) 江東区立深川第五中学校

「一人ひとりを生かす学級指導法の研究」実技研修「コーチング」

講師:北村和夫(共有コーチング研究代表)

第2回 11月11日(木) 小金井市立緑中学校

発表①「学級活動 お互いの悩みを知ろう」宮城美香 教諭(豊島区・池袋中)

発表②「生きる力を育てる学年・学級経営の在り方」荒川美穂 教諭(立川市・第六中)

講師:緑川哲夫(東京家政学院短期大学生活学科教授)

[月例研究会] 第1回 7月1日(木) 光徳区立亀戸中学校

「4月からの生活を振り返り、クラスの良いところをみつけよう」野澤俊夫 教諭(江東区・亀戸中)

講師:関本恵一(台東区立御徒町台東中学校長)

第2回 2月24日(木) 江東区立深川第五中学校

「自ら学び考える力を育む指導内容・方法に関する研究」 東京の教育21「特別活動部会」

講師：加々美肇(江東区立深川第五中学校長、「東京の教育21」研究開発委員長)

[生徒会長サミット] 12月11日(土) 中野区立第九中学校

全体会 実践発表 ①江戸川区立清新第一中学校生徒会

実践発表 ②八王子市立恩方中学校生徒会

分科会 第一分科会「学校生活」 第二分科会「学校行事」 第三分科会「地域との交流」

第四分科会「ボランティア活動」 第五分科会「生徒会の課題と展望」

講評：勝亦章行(葛飾区立桜道中学校長)

[研究紀要] 第37号

【平成17(2005)年度】 会長 加々美 肇 事務局長 西 敬司郎

[定期総会] 5月7日(土) 中野区立第九中学校

講演「特別活動の基本を考える」 講師：緑川哲夫(東京家政学院短期大学生生活学科教授)

[研究協議会] 第1回 11月15日(火) 国分寺市立第二中学校

発表①「地域との連携を通して主体性を育む生徒会活動」 森元孝之 教諭(東村山市・二中)

発表②「生徒会交流会を通じた自治能力の育成」 田中すみ子 教諭(豊島区・西巣鴨中)

講師：鶴巻 武(青梅市教育委員会)

第2回 2月16日(木) 江東区立深川第五中学校

「キャリア教育の視点に立った自己を生かす学級活動のあり方」 脇本勝通 教諭(江東区・深川五中)

講師：緑川哲夫(東京家政学院短期大学生生活学科教授)

[月例研究会] 第1回 8月3日(水) 第34回全日本中学校特別活動研究会・東京大会 中野区立中央中学校

「生徒会長サミット」を月例研究会として実施した

第2回 2月24日(金) 江東区立深川第五中学校

「自ら学び考える力を育てる指導の工夫・改善」

「東京の教育21」研究開発委員会説明会への参加

[第34回全日本中学校特別活動研究会・東京大会] 8月3日・4日 中野区立中央中学校・中野区教育センター

大会主題「望ましい集団活動の活性化を通して、生きる力を育む特別活動」

～社会的な資質の育成を中心として～

[研究紀要] 第38号

【平成18(2006)年度】 会長 坂井 晃 事務局長 西 敬司郎

[定期総会] 5月20日(土) 練馬区立光が丘第二中学校

講演「子どもの成長とこれからの特別活動」

講師：森嶋昭伸(文部科学省 初等中等教育局教科調査官 国立教育政策研究所 統括調査官)

[研究協議会] 3月10日(土) 中野区立第三中学校

講義「これからの特別活動」～未来を拓く人間力の育成～

講師：原口盛次(日本特別活動学会常任理事)

講義「これからの特別活動 ～何が期待されるか～」

講師：山田忠行(宝仙女子短期大学教授)

[月例研究会] 6月17日(土) 練馬区立光が丘第二中学校

研修議題「情報モラル教育と特別活動」

提案者：坂井 晃(練馬区立光が丘第二中学校長)

[生徒会長サミット] 12月9日(土) 中野区立第九中学校

内容：9：30～全体会(体育館)、10：00～分科会 12：30まで 参加63校

[第6回全国中学校総合文化祭] 8月26日(土)～27日(日) 江戸川区タワーホール船堀

内容：生徒会新聞展示発表

[第35回全日本中学校特別活動研究会・青森大会] 10月27日(金)～28日(土) 都中特活より3名が発表

○「構造的エンカウンターを用いた学級活動の実践」 上岡 祥邦 主幹教諭(足立区・千寿桜堤中)

○「自ら学び考える力を育てる指導の工夫・改善」 田爪 一浩 主幹教諭(練馬区・中村中)

○「生徒会の交流について」 渡邊 修 校長(板橋区・西台中)

[研究紀要] 第39号

【平成19(2007)年度】 会長 坂井 晃 事務局長 西 敬司郎

[定期総会] 6月21日(土) 練馬区立光が丘第二中学校

講演「これからの特別活動」

講師：山田忠行(宝仙学園短期大学教授)

[研究協議会] 1月25日(金) 中野区立第三中学校

研究授業・学級活動「共に認め合い、支え合おう」

授業者：中野友美 教諭(中野区・三中)

講師：加々美 肇(江東区立深川第八中学校長)

[月例研究会] 7月27日(木) 中野区立第九中学校

講義「東京都における特別活動の現状と課題について」

講師：加々美 肇(江東区立深川第八中学校長)

[生徒会長サミット] 12月22日(土) 都庁大会議場

～いじめ防止フォーラム・東京都中学校生徒会長サミット～ ※東京都教育委員会との共催

- 1 実践報告 大田区立安方中学校生徒会
- 2 フォーラム 登壇者 生徒会長代表 江東区立第三砂町中学校、大田区立安方中学校、
八王子市立四谷中学校
教員代表、保護者代表、都民代表
- 3 いじめ撲滅に関する大会宣言の提案と採択

〔第36回全日本中学校特別活動研究会・東京大会〕 7月31日（火） なかのゼロホール

大会主題「豊かな人間関係づくりを通して、生きる力を育む特別活動」

～学校と家庭・地域を結ぶ特別活動～

記念講演「教育改革と特別活動」

講師：森嶋昭伸（文部科学省初等中等局視学官）

分科会

第一分科会・学級活動

- (1) 「学級からみえる学級、学校から見える『今』、学坦としてなすべきこと」

発表者：小笠原恭史 教諭（青森県弘前市立東中学校）

- (2) 「豊かな人間関係づくりを通して生きる力を育む特別活動」

発表者：山田美鈴 主幹教諭（練馬区立大泉中学校）

講師：有村久春（昭和女子大学教授）

第二分科会・生徒会活動

- (1) 「自主的・自治的能力を高める生徒会活動」～生徒会活動の地域参加への取り組み～

発表者：下八尻孝二 教諭（鹿児島県鹿児島市立鴨池中学校）

- (2) 「生徒による」いじめ撲滅運動“の推進”～学校安定化装置としての生徒会活動～

講師：山田忠行（宝仙学園短期大学教授）

第三分科会・学校行事

「生徒が主役の学校行事の取り組み」～四中祭を通して～

発表者：小林 明 校長（中野区立第四中学校）

講師：緑川哲夫（東京家政学院短期大学教授）

第四分科会・進路指導

「チャレンジ・ザ・ドリームに夢をのせて」～5日間の職場体験学習の取り組み～

発表者：原 奈都子 教諭（江戸川区立松江第二中学校）

講師：関本恵一（台東区立御徒町台東中学校長）

〔研究紀要〕 第40号

【平成20(2008)年度】 会長 美谷島 正義 事務局長 松本康夫

〔定期総会〕 6月19日（木） 練馬区立光が丘第二中学校

講演「新しい学習指導要領と特別活動」 講師：加々美 肇（江東区立深川第八中学校長）

〔研究協議会〕 1月27日（火） 文京区立第十中学校

「これからの特別活動」 美谷島 正義（文京区立第九中学校長）

※東京都中学校学校行事研究会、文京区立中学校特別活動研究会と共催

〔月例研究会〕 第1回 7月28日 中野区立中央中学校

講演「新学習指導要領の改正点と新たな特別活動の展開」

講師：美谷島 正義（文京区立第九中学校長）

第2回 8月7日（木） 足立区立千寿桜堤中学校

「エンカウンター講習会」

講師：鹿嶋真真弓 教諭（荒川区・第四中）

第3回 11月17日（月） 中野区立第三中学校

学級活動（授業）「対立から学ぼう」～望ましい人間関係づくり～

授業者：柏村みね子（中野区・第三中）

〔生徒会長サミット〕 12月20日（土） 都庁大会議室 ※東京都教育委員会との共催

～いじめ防止のための人間関係づくり～

- 1 実践報告「いじめ防止のための人間関係づくり」 八王子市立四谷中学校生徒会

- 2 いじめ防止フォーラム コーディネーター：米津光治（文教大学教育学部准教授）

- 3 いじめ撲滅に関する大会宣言についての行動指針の提案と採択

〔研究紀要〕 第41号

〔特活会報〕 第75号、第76号

【平成21(2009)年度】 会長 美谷島 正義 事務局長 松本康夫

〔定期総会〕 5月16日（土） 文京区立第九中学校

〔研究協議会〕 第1回 7月30日（木） 文京区立第九中学校

講師：美谷島正義（文京区立第六中学校長）

第2回 8月20日（木） 江東区立深川第八中学校

講師：加賀美 肇（江東区立深川第八中学校長）

第3回 1月26日（火） 中野区立第五中学校

研究授業・学級活動「対立から学ぶ」

授業者 歌田多恵 主任教諭（中野区・第五中）

講師：美谷島正義（文京区立第六中学校長）

[生徒会長サミット] 12月26日(土) 都庁大会議室 ※東京都教育委員会との共催

～いじめ防止に向けた取組の推進

1 基調報告「いじめ防止と私たちの取組」 新宿区立西新宿中学校生徒会

2 実践発表 ・神津村立神津中学校生徒会

・西東京市立青嵐中学校生徒会

3 意見交換 登壇者 新宿区立西新宿中学校、神津村立神津中学校、西東京市立青嵐中学校

4 いじめ防止に向けた取組の提案と撲滅ロゴマークの採択

[第38回全日本中学校特別活動研究会・東京大会] 10月16日(金) 江東区立深川第八中学校、17日(土) 江東区立教育センター

大会主題「望ましい人間関係を形成する新たな特別活動の展開」

1 授業公開

2 分科会

第一分科会・学級活動

(1) 「よりよい生活づくりに参画する意欲を高める学級活動のあり方」

～集団活動を通して自己を生かす能力を育む指導の工夫～

発表者：荒木 忍 主任教諭(練馬区立石神井中学校)

(2) 「たくましさを育てる特別活動に関する一考察」

～よりよい人間関係を築く学級活動を目指して～

発表者：佃 拓生 教諭(青森県盛岡市立上田中学校)

講師：渡部邦雄(文部科学省視学委員)

第二分科会・生徒会活動

(1) 「七夕の会&クリスマス会」～図書委員会主催～

発表者：蓮見弥生 主任教諭(狛江市立狛江第一中学校)

(2) 「生徒一人一人が自発的に活動し、自治的な態度をはぐくむ生徒会活動」

発表者：鴻野勇希 教諭(静岡県袋井市立浅羽中学校)

講師：緑川哲夫(東京農業大学教授)

第三分科会・学校行事

(1) 「異年齢集団による学びあいを通して築く学校行事」

～「縦割り学級合唱」の取り組みと、校風づくり～

発表者：森脇亮二 主任教諭(足立区立千寿桜堤中学校)

(2) 「『夢』を育み、『自信と誇り』を与える学校行事」

～縦割り班活動の充実を目指して～

発表者：西岡香恵 教諭(愛媛県松山市立日浦中学校)

講師：森嶋昭伸(日本体育大学教授)

3 記念講演「中学校特別活動への展望」

講師：三好仁司(文部科学省初等中等教育局教育課程調査官)

[研究紀要] 第42号

[特活会報] 第77号、第78号

【平成22(2010)年度】 会長 佐々木 辰彦 事務局長 美谷島 正義

[定期総会] 5月8日(土) 文京区立本郷台中学校

[研究協議会] 第1回 7月14日(水) 東大和市立第四中学校

研究授業・学級活動「ふれあい体験のグループを決めよう」

授業者：高橋健太郎 教諭(東大和市・第四中)

講義「一単位時間の学級活動指導案の作成」

講師：美谷島正義(文京区立第六中学校長)

第2回 8月23日(月) 文京区立本郷台中学校

講義「望ましい人間関係を形成する新しい特別活動の展開～一単位時間の学級活動指導案の留意点～」

講師：加賀美 肇(江東区立深川第八中学校長)

第3回 10月13日(水) 稲城市立第六中学校

研究授業・学級活動「合唱コンクールに向けて目標をつくろう」

授業者：前田秀人 教諭(稲城市・第六中)

講師：美谷島正義(文京区立第六中学校長)

第4回 2月18日(木) 東村山市立東村山第七中学校

授業公開・学級活動「学級目標をつくる」～学年で統一した指導～

授業者：大島義明 主幹教諭、山岸政佳 主任教諭、加藤郁子 主任教諭、伊藤智美 教諭、平山孝之 教諭
(東村山市・第七中)

講師：佐々木辰彦(東大和市立第四中学校長)

[生徒会長サミット] 12月25日(土) 都庁大会議室 ※東京都教育委員会との共催

～いじめ防止に向けた取組の拡充～

1 実践発表 ・大田区立大森第三中学校生徒会

・青梅市立霞台中学校、青梅市立河辺小学校児童会

・都立晴海総合高等学校生徒会

2 意見交換 コーディネーター：都立晴海総合高等学校生徒会

登壇者 都立晴海総合高等学校生徒会、大田区立大森第三中学校生徒会

青梅市立霞台中学校、青梅市立河辺小学校児童会

[研究紀要] 第43号
[特活会報] 第79号、第80号

【平成23(2011)年度】 会長 佐々木 辰彦 事務局長 松本康夫

[定期総会] 5月14日(土) 練馬区立関中学校

[研究協議会] 第1回 8月22日(月) 足立区立上沼田中学校
講演「望ましい人間関係を築く新たな特別活動の展開」
～一単位時間の学級活動指導案の作成～

講師：美谷島 正義(文京区立第六中学校長)

第2回 10月12日(木) 稲城市立稲城第一中学校
研究授業 「合唱コンクールに向けて目標をつくろう」(2年2組)
授業者 相内 聡子(稲城市・第一中)

講師：佐々木 辰彦(東大和市立第四中学校長)

第3回 2月24日(金) 多摩市立東愛宕中学校
東京都教育研究員「特別活動」発表会に参加

[生徒会長サミット] 1月28日(土) 東京都教職員研修センター
全体会 発表校 大田区立大森第六中学校 八王子市立ひよどり山中学校
分科会 3分科会にて実施

[第40回全日本中学校特別活動研究会・東京大会] 1月28日(土) 東京都教職員研修センター
大会主題「助け合い 励まし合う 仲間づくり」
～望ましい人間関係の形成と集団や社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～
分科会発表 学級活動 発表者：石田 陽平 教諭 (武蔵村山市立第三中学校)
講師：緑川 哲夫 先生 (東京農業大学教授)
生徒会活動 発表者：歌田 多恵 主任教諭 (中野区立第三中学校)
講師：長沼 豊 先生 (学習院大学教授)
学校行事 発表者：室井 裕勝 主任教諭 (江東区立有明中学校)
講師：森嶋 昭伸 先生 (日本体育大学教授)
全体会 講演「特別活動の現代的意義と本質」
講師：遠藤 忠(宇都宮大学教授 日本特別活動学会長)

[研究紀要] 第44号
[特活会報] 第80号、第81号

【平成24(2012)年度】 会長 勝亦 章行(練馬区・関中) 事務局長 松本康夫

[定期総会] 5月12日(土) 練馬区立関中学校

[研究協議会] 第1回 8月22日(水) 練馬区立関中学校
講義「学級経営を踏まえて学級活動の展開」
講師：加々美肇(江東区教育センター)
第2回 2月15日(金) 東村山市立東村山第五中学校
東京都教育研究員「特別活動」発表会に参加

[生徒会長サミット] 12月1日(土) 東京都教職員研修センター
[第41回全日本中学校特別活動研究会・東京大会] 12月1日(土) 東京都教職員研修センター
大会主題「認め合い 高め合う 仲間づくり」
～社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～

分科会発表 学級活動A 発表者：長野 悟 主幹教諭(調布市立第四中学校)
講師：緑川 哲夫 先生 (東京農業大学教授)
学級活動B 発表者：木村智佐子 主幹教諭(東三鷹学園・三鷹市立第六中学校)
講師：渡部 邦雄 先生 (東京農業大学客員教授)
生徒会活動 発表者：川村 健二 教諭(愛媛県松山市立余土中学校)
石崎 有一 教諭(愛媛県松山市立余土中学校)
講師：長沼 豊 先生 (学習院大学教授)
学校行事 発表者：榎本 圭志 主幹教諭(国分寺市立第三中学校)
講師：森嶋 昭伸 先生 (日本体育大学教授)

[東京都中学校特別活動研究会50周年記念祝賀会] 12月1日(土) 水道橋グランドホテル「50周年記念誌」発行

[研究紀要] 第45号(50周年記念誌と合本)
[特活会報] 第82号、第83号

【平成25(2013)年度】 会長 松本 康夫 事務局長 荒巻 淳

[定期総会] 5月18日(土) 練馬区立関中学校

[研究協議会] 第1回 8月23日(金) 練馬区立関中学校
講義「自尊感情や自己肯定感を高める特別活動の工夫」
講師：青木由美子(武蔵村山市立第一中学校長、元東京都教職員研修センター研修部教育開発課 統括指導主事)
第2回 10月23日(水) 武蔵村山市立第一中学校
武蔵村山市立第一中学校の校内研修会と共催

研究授業 「ビブリオバトルでチャンプ本を決めよう」

講演 「ビブリオバトル 自律分散的な知識共有の場作り」

講師 ビブリオバトル普及委員会理事 立命館大学情報工学部准教授 谷口 忠大 先生

[宿泊研修会] 8月20日(火)～21日(水) 箱根湯本「開雲」

[生徒会長サミット] 12月26日(土) 練馬区関中学校

[第42回全日本中学校特別活動研究会・大分大会] 8月10日(木) 都中特活より7名参加

[研究紀要] 第46号

[特活会報] 第84号、第85号

【平成26(2014)年度】 会長 松本 康夫 事務局長 荒巻 淳

[定期総会] 5月24日(土) 練馬区立関中学校

[研究協議会] 第1回 11月12日(水) 武蔵村山市立第四中学校(武蔵村山市中学校教育研究会の研修会と共催)
研究授業 「社会の一員としての自覚と責任」情報化社会におけるモラルを身に付けさせる話し合い活動の実践
授業者 武蔵村山市立第四中学校 教諭 清水雄一
講 師 東大和市教育センターサポートルーム
主任指導員 佐々木辰彦先生(前全日本中学校特別活動研究会会長)
第2回 1月16日(金) 練馬区立関中学校(平成26年度東京都教職員研修センター教育普及事業)
実践報告 「よりよい人間関係を築くための自主的・実践的な態度を身に付けさせる学級活動の工夫」
発表者 東村山市立東村山第五中学校 主任教諭 吉川 滋之
講 師 武蔵村山市立武蔵村山第一中学校長 青木 由美子 先生
(「学校・学級文化を創る特別活動」作成協力委員)

[宿泊研修会] 8月16日(日)～17日(月) 箱根湯本「開雲」

[生徒会長サミット] 12月26日(金) 練馬区関中学校

[第43回全日本中学校特別活動研究会・愛媛大会] 10月30(木)31日(金) 都中特活より6名参加

[研究紀要] 第47号

[特活会報] 第87号、第88号

【平成27(2015)年度】 会長 長谷川 晋也(墨田区・本所中) 事務局長 荒巻 淳

[定期総会] 5月23日(土) 練馬区立関中学校

[研究協議会] 第1回 11月9日(月) 文京区立第九中学校(文京区立中学校教育研究会・特別活動部研修会との共催)
内 容 学級活動「合唱コンクールの経験を通して、よりよいコミュニケーションの方法を学ぼう」
授業者 藤井 拓也 教諭
講 師 東京女子体育大学 教授 美谷島 正義 先生
第2回 1月30日(土) 練馬区立関中学校
生徒会長サミット・生徒会担当教員研修会
講師: 東大和教育委員会 経営支援員 佐々木 辰彦
江東区教育センター 相談員 加々美 肇

[宿泊研修会] 8月16日(日)～17日(月) 箱根湯本「開雲」

[生徒会長サミット] 1月30日(土) 練馬区関中学校

[第44回全日本中学校特別活動研究会・神奈川大会] 10月2日(金)3日(土) 都中特活より8名参加

[研究紀要] 第48号

[特活会報] 第89号

【平成28(2016)年度】 会長 長谷川 晋也(墨田区・本所中) 事務局長 荒巻 淳

[定期総会] 5月21日(土) 墨田区立本所中学校

[研究協議会] 第1回 8月9日(火) 練馬区立豊玉第二中学校
内 容 講義:『学級・学校文化を創る 特別活動【中学校編】』の活用
講師: 青木由美子先生(前武蔵村山第一中学校長/東村山市教育委員会・指導室長)
『学級・学校文化を創る 特別活動【中学校編】』の作成協力者
第2回 11月19日(土) 墨田区立本所中学校 体育館にて
生徒会長サミット・生徒会担当教員研修会
講師: 東大和教育委員会 経営支援員 佐々木 辰彦 (元全日本中学校特別活動研究会会長)
江東区教育センター 相談員 加々美 肇 (元全日本中学校特別活動研究会会長)

[宿泊研修会] 8月21日(日)～22日(月) 箱根湯本「開雲」

[生徒会長サミット] 11月19日(土) 墨田区立本所中学校

[第45回全日本中学校特別活動研究会・東京大会] 11月19日(土) 墨田区立本所中学校

大会主題「認め合い 支え合い 高め合う 仲間づくり」

～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～

分科会発表	学級活動A	発表者: 大塚 隆弘 主任教諭	(江東区立深川第三中学校)
		瀬戸 完一 主幹教諭	(葛飾区立新小岩中学校)
		講 師: 森島 昭伸 先生	(日本体育大学教授)
	学級活動B	発表者: 笹原 伸一 教諭	(埼玉県北本市立西中学校)
		講 師: 桑原 憲一 先生	(獨協大学東京農業大学非常勤講師)
	生徒会活動	発表者: 藤本 謙一郎 主幹教諭	(練馬区立石神井東中学校)
		講 師: 緑川 哲夫 先生	(東京農業大学非常勤講師・元東京農業大学非教授)
	学校行事	発表者: 尾崎菜穂登 教諭	(武蔵村山市立小中一貫校村山学園)
		講 師: 美谷島 正義先生	(東京女子体育大学・同短期大学教授)

[研究紀要] 第49号

[特活会報] 第90号、第91号

【平成29(2017)年度】 会長 上岡 祥邦 事務局長 荒巻 淳

[定期総会] 5月20日(土) 墨田区立本所中学校

[研究協議会] 第1回 8月3日(水) 中野区立第十中学校
講義『「新学習指導要領～特別活動～」の理解』
講師：青木由美子(東村山市教育委員会 教育部次長)
第2回 12月26日(火) 練馬区立関中学校
生徒会長サミット・生徒会担当教員研修会
講師：東大和第一中学校 経営支援員 佐々木 辰彦
江東区教育センター 相談員 加々美 肇
第3回 2月9日(金) 東村山市立東村山第二中学校
東京都教育研究員「特別活動」発表会に参加

[宿泊研修会] 8月20日(日)～21日(月) 箱根湯本「開雲」

[生徒会長サミット] 12月26日(土) 練馬区関中学校

[第46回全日本中学校特別活動研究会・佐賀大会] 8月10日(木) 都中特活より6名参加

[研究紀要] 第50号

[特活会報] 第92号、第93号、第94号

【平成30(2018)年度】 会長 青木 由美子(小平市・小平第五中) 事務局長 荒巻 淳

[定期総会] 5月26日(土) 練馬区立関中学校

[研修会] 第1回 8月1日(水) 練馬区立豊玉第二中学校
特別活動実践事例の発表
江東区立有明西学園 有川 直志 主任教諭
足立区立第十四中学校 酒井 寛子 教諭
講義「学級経営を踏まえて学級活動の展開」
講師：加々美肇(江東区教育センター)
第2回 12月26日(水) 練馬区立関中学校
生徒会長サミット・生徒会担当教員研修会
講師：東大和第一中学校 経営支援員 佐々木 辰彦
墨田区立適応指導教室ステップ学級(指導員)長谷川 晋也
第3回 2月15日(金) 葛飾区立常磐中学校
東京都教育研究員「特別活動」発表会に参加

[宿泊研修会] 8月19日(日)～20日(月) 箱根湯本「開雲」

[生徒会長サミット] 12月26日(土) 練馬区関中学校

[第47回全日本中学校特別活動研究会・東京大会] 11月10日(土) 練馬区立石神井東中学校
大会主題「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」
～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～

分科会発表	学級活動A	発表者：山田 真也 教諭	(横浜市中川西中学校)
		講師：美谷島正義 先生	(東京女子体育大学・同短期大学教授)
	学級活動B	発表者：藤本謙一郎 主幹教諭	(練馬区立石神井東中学校)
		講師：関本 恵一 先生	(東京音楽大学特任教授)
	生徒会活動	発表者：茂谷 厚 教諭	(大田区立大森第六中学校)
		講師：米津 光治 先生	(文教大学教授)
	学校行事	発表者：後藤 正彦 校長	(国分寺市立第一中学校)
		小松 咲 教諭	(国分寺市立第一中学校)
		講師：和田 孝 先生	(帝京大学教育学部長教授)

[研究紀要] 第51号

[特活会報] 第95号、第96号

【平成31・令和元(2019)年度】 会長 青木 由美子(小平市・小平第五中) 事務局長 荒巻 淳

[定期総会] 5月26日(日) 小平市立小平第五中学校

[研究協議会] 第1回 8月1日(木) 中野区立中野中学校
実践発表 テーマ「新学習指導要領への新たな特別活動の展開」
～ 集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫 ～
発表者 東村山市立東村山第五中学校 吉川 滋之 指導教諭

第2回 2月7日(金) 江戸川区立小松川第二中学校
東京都教育研究員「特別活動」発表会に参加

[宿泊研修会] 8月18日(日)～19日(月) 箱根湯本「箱根強羅温泉 桐谷箱根荘」

[生徒会長サミット] 12月26日(木) 狛江市立狛江第一中学校 55校 122名の生徒が参加

[第48回全日本中学校特別活動研究会・東京大会] 11月16日(土) 狛江市立狛江第一中学校
大会主題「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」
～集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫～

分科会発表	学級活動	発表者：栞原 美絵 教諭	(武蔵村山市立小中一貫校・大南学園第四中学校)
		吉田 義和 主任教諭	(練馬区立開進第三中学校)
		真辺 草平 教諭	(足立区立六月中学校)
		講師：緑川 哲夫 先生	(東京農業大学非常勤講師・元東京農業大学非教授)
生徒会活動A	発表者：高山 俊徳 主任教諭	(国分寺市立第四中学校)	
	講師：美谷島正義 先生	(東京女子体育大学・同短期大学教授)	

生徒会活動B	発表者：河埜 亮一 主任教諭	(狛江市立狛江第一中学校)
	北島 直翔 教諭	(狛江市立狛江第一中学校)
	松尾 紗綾香 教諭	(狛江市立狛江第一中学校)
	講師：佐々木辰彦 先生	(東大和市教育委員会)
学校行事	発表者：藤原 有佐 教諭	(京都市立春日丘中学校)
	講師：和田 孝 先生	(帝京大学教育学部長教授)

[研究紀要] 第52号
[特活会報] 第97号、第98号

【令和2(2020)年度】 会長 青木 由美子(小平市・小平第五中) 事務局長 荒巻 淳(江戸川・松江第五中)
[定期総会] 5月16日(土) WEB開催
[研究協議会] 新型コロナ感染症蔓延のため中止
[調査研究] 「特別活動の実施状況調査」
[宿泊研修会] 新型コロナ感染症蔓延のため中止
[生徒会長サミット] 12月26日(土) オンライン開催 事務局の10校で実施
[第49回全日本中学校特別活動研究会・東京大会] 新型コロナ感染症蔓延のため中止
[研究紀要] 第53号
[特活会報] 第99号

【令和3(2021)年度】 会長 荒巻 淳(江戸川・松江第五中) 事務局長 滝沢 二三雄(品川・鈴ヶ森中)
[定期総会] 5月15日(土) オンラインによる開催
[研究協議会] 第1回 8月4日(水) 新型コロナ感染症蔓延のため中止
[宿泊研修会] 新型コロナ感染症蔓延のため中止
[生徒会長サミット] 12月27日(土) オンライン開催 54校参加
[第49回全日本中学校特別活動研究会・鹿児島大会] 8月10日(火) オンラインにて参加
[研究紀要] 第54号
[特活会報] 第100号

【令和4(2022)年度】 会長 滝沢 二三雄(品川・鈴ヶ森中) 事務局長 瀬戸 完一(葛飾・小松中)

[定期総会] 5月28日(土) 江戸川区立松江第五中学校 オンラインとのハイブリッドで実施
[研究協議会] 第1回 8月1日(月) 江戸川区立松江第五中学校
実践発表 テーマ「自己実現のために必要な資質・能力を高める学級活動の工夫」
～自他の良さを認め合う話し合い活動を通して～
発表者 江戸川区立南葛西中学校 三枝 剛 主幹教諭
葛飾区立常盤中学校 大橋 えり 主任教諭
講義・協議 「学級活動を基盤とした学級経営について」「コロナ禍における特別活動の指導の工夫」
講師 東村山市立東村山第五中学校 吉川 滋之 指導教諭
第2回 12月26日(月) 狛江市立狛江第一中学校
生徒会長サミット・生徒会担当教員研修会
講師 元全日本中学校特別活動研究会会長 佐々木辰彦 加々美 肇
[宿泊研修会] 新型コロナ感染症蔓延のため中止
[生徒会長サミット] 12月26日(月) 狛江市立狛江第一中学校
[第50回全日本中学校特別活動研究会・東京大会] 11月5日(土) 江戸川区立松江第五中学校 島嶼部はオンライン参加
大会主題「学校教育を柱として支える特別活動の創造」
～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～
分科会発表 学級活動 発表者：山浦 龍太郎 教諭 (小平市立上水中学校)
五十嵐 拓 教諭 (江戸川区立南葛西中学校)
講師：青木 由美子先生 (東京女子体育大学・同短期大学)
生徒会活動 発表者：向井 一真 教諭 (杉並区立泉南中学校)
講師：米津 光治 先生 (文教大学教授)
学校行事 発表者：澤 祐介 主任教諭 (国分寺市立第三中学校)
講師：佐々木辰彦 先生 (元全日本中学校特別活動研究会会長)
[研究紀要] 第55号
[特活会報] 第101号、第102号

全日本中学校特別活動研究大会の歩み

回	開催年月日	開催地	「主 題」 (会 場)	会 長
				実行委員長
第 1 回	昭和47.6.8(木) 9(金)	東京都 (板橋区)	「望ましい人間関係をめざして、新しい特別活動をどのように進めたらよいか」 ～その計画・運営・指導の在り方を研究する。～ (板橋区立区民会館・産業文化会館、板橋区立上板橋第一中学校 他 5 会場)	須田 重雄
				須田 重雄
第 2 回	昭和48.11.8(木) 9(金)	広島県 (福山市)	「ひとりひとりをたいせつにする特別活動はいかにあるべきか」～特にクラブ活動 をとりまく課題を明らかにし、その計画・運営・指導のあり方をさぐる～ (福山市民会館、福山市立城北中学校、他 2 会場)	須田 重雄
				近藤 通珍
第 3 回	昭和49.6.6(木) 7(金)	東京都 (中野区)	「これからの特別活動の充実をどのように進めるか」 (中野区立公会堂、中野区立中央中学校)	菊池 四郎
				菊池 四郎
第 4 回	昭和50.6.20(金) 21(土)	東京都 (目黒区)	「生きがいを育てる特別活動の指導をどのように進めるか」 (東京都立教育研究所)	菊池 四郎
				菊池 四郎
第 5 回	昭和51.6.24(木) 25(金)	埼玉県 (浦和市)	「これからの学校教育の中学校における特別活動」 (浦和市民会館、桶川中学校、他 2 会場)	菊池 四郎
				加藤 雅信
第 6 回	昭和52.6.24(金) 25(土)	岡山県 (岡山市)	「ゆとりある教育の中の特別活動」～教師と生徒のふれ合いを求めて～ (岡山市民文化ホール、中央公民館)	菊池 四郎
				串田 吉雄
第 7 回	昭和53.6.2(金) 3(土)	茨城県 (下妻市)	「いきがいと充実感あふれる中学生を育てる特別活動」 (下妻市立下妻中学校)	菊池 四郎
				広瀬 一徳
第 8 回	昭和54.8.3(金) 4(土)	香川県 (高松市)	「自ら考え正しく判断・行動できる生徒の育成をめざす特別活動」 (高松市民会館、他 4 会場)	岩亀 幸三郎
				谷本 義男
第 9 回	昭和55.6.20(金) 21(土)	東京都 (中野区)	「新教育課程の趣旨を生かす特別活動」 (中野区立公会堂、東京都立教育研究所)	田代 拳
				神戸 恭三郎
第10回	昭和56.8.7(金) 8(土)	兵庫県 (神戸市)	「ゆたかな人間性の育成をめざす新しい特別活動」～ゆとりと充実の実践課題～ (神戸文化ホール、他 8 会場)	田代 拳
				河野 広雄
第11回	昭和57.8.6(金) 7(土)	千葉県 (千葉市)	「ゆたかな人間性の育成をめざす特別活動」～ゆとりと充実の創造と実践～ (千葉県教育会館、他 5 会場)	田代 拳
				菅崎 栄
第12回	昭和58.9.29(木) 30(金)	福島県 (福島市)	「生徒の自主的・自治的活動を定着させる特別活動」 ～一人歩きのできる生徒の育成をめざして～ (福島市立福島第四中学校、大島中学校、吾妻中学校、福島市民センター)	田代 拳
				橋谷田千代士
第13回	昭和59.8.9(木) 10(金)	静岡県 (静岡市)	「一人ひとりに充実感を生み出す特別活動」 (静岡市民文化会館、他 5 会場)	神戸 恭三郎
				土屋 伊佐雄 加藤 清
第14回	昭和60.8.7(水) 8(木)	東京都 (渋谷区)	「生徒の自己教育力を高める特別活動」 (国立オリンピック記念青少年総合センター)	横尾 武成
				両角 敏彦 原口 盛次
第15回	昭和61.11.13(木) 14(金)	東京都 (中野区)	「生徒の学校生活を活性化する特別活動」 (中野文化センター、豊島区立高田中学校、中野区勤労福祉会館)	横尾 武成
				原口 盛次
第16回	昭和62.8.7(金) 8(土)	千葉県 (千葉市)	「生徒の自主性を高める特別活動」 (千葉県教育会館、千葉県自治会館、公立学校共済組合青雲閣)	原口 盛次
				細谷 竹松
第17回	昭和63.8.9(火) 10(水)	徳島県 (鳴門市)	「生徒の創造を生かし、一人ひとりに充実感をもたせる特別活動」 (鳴門市文化会館、老人福祉センター、青少年育成センター、地場産業センター)	原口 盛次
				廣岡 政吉
第18回	平成元.8.8(火) 9(水)	栃木県 (藤原町)	「一人一人を伸ばす特別活動」～より望ましい集団活動を通して～ (鬼怒川温泉あさやホテル)	槇 常三
				武井 岩夫
第19回	平成2.10.18(木) 19(金)	新潟県 (両津市)	「主体的な集団活動をうながす特別活動のあり方」 (佐渡島開発総合センター、両津市立東中学校、南中学校)	槇 常三
				渡辺 喜信
第20回	平成3.8.8(木) 9(金)	群馬県 (伊香保町)	「望ましい集団活動を通して、一人一人の生き方を育てる特別活動」 (伊香保温泉ホテル天坊)	鶴巻 武
				松下 熙雄
第21回	平成4.10.30(木) 31(金)	埼玉県 (北本市)	「豊かな人間性を育む特別活動」～多様な体験活動の実践を通して～ (北本市文化センター、北本市立北本中学校)	鶴巻 武
				布目 雅之
第22回	平成5.8.6(金) 7(土)	鹿児島県 (鹿児島市)	「望ましい集団活動を通して、主体的に生きる力を培う特別活動」 (鹿児島市民文化ホール、鹿児島サンロイヤルホテル)	山田 忠行
				竹原 宏
第23回	平成6.8.18(木) 19(金)	和歌山県 (和歌山市)	「たくましい実践力を育てる特別活動」～人間としての生き方を求めて～ (和歌山県民文化会館、紀の国会館)	山田 忠行
				久保 陽右
第24回	平成7.8.7(月) 8(火)	東京都 (中野区)	「たくましく生きる意欲を育てる特別活動」 (なかの Z E R O)	山田 忠行
				小松 博則
第25回	平成8.8.2(金) 3(土)	青森県 (弘前市)	「豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育てる特別活動」 (弘前市民会館、弘前文化センター)	小松 博則
				鈴木 弘
第26回	平成9.8.7(木) 8(金)	神奈川県 (横浜市)	「豊かな人間性を培い、主体的に生きる力を育てる特別活動」 (横浜市立横浜商業高等学校、パシフィコ横浜)	平松 隆
				名塚 義明
第27回	平成10.8.7(金) 8(土)	広島県 (広島市)	「豊かな人間性をつちかい、生きる力をはぐくむ特別活動」 (広島県民文化センター、鯉城会館、広島国際会議場)	平松 隆
				澤村 晴視
第28回	平成11.8.19(木) 20(金)	栃木県 (藤原町)	「生きる力をはぐくむ あらたな特別活動を求めて」 (鬼怒川温泉グリーンパレス)	佐藤 真人
				須藤 稔
第29回	平成12.8.3(木) 4(金)	熊本県 (熊本市)	「2 1 世紀を生きる力を育てる特別活動」 (メルパルク KUMAMOTO)	佐藤 真人
				坂井 豊水

回	開催年月日	開催地	「主 題」 (会 場)	会長
				実行委員長
第30回	平成13.8.2(木) 3(金)	東京都 (中野区)	「21世紀を拓く特別活動」 ～共に考え、共に歩む～ (なかのZERO)	佐藤 真人
				保積 芳美
第31回	平成14.8.7(水)	鹿児島県 (鹿児島市)	「豊かなかかわり合いを通して、共に生きる力を育てる特別活動」 (ホテルウエルビューかごしま)	保積 芳美
				山下 雄平
第32回	平成15.7.30(木) 31(金)	愛媛県 (松山市)	「共生と創造を目指す特別活動の研究」 (松山市立子規記念博物館、にぎたつ会館、メルパルクMATSUYAMA)	保積 芳美
				芝 英徳
第33回	平成16.10.15(金) 16(土)	徳島県 (阿南市)	「望ましい集団活動を通して、生きる力を育てる特別活動」 (阿南中学校、阿南市文化会館)	保積 芳美
				萩原 宏昭
第34回	平成17.8.3(木) 4(金)	東京都 (中野区)	「望ましい集団活動の活性化を通して、生きる力を育てる特別活動」 ～社会的な資質の育成を中心に～ (中野区教育センター、中野区立中央中学校)	保積 芳美
				加々美 肇
第35回	平成18.10.27(金) 28(土)	青森県 (弘前市)	「出会おう新しい自分、生きよう自分らしく」 ～豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育てる特別活動～ (弘前市立東中学校、弘前市文化センター)	加々美 肇
				山科 實
第36回	平成19.7.31(火)	東京都 (中野区)	「豊かな人間関係づくりを通して、生きる力を育む特別活動」 ～学校と家庭・地域を結ぶ特別活動～ (なかのZERO)	加々美 肇
				坂井 晃
第37回	平成20.8.6(水)	群馬県 (前橋市)	「未来を拓く人間力を培う特別活動」 ～望ましい集団活動・豊かな人間関係づくりを通して～ (前橋テルサ)	加々美 肇
				尾身 正治
第38回	平成21.10.16(金) 17(土)	東京都 (江東区)	「望ましい人間関係を形成する新たな特別活動の展開」 (江東区立深川第八中学校、江東区教育センター)	坂井 晃
				美谷島 正義
第39回	平成22.10. 29(金)	青森県 (五所川原市)	「触れ合いの中で発見しよう 輝く自分 響き合う仲間」 ～新しい時代を切り拓く特別活動～ (五所川原市立五所川原第一中学校)	坂井 晃
				永澤 正己
第40回	平成24.1.28(土)	東京都 (文京区)	「助け合い 励まし合う 仲間づくり」 ～望ましい人間関係の形成と集団や社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～ (東京都教職員研修センター)	佐々木辰彦(代行)
				松本 康夫
第41回	平成24.12.1(土)	東京都 (文京区)	「認め合い 高め合う 仲間づくり」 ～社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～ (東京都教職員研修センター)	佐々木 辰彦
				勝亦 章行
第42回	平成25.8.8(木)	大分県 (別府市)	「よりよき人間関係を築き、望ましい集団活動を通して生きる力をはぐくむ特別活動」 ～話し合い活動の充実による自治能力の育成～ (立命館アジア太平洋大学)	勝亦 章行
				児玉 徳信
第43回	平成26.10.30(木) 31(金)	愛媛県 (松山市)	「絆を深め、たくましく生きる力を育む特別活動の創造」 ～より良い生活や人間関係を築く集団活動の実践を通して～ (松山市立桑原中学校)	勝亦 章行
				武田 峰紀
第44回	平成27.10.2(金) 3(土)	神奈川県 (横須賀市)	「自主的、実践的な態度と想像力を育む特別活動を目指して」 ～よりよい人間関係を育成する中で～ (ヨコスカベイサイドポケット産業交流プラザ・総合福祉会館)	松本 康夫
				守谷 賢二
第45回	平成28.11.19(土)	東京都 (墨田区)	「認め合い 支え合い 高め合う 仲間づくり」 ～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～ (墨田区立本所中学校)	松本 康夫
				長谷川 晋也
第46回	平成29.8.10(木)	佐賀県 (佐賀市)	「よりよい人間関係を築き、主体的に実践する力を育む特別活動の創造」 ～協働的な学びの基礎を形成する集団活動の実践活動を通して～ (グランデはがくれ)	長谷川 晋也
				中野 義文 澤 成樹
第47回	平成30.11.10(土)	東京都 (練馬区)	「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」 ～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～ (練馬区立石神井東中学校)	上岡 祥邦
				青木 由美子
第48回	令和元.11.16(土)	東京都 (狛江市)	「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」 ～集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫～ (狛江市立狛江第一中学校)	上岡 祥邦
				青木 由美子
第49回	平成3.8.10(火)	鹿児島県 (オンライン)	「よりよい人間関係を形成し、集団や社会、自己の生活上の課題を主体的に解決することができる生徒の育成」	青木 由美子
				田宮 弘宣
第50回	令和4.11.5(土)	東京都 (江戸川区)	「学校教育を柱として支える特別活動の創造」 ～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～ (江戸川区立松江第五中学校)	荒巻 淳
				滝沢 二三雄

東京都中学校特別活動研究会 歴代会長・事務局長

年度	代	会長	事務局長	備考
昭和37年度	初代	幸田 勝		
昭和38年度	〃	幸田 勝		
昭和39年度	二代	須田 重雄	菊地 四郎	
昭和40年度	〃	須田 重雄	菊地 四郎	
昭和41年度	〃	須田 重雄	樋下田 恒雄	
昭和42年度	〃	須田 重雄	田代 拳	
昭和43年度	〃	須田 重雄	田代 拳	
昭和44年度	〃	須田 重雄	田代 拳	
昭和45年度	〃	須田 重雄	大蔵 平一郎	
昭和46年度	〃	須田 重雄	大蔵 平一郎	
昭和47年度	〃	須田 重雄	大蔵 平一郎	全日本中学校特別活動研究会結成
昭和48年度	〃	須田 重雄	大蔵 平一郎	
昭和49年度	三代	菊地 四郎	榎 常三	全日本中学校特別活動研究会東京大会
昭和50年度	〃	菊地 四郎	榎 常三	全日本中学校特別活動研究会東京大会
昭和51年度	四代	岩亀 幸三郎	榎 常三	
昭和52年度	〃	岩亀 幸三郎	横尾 武成	
昭和53年度	五代	田代 拳	榎 常三	
昭和54年度	〃	田代 拳	榎 常三	
昭和55年度	〃	田代 拳	榎 常三	全日本中学校特別活動研究会東京大会
昭和56年度	〃	田代 拳	榎 常三	
昭和57年度	六代	神部 恭三郎	山田 忠行	
昭和58年度	七代	両角 敏彦	山田 忠行	
昭和59年度	八代	原口 盛次	山田 忠行	
昭和60年度	〃	原口 盛次	山田 忠行	全日本中学校特別活動研究会東京大会
昭和61年度	〃	原口 盛次	山田 忠行	全日本中学校特別活動研究会東京大会
昭和62年度	九代	榎 常三	山田 忠行	
昭和63年度	〃	榎 常三	山田 忠行	
平成元年度	十代	鶴巻 武	山田 忠行	
平成2年度	〃	鶴巻 武	美谷島 正義	
平成3年度	〃	鶴巻 武	美谷島 正義	
平成4年度	十一代	山田 忠行	坂井 晃	
平成5年度	〃	山田 忠行	坂井 晃	
平成6年度	〃	山田 忠行	坂井 晃	
平成7年度	十二代	小松 博則	坂井 晃	全日本中学校特別活動研究会東京大会
平成8年度	十三代	平松 隆	坂井 晃	
平成9年度	十四代	佐藤 真人	坂井 晃	
平成10年度	〃	佐藤 真人	坂井 晃	
平成11年度	十五代	保積 芳美	松本 康夫	
平成12年度	〃	保積 芳美	松本 康夫	
平成13年度	〃	保積 芳美	市野 聖美	全日本中学校特別活動研究会東京大会
平成14年度	十六代	加々美 肇	市野 聖美	
平成15年度	〃	加々美 肇	西 敬司郎	
平成16年度	〃	加々美 肇	西 敬司郎	
平成17年度	〃	加々美 肇	西 敬司郎	全日本中学校特別活動研究会東京大会
平成18年度	十七代	坂井 晃	西 敬司郎	
平成19年度	〃	坂井 晃	西 敬司郎	全日本中学校特別活動研究会東京大会
平成20年度	十八代	美谷島 正義	松本 康夫	
平成21年度	〃	美谷島 正義	松本 康夫	全日本中学校特別活動研究会東京大会
平成22年度	十九代	佐々木 辰彦	美谷島 正義	
平成23年度	〃	佐々木 辰彦	松本 康夫	全日本中学校特別活動研究会東京大会
平成24年度	二十代	勝亦 章行	松本 康夫	全日本中学校特別活動研究会東京大会
平成25年度	二十一代	松本 康夫	荒巻 淳	
平成26年度	〃	松本 康夫	荒巻 淳	
平成27年度	二十二代	長谷川 晋也	荒巻 淳	
平成28年度	〃	長谷川 晋也	荒巻 淳	全日本中学校特別活動研究会東京大会
平成29年度	二十三代	上岡 祥邦	荒巻 淳	
平成30年度	二十四代	青木 由美子	荒巻 淳	全日本中学校特別活動研究会東京大会
平成31年度	〃	青木 由美子	荒巻 淳	全日本中学校特別活動研究会東京大会
令和2年度	〃	青木 由美子	荒巻 淳	全日本中学校特別活動研究会東京大会（中止）
令和3年度	二十五代	荒巻 淳	滝沢 二三雄	
令和4年度	二十六代	滝沢 二三雄	瀬戸 完一	全日本中学校特別活動研究会東京大会

新たな創造

東村山市立東村山第二中学校
校長 荒木 忍

葛飾区立小松中学校
副校長 瀬戸 完一

楽しく充実した学校生活を生徒に味わわせるために特別活動を勉強する決心をして、平成16年度に東京の教育21研究開発員となりました。大好きだった「生徒会活動」か「学校行事」の研究をするつもりでいた私でしたが、苦手に行っていた「学級活動」が主題となってしまいました。案の定、私の学級活動を御覧になった先輩方に「生徒が自主的に動いていない。そんな活動は特別活動とは言えない。」と厳しい指摘を受けてしまいました。勉強の機会を求めて東京都中学校特別活動研究会に参加するようになり、助言を受けて平成20年度には東京都教員研究生として、平成23年度には東京都教育研究員として特別活動（学級活動）の研究をするに至りました。私の拙い実践を厳しくも温かく励まし続けてくださった先輩方には感謝の気持ちしかありません。

平成24年度から10年間の指導主事、統括指導主事としての教育行政の経験の中で、生徒が学校生活を送る上で基盤となる力や社会で生きて働く力を身に付けるためには、教員の特別活動への正しい知識と実践が何よりも重要であることを実感してきました。私自身が諸先輩方に御指導、御助言いただいたように、校長としての今後の教員生活を東京都特別活動研究会とともに教員の指導、育成に尽力してまいります。そして、本研究会の発展に微力ながら寄与していく所存です。

コロナ禍において人と繋がる喜びとその大切さに私達は改めて気付かされました。「できたこと」ができなくなる中で、集団や社会の形成者としての見方、考えを働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質、能力を育成することを目指す特別活動の重要性を再認識しました。

現在は「できること」が少しずつではありますが増えてきました。困難な状況下でも新しい発見が沢山ありました。学級や学年・学校全体で取り組む諸行事の体験、触れ合いや人間関係、後輩に引き継ぐべき学校の伝統や校風など、新たな学級・学校文化を創造していきたいと思います。人は一緒に過ごしながら何気なく触れ合ったり、会話する積み重ねがお互いの距離を近づけます。お互いを高めあうことにより、視野が広がり、新たな発想を生み出し、豊かな心を持つことができるのです。生徒には様々な経験を通し、お互いの心を通わせ、人と人の繋がりを大切に出来る豊かな人間関係を築いてほしいと願っています。

本研究会の活動が多くの方に支えられ、見守られていることに心より感謝しております。これからも一人一人の生徒を大切にしながら、心の繋がりを大切に、更に魅力ある教育活動を展開していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

特別活動との出会い、そして感動

練馬区立大泉学園中学校
副校長 藤本 謙一郎

私が特別活動についてきちんと学ぶ機会を得たのは本研究会第二十代会長の勝亦先生との出会いです。先生の推薦で平成25年度東京都教育研究員として特別活動について学ぶことが出来ました。たった5人の部員と指導にあたってくださった指導主事（元高等学校の教員）の先生の計6人、恥ずかしながら全員が特別活動についてよく分からないまま研究を進めた日々を懐かしく思います。研究発表では当時練馬区の指導主事でいらした荒木先生に参観していただき、一年前の生徒の様子を知っていることから、彼らが大変成長していたことに驚かれたことを今でも覚えています。

特別活動には教科の授業では得られなかった生徒の変容がありました。特に学級活動の授業だけでも笑顔で話し合っている姿に感動しました。さらに長期的な変容としては、3年間特別活動を積極的に指導した学年の、3年生に進級する直前に大きな成長があり、ある生徒は「周りの変化に置いていかれると思った」と言うほどでした。

これほどまでに生徒を成長させるものは何なのだろうか、と興味が湧き、その後は特別活動にのめり込んでいきました。平成30年度には全日本中学校特別活動研究会東京大会で受け持っていた学年の全てのクラスで学級活動の授業を公開させていただきました。3年生の授業でしたが、その生徒たちも3年間しっかりと特別活動を充実させて学校生活を自分たちのこととして捉えるよう指導してきました。参観されていたある県の先生が、積極的に話し合っている生徒の姿に涙されていたというエピソードは強く胸に残っています。

生徒の日々の生活を自分事として捉える場を設定できる「特別活動」という日本独自の教育課程は本当に素晴らしいものだと思います。その実践と研究を続けさせていただける本研究会は大変ありがたい存在です。創立60周年の伝統の重みを受け止めつつ、新たな世代へと繋げることができるよう、微力ながら尽力していきたいと思います。60周年、おめでとうございます。

東村山市立東村山第五中学校
指導教諭 吉川 滋之

「なすことによって学ぶ」の方法原理のもと、生徒たちと共に学級活動に力を注いだ時間は一生の宝です。私の特別活動とのご縁は、平成24年度東京都教育研究員として、特別活動の研究に関わる機会をいただいたことがきっかけでした。当時の校長、松本康夫先生からお誘いを受け、研究員という立場で特別活動について本格的に学び始めました。部会の担当校長 青木由美子先生、統括指導主事 坂本教喜先生、指導主事 佐藤達哉先生のご指導の下、研究・実践を行う中で、生徒が主体となり、学級や学校文化を創り上げていくことの大切さや特別活動の魅力を実感することができました。

その後、東京都中学校特別活動研究会の先生方と出会い、東京都生徒会長サミットの運営を務めたり、夏季研修会等で実践発表の機会をいただく等、現在に至ります。特別活動は私の教員人生の中で大きな柱となりました。

現在は、特別活動の指導教諭として研究・実践や指導助言に関わりながら、年4回の学級活動の授業や協議会も行っています。特別活動を通して、中学校だけでなく、小学校や高校の先生方とも意見交換できる機会も増えており、校種を超えた連携の必要性をより強く感じています。

これからも、同じ志をもつ研究会の先生方と共に、東京の特別活動の実践を深め、広げていくことができるよう尽力していく気持ちです。本研究会を支えてくださった多くの皆様に感謝申し上げます。

「これからの10年、どうなるのか」

狛江市立狛江第一中学校
嘱託職員 谷口 典夫

都中特活事務局員になって30年あまり、学校は完全週5日制になり、1学級の上限人数が40人から35人に減り、選択教科はなくなり、生徒一人一人にタブレットが渡される時代になった。生徒同士の目に見える所でのいざこざも減ったように感じる。先生の目が行き届いているからだろうか。学級上限人数を30人に、なんていう声も聞こえてくる。それに対してSNSに関する問題（目に見えないところでのいざこざ）が増えてきている。そういう世界にいる生徒の個の力（生きていく力）は10年前よりどうなっているのだろうか。本来は強くなっていないと、自分を見失い、自信のない生活を送ってしまうと考える。これからの10年間でどれだけ個の力をつけられるであろうか。個の力をつけるには、集団活動を通してつけられると考える。また個の力が強くなれば、集団の力も強くなるのではないか。特別活動は、為すことによって学ぶ活動である。色々な体験や経験を通して、集団の力を高め、個の力を高めていける特別活動に期待する。

「私と本研究会との出会い」

板橋区立志村第四中学校
教諭 酒井 寛子

私が本研究会を知るきっかけとなったのは、10年ほど前の初任校の校長先生から「生徒会長サミットに参加してみないか」という一言からでした。前日の会場準備の手伝いから参加させていただき、その日、本研究会の先生方と初めてお会いしました。要領が分からず、戸惑っていた私に対して、先生方が優しく声をかけてくださいました。今でもあの時の「先生方との出会い」がとても心に残っています。また、あの居心地のよい空間は、先生方がもっている特別活動に対する熱い思いがあつてのことだったと感じています。

最初は校長先生の一言から始まったことでしたが、その時から、事務局会や生徒会長サミットに参加をしてきました。近年は新型コロナウイルスにより、なかなか参加ができていませんが、参加できた時には、以前と変わらない先生方の温かさに、心地のよさと感謝の思いを感じています。初任当初は特別活動について分からないことや戸惑うことがありましたが、本研究会の活動に参加し、多くの話を聞くことで、私の中にある課題に対する解決の糸口が見出せるようになり、特別活動の大切さにも気づくことができました。

今は、勤務校で担任として、新型コロナウイルスの流行から生徒の活動が十分ではない中、「学校に来ることが楽しいと思えるクラス」「生徒の心に残るような学校行事」をめざし、自分なりに考え、工夫をし、生徒と一緒に過ごす時間を大切にしています。今後も、多くの先生方が受け継がれてきた本研究会の活動を通じて、特別活動を追求し、特別活動の大切さを広めていきたいと思っています。

「44年間の特別活動人生」

練馬区立田柄中学校
主幹教諭 大熊恵子

江戸川区立小松川第二中学校
主任教諭 原 奈都子

「60周年」の大きな節目に、スタッフの一人として活動に参加させていただけたことに感謝しています。ありがとうございます。

私は、初任校では「特別活動」についてほとんど意識することはなかったのですが、私なりに生徒と共に精一杯、毎日学校生活を過ごしていました。「特別活動」を身近に感じたのは2校目、今はもう閉校になってしまった新宿区の学校に異動して、「特別活動研究会」の月例研究会に参加させていただいたときです。特別活動を実践されている先生方が、「特別活動」の内容項目の考え方や、学級で実践されている活動を熱心に話されるのを聞き、いろいろな手法を知ることができました。懇談会では、多くの先生方からたくさんヒントをいただき、気持ちが元気になったことを覚えています。

今年も実施された「生徒会長サミット」は、中学校や都庁など開催場所が変化していますが、コロナで縮小を余儀なくされてもずっと開催し続け、都内の学校の生徒会を元気にしています。この「生徒会長サミット」の素晴らしいところは、生徒だけでなく、生徒引率の先生方も一堂に会して、特別活動や生徒会活動などについて学ぶ時間があることです。

今年、「特別活動研究会」が60周年を迎えられたのは、今までこの会に参加し、運営してきた方々のおかげです。学校生活には欠かせない「特別活動」は、時代の流れに合わせて内容が変化することもあるかもしれませんが、先輩の方々が研究し、築いてきたことを土台にして、今後も「特別活動研究会」が多くの生徒や先生方を支えられるように、発展していくことを願っています。

昭和54年、新規採用教員として大田区立南六郷中学校に赴任しました。教師として子どもたちとの出会いや家庭科の授業に胸膨らませ意気揚々と着任した私は、生徒指導困難校としての現実をまのあたりにしました。

自分の描いていた理想との違いに戸惑い悩み、これから教師を続けられるのかという悶々とした中で、先輩にお声をかけていただき、大田区特別活動部に所属し勉強をさせていただいたのが特別活動との出会いです。「特別活動」が何たるかわからず、無我夢中で学級活動・生徒会活動等々、必死で子供たちと共に様々な事にチャレンジしたことを懐かしく思い出されます。私にとって「特別活動」は教師としての目指す光となりました。その後、研究員等様々な研究を深めるにつれて「特別活動の奥深さ」「特別活動の果たす役割の大切さ」を感じ細々とですが44年学び研究してまいりました。学級活動の時間に子供達が目を輝かせながら話し合い作り上げていく場面を多々経験する中で感動が湧き、生徒会長サミット等で生徒会の生徒が頑張る姿に勇気をもらい、ここまで教師としてやってこれたと感じます。時代は変われども教育における特別活動の果たす役割は重要です。本研究会においても様々な機会を与えていただき、諸先輩はじめ皆様にお力添えをいただき深く感謝いたします。「継続は力なり」教員生活44年特別活動を続けられたことを子供たちに感謝したいと思います。

「私と特別活動」

江戸川区立瑞江中学校
教諭 安藤 大

私は、産休・育休代替教員のころから今まで生徒会活動に携わってきました。そんな中で、生徒会長サミットに参加させていただき、本研究会を知ることができました。自分自身他校の生徒会担当の先生方とお話しさせていただく中で、特別活動を学ぶことができました。また、毎年参加した生徒たちも話し合い活動の中で得た知識を学校に持ち帰り、自分たちの学校をより良くしていこうと以前よりも積極的に活動するようになります。生徒会長サミットは生徒・教員どちらにとってもとても有意義なものになっていると思います。

今年は特別活動研究会の60周年を迎え、この素晴らしい団体に参加できたことを誇りに思います。特別活動を通じて生徒たちとの関わりを深め、教育現場でのさまざまな経験を積むことができました。

しかし、コロナ禍により、生徒会活動も大きく変化しました。学校行事の中止やオンラインでの開催など、新しい形での取り組みが求められる中、私たちは生徒たちとともに、チャレンジ精神を持って取り組んできました。

たとえば、生徒会長サミットのオンラインでの実施やオンラインと対面のハイブリット方式をとることによって今まで、地理的に参加することが困難だった島しょ部の学校も今では参加することができています。

今後も、特別活動を通じて生徒たちとともに、より良い学校づくりを目指していきたいと思います。

新たな船出

練馬区立開進第三中学校
吉田義和

創立60周年、誠におめでとうございます。

私は初任者として赴任した江東区立深川第八中学校で加々美肇校長先生にお声かけいただき、特別活動の研究会に参加させていただくようになりました。その江東区では、高橋良久先生、荒巻淳先生、室井裕勝先生、大塚隆弘先生をはじめ多くの先輩方から厚いご指導をいただき、本領域を指導するうえでの基礎を築くことができました。区中研の一環で行った研究授業に緑川哲夫先生を講師としてお招きし、貴重なご助言を賜ったことも忘れることができません。

平成29年度には東京都の教育研究員として小野博史先生、栗原美絵先生、真辺草平先生と共に「一人一人の自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てる学級活動の工夫」を主題に研究活動を行いました。学習指導要領と向き合い続けたこの期間について様々な思い出がまぶたに浮かびます。特に忘れられないのは、御嶽山での宿泊研修に青木由美子先生と上岡祥邦先生が講師としてご同行くださり、寝食を共にしながら学びを深めたことです。研究の成果は、平成29年度の都中特活研究会および平成31年度の全国大会で発表させていただきました。

研究活動のなかで人との出会いを重ね、その度に新しい視座を得ることができました。心から感謝を捧げるとともに、この節目の年が、輝かしい未来へと続く東京都中学校特別活動研究会の新たな船出となることを祈念しております。

60周年に寄せて

江戸川区立南葛西中学校
教諭 五十嵐 拓

私は、全く「特別活動」と縁のない教員でした。現任校で東京都教育研究員として特別活動の研究をされていた同僚教員が研究員として活躍する姿、特別活動によってクラスが生き生き活動する様子を見て特別活動に興味を持ちました。そして当時の校長、主幹教諭から東京都教育研究員として特別活動を研究する機会をいただき、本研究会との出会いへと繋がっていきました。入会してまだ日が浅く、なかなか会合にも参加できないことが多く申し訳ない思いではありますが、全国大会を大会運営、研究発表者として参加させていただいた際には、全国中学校特別活動研究会会長である荒巻先生をはじめ、本研究会会長滝沢先生、事務局長の瀬戸先生にさまざまなアドバイスをいただきながらとても素晴らしい時間を過ごさせていただき、さまざまな先生方の研究発表などをお聞きすることでこれからの教員人生のヒントを得ることができました。また、私の研究発表に対して、元本研究会会長青木先生からのご助言・ご指導は、私自身の特別活動自体への理解を深め、今後の実践への意欲と知識を与えていただき、「一緒に学んでいきましょう。」との温かい言葉が本研究会の素晴らしさを表現されているのだと改めて感じることができました。今後も本研究会を通してのさまざまな先生方との出会いを大切にして、特別活動のみならず教師としての学びを深めていきたいと考えています。

「何も知らなかった自分」

足立区立第四中学校夜間学級
主任教諭 小野 貴史

私は「特別活動」と聞いて、自分の中学時代を振り返ると席替えをしたりクラスで何かをしたりするぐらいのイメージでしかなかったです。しかし、教職に就き特別活動研究会に出会ってから、私の「特別活動」に対するイメージが一新されました。

最初に取り組んだことは、行事を通して生徒たちの「自己有用感」を高めていくことでした。しかし、生徒たちの「主体性」や「自主性」に力点を置くあまり指導がおろそかになることがありました。そのため、積極的に関わる部分と生徒たちに任せる部分のバランスを上手とることができませんでした。試行錯誤を繰り返していく中で、「PDCAサイクル」を生かして生徒たちの成長につなげられる事後指導が重要である点に気付きました。「振り返り」「改善」「実践」を繰り返し、生徒たちの願いを叶えるようにすることで、「やらされている活動」から「自分たちで作りに上げている活動」へと意識を変化させることができました。

私自身も「特別活動」を通して、教師も一緒に楽しむことの重要性を学びました。学校生活や行事で共に悩んだり、課題を解決したりすることで成長していくことができました。これかも教員人生では学ぶことを大切にし、「特別活動」と共に歩んでいきたいです。

特別活動との出会い

足立区立第四中学校
教諭 高木 真実

特別活動研究会との出会いは、勤務校の先生からの問いかけでした。

教員になって一年目が終わろうとしていた頃、当時、副担任だった私は「二年目から学級を持ったら、どんな学級経営をしますか？」という質問に対し、これという答えを見つけることができませんでした。そんな私に、「特別活動って何だと思いますか？」と問いかけられたことをきっかけに、東京都に特別活動の研究会があることを知りました。当時は新型コロナウイルス感染症の影響により、役員の先生方とお目にかかる機会がなかなかありませんでしたが、生徒会長サミットがオンラインで開催され、見学させていただくことができました。生徒会長サミットでは、司会校の生徒が中心となり、東京都内の中学校の生徒会活動を紹介し合ったり、課題点を共有して解決策を話し合ったりしている姿を目にし、生徒を中心とした特別活動の充実が学校にとって大切であることに気が付くことができました。その後、この一年間、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を意識しながら、学級や行事の運営を行っております。まだまだ改善点は盛りだくさんですが、今後も研究と実践を重ね、特別活動の充実を図れるよう努力いたします。

本研究会の益々の発展により、多くの先生方へ特別活動の理解を広め、都内の中等教育の特別活動の充実につながりますことを期待しております。この度は60周年、誠におめでとうございます。

「教員として成長するために」

足立区立千寿青葉中学校
教諭 入澤 亜矢子

東京都中学校特別活動研究会創立六十周年、誠におめでとうございます。

私と特別活動研究会との出会いは前任校の校長であり、現全日本中学校特別活動研究会会長である荒巻校長先生から誘われたことがきっかけです。

私は担任として勤めた経験が浅く、学級経営においてはまだまだ学ぶことがたくさんあり、試行錯誤の毎日です。この研究会での活動を通じて、多くのことを学び、自分自身が教員としてより成長したいという思いがありました。

昨年11月に行われた東京大会で初めて活動に参加しました。学校教育において特別活動が柱となっていること、学級活動・生徒会活動・学校行事がすべて特別活動であると学びました。そして生徒たちの良さを発見し、伸ばしていくチャンスは学校生活でたくさんあることに改めて気づかされました。

研究協議会では多くの先生方と意見の共有ができ、貴重な時間を過ごすことができました。心も体も大きく変化する中学校生活において、生徒たちが様々な経験を通じて成長することができるように、そして生徒たちが多くの時間を共に過ごす学級が心の居場所になるようにしていきたいです。

今もなお私たちを取り巻く社会は目まぐるしく変化しています。しかしどんな状況であっても、教育がこれからの未来を創っていくと信じ、自分が微力ながらもその手助けができるように、これからも努力していく所存です。

東京都中学校特別活動研究会の今後のますますのご発展をお祈りしています。